

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第350集

# 市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第350集

市部内遺跡発掘調査報告書 正誤表

ページ	行・図・表	誤	正
目次	28行目	RD20, 21, 25, 26	RD21, 25, 26
P 2	28行目	(図版6~7図)	(図版5~7図)
P 7	図中	3 3	●
P 21	1行目	3. IV、層上面	3. IV層上面
P 29	12行目	Z字状やの	Z字状の
P 55	図スケール	1 : 20	1 : 2
P 59	図スケール	1 : 5 20cm	1 : 5 25cm
P 59	図スケール	1 : 4 10cm	1 : 4 20cm
P 61	図スケール	1 : 20	1 : 2
P 68	図スケール	1 : 20	1 : 2
P 81	表13行目	突起 R1	突起 RL
P 83	表20行目	突起 C字御	突起 C字文

いちべない

# 市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

## 序

岩手県は、埋蔵文化財の宝庫だと言われております。この先人達が遺した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。また、一方では幹線道路網の整備など、社会資本を充実させていくことも行政上重要な施策であります。このため、埋蔵文化財の保護と地域開発の調和ということも、今日的課題であります。こうした見地から、財団法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターを創設以来、岩手県教育委員会文化課による発掘調査事業の調整と指導のもとに、道路建設などに関連してやむを得ず消滅してゆく遺跡についての発掘調査を実施し、発掘調査報告書として記録保存する措置を取ってまいりました。

本報告書は、「主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業」に関連して、平成11年度に実施した市部内遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。

今回の調査によって、縄文時代晚期とおもわれる貴重な住居跡・土坑などの遺構や、土器などの遺物が検出され、縄文時代の集落跡であることが確認され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財にたいする理解をいっそう深めることに役立つことになれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご援助を賜りました盛岡地方振興局・葛巻町教育委員会はじめ、関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成13年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 千葉 浩一

## 例　　言

1. 本報告書は岩手県岩手郡葛巻町田部字市部内30番地-1ほかに所在する市部内遺跡の調査結果を収録したものである。
2. 本調査は県道・戸葛巻線道路改良工事にともない遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は岩手県盛岡地方振興局土木部と岩手県教育委員会文化課との協議をへて、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号は、JF52-1213、遺跡略号はIBN-99である。
4. 調査面積は2,500m<sup>2</sup>で野外調査期間は平成11年6月1日～平成11年8月15日である。
5. 室内整理期間は、平成11年11月1日～平成12年3月31日である。
6. 野外調査は、中田迪・鳥居達人が担当した。
7. 本書の原稿執筆・編集は中田迪が担当した。
8. 出土品の分析・鑑定は次の機関に依頼した。

石材鑑定	花崗岩研究会
火山灰分析鑑定	(株)古環境研究所
9. 本報告書では、国土地理院発行の50,000分の1の地形図、岩手県盛岡地方振興局作成の500分の1の地形図を1,000分の1に縮小したものを使用した。
10. 土層の色調観察には、農林水産技術協会事務局監修の「新版標準土色張」を用いた。
11. 基準点測量は岩手開発測量設計株式会社に依頼した。
12. 空中写真撮影は東邦航空株式会社に依頼した。
13. 野外調査では市部内地区、葛巻町をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
14. 室内整理では青森県立郷土館鈴木克彦氏のご教示とご助言を賜った。
15. 調査にかかわる諸記録及び遺物等の資料は、岩手県埋蔵文化財センターに保管してある。

## 本文目次

I. 調査に至る経過	1	R D 3 1, 3 2	43
II. 遺跡の立地と環境	2	(3) 墓 墓	43
1. 遺跡の位置及び地理的環境	2	R T 0 1	43
2. 囲辺の遺跡	2	R T 0 2, 0 3, 0 4, 0 5	45
III. 調査の方法と室内整理の方法	12	(4) 埋設上器	47
1. 調査方法	12	R Z 0 1, 0 2, 0 3	47
2. 室内整理方法	12	R Z 0 4	47
IV. 検出された遺構と遺物	16	(5) 溝跡	49
1. 基本土層	16	(6) 配石遺構	49
2. Ⅲ層上面の検出遺構	16	(7) 挖立柱建物跡	49
(1) 焼土遺構	16	R B	49
R F 0 1, R F 0 2, R F 0 3,	16	V. 遺構外出土遺物	52
R F 0 4, R F 0 5, R F 0 6,	17	1. 土器	52
R F 7	17	2. 土製品	52
(2) 柱穴状土坑群	17	3. 石器	52
(3) 故間状遺構	17	VI. まとめ	74
3. Ⅳ層上面の検出遺構(縄文時代)	21	1. 遺構	74
(1) 積穴住居跡	21	2. 遺物	74
R A 0 1, R A 0 2,	21	VII. 火山灰分析	75
R A 0 3	23	1. はじめに	75
R A 0 4, R A 0 5, R A 0 6,	27	2. 分析試料	75
R A 1 2, R A 1 3	29	3. 分析・測定方法	75
(2) 上坑	32	4. 分析結果	75
R D 0 5, 0 6, 0 7	32	5. まとめ	76
R D 0 8, 1 0, 1 1	34	表 1・2・3	
R D 1 3, 1 4, 1 5,	36	図 1	
R D 1 6, 1 7, 1 9, 2 0	37	引用参考文献	86
R D 2 0, 2 1, 2 5, 2 6	39		
R D 2 7, 2 8, 2 9, 3 0	41		

## 図版目次

第1図 岩手県全図	2	第26図 27~30号土坑	R D27~30	42
第2図 遺跡位置図	3	第27図 31~32号土坑	R D31~32	44
第3図 地形区分図	4	第28図 1~5号墓塙	R T01~05	46
第4図 周辺の地形と調査区	5	第29図 1~4号埋設土器	R Z01~04	48
第5図 周辺の遺跡図① 馬淵川中流域・ 田部・葛巻地区	6	第30図 溝跡	R G01	50
第6図 周辺の遺跡図② 馬淵川上中流域・ 葛巻・江刈地区	7	第31図 配石遺構・掘立柱建物跡 R B		51
第7図 周辺の遺跡図③ 馬淵川上流域・ 江刈地区	8	第32図 R F01~R A01~02(1)出土遺物		54
第8図 グリッド設定図	13	第33図 R A02(2)出土遺物		55
第9図 II区遺構配置図	14	第34図 R A03(1)出土遺物		56
第10図 III区遺構配置図	15	第35図 R A03(2)~04(1)出土遺物		57
第11図 基本土層	16	第36図 R A04(3)~05~06出土遺物		58
第12図 1~4号焼土・柱穴状小土坑群	18	第37図 R A12出土遺物		59
第13図 5~7号焼土	19	第38図 R A13出土遺物		60
第14図 突間状遺構	20	第39図 R D05~06出土遺物		61
第15図 1号堅穴住居跡 R A01	22	第40図 R D07~08出土遺物		62
第16図 2号堅穴住居跡 R A02	24	第41図 R D11出土遺物		63
第17図 3号堅穴住居跡 R A03	25	第42図 R D13~14~16~20· RD21~25~26出土遺物		64
第18図 4号堅穴住居跡 R A04	26	第43図 R D27~28~29出土遺物 R T01~04号墓塙出土遺物		65
第19図 5~6号堅穴住居跡 R A05~06	28	第44図 1~2号埋設土器		66
第20図 12号堅穴住居跡 R A12	30	第45図 3~4号埋設土器 溝状遺構出土遺物		67
第21図 13号堅穴住居跡 R A13	31	第46図 遺構外出土遺物(上器1)		68
第22図 5~8号土坑 R D5~8	33	第47図 遺構外出土遺物(上器2)		69
第23図 10~11~13~14号土坑 R D10~11~13~14	35	第48図 遺構外出土遺物(上器3)		70
第24図 15~17~19号土坑 R D15~17~19	38	第49図 遺構外出土遺物(土器4・上製品)		71
第25図 20~21~25~26号土坑 R D20~21~25~26	40	第50図 遺構外出土遺物(石器1)		72
		第51図 遺構外出土遺物(石器2・石製品)		73

## 写真図版目次

写真図版 1 遺跡遺景・近景・遺跡II区全景	… 89	写真図版19 5号墓壙・1～3号埋設土器	
写真図版 2 各地域完壙	… 90	R Z 1～3	… 107
写真図版 3 1～5号施土	R F 01～05	R Z 4	
写真図版 4 6号施土・柱穴状小土坑	R F 06	埋設土器列	… 108
		掘立柱建物跡	R B
		柱穴・配石構造	
写真図版 5 故間状遺構・遺物出土状況他	… 93	溝跡	R G …… 109
写真図版 6 1号堅穴住居跡	R A 01	写真図版22 遺構内出土遺物(1)	… 110
写真図版 7 2号堅穴住居跡	R A 02	写真図版23 遺構内出土遺物(2)	… 111
写真図版 8 3号堅穴住居跡	R A 03	写真図版24 遺構内出土遺物(3)	… 112
写真図版 9 4号堅穴住居跡	R A 04	写真図版25 遺構内出土遺物(4)	… 113
写真図版10 5・6号堅穴住居跡	R A 5・6	写真図版26 遺構内出土遺物(5)	… 114
写真図版11 12・13号堅穴住居跡	R A 12・13	写真図版27 遺構内出土遺物(6)	… 115
写真図版12 5～8号土坑	R D 5・6	写真図版28 遺構内出土遺物(7)	… 116
	R D 7・8	写真図版29 遺構内出土遺物(8)	… 117
写真図版13 8・10・11号土坑	R D 8・10	写真図版30 遺構内出土遺物(9)	… 118
	R D 11	写真図版31 遺構内出土遺物(10)	… 119
写真図版14 13～16号土坑	R D 13～16	写真図版32 遺構内出土遺物(11)	… 120
	… 102	写真図版33 遺構外出土遺物(土器1)	… 121
写真図版15 17・19～21号土坑	R D 17・19	写真図版34 遺構外出土遺物(土器2)	… 122
	R D 20・21	写真図版35 遺構外出土遺物(土器3)	… 123
写真図版16 25～29号土坑	R D 25～29	写真図版36 遺構外出土遺物(土製品・石器1)	… 124
写真図版17 30～32号土坑	R D 30～32	写真図版37 遺構外出土遺物(石器2・石製品)	… 125
写真図版18 1～4号墓壙	R T 1～4		



## I. 調査に至る経過

市部内遺跡は、「主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業」の施工に伴って、その事業地域内に位置することから発掘調査することとしたものである。†

当事業は主要地方道一戸葛巻線のうち、葛巻町内で唯一の未改良区間となっている市部内地区の道路改良事業である。

事業実施に伴って、周知の埋蔵文化財包蔵地である市部内遺跡（J F 52-1213）の存在が明らかとなり、これに係わる取り扱いについて、岩手県盛岡地方振興局と岩手県教育委員会の間で協議を重ね平成10年7月22日には埋蔵文化財の内容把握のために試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期と考えられる土器の他、住居跡と考えられる遺構が発見されたことにより、工事施工に伴って事前に発掘調査が必要である旨を盛岡地方振興局に回答した。

回答を受けた盛岡地方振興局では、教育委員会からの「平成11年度における埋蔵文化財関連開発事業計画について」の事業照会にたいして、平成11年度事業として取り上げるよう依頼した。事業集約をした教育委員会では、盛岡地方振興局に対して平成11年度の財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業として発掘調査を実施する旨を通知し、併せて財団法人岩手県文化振興事業団にも同様の通知をした。

(盛岡地方振興局土木部)

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 遺跡の位置及び地理的環境(第2図)

市部内遺跡の所在する葛巻町は、岩手県内陸北西寄りに位置し、東は山形村と岩泉町、南は玉山村西は岩手町、北は一戸町と九戸村と接する。面積約433.87km<sup>2</sup>、人口は平成11年現在約1万人強である。年平均気温は8~9℃と低く、特に冬季は厳寒の地の一つとされている。降水量も年間1,200mm以下と県内でも少ない方である。

葛巻町は北上山地の北部に当たり、標高1,000mを越す峰もいくつもあり、準平原とはいえ急峻な地形も多い。町の中央を流れる馬瀬川は、東部の袖山に源を発し、外山川や山形川と町域中央付近で合流して北流し、さらに星野川など大小の河川と合流し、一戸町に入り二戸市で安比川と合流し、八戸市で太平洋に注ぐ。馬瀬川の上流域にあたる当地は谷底平野や山麓緩斜面の発達も狭いが、川沿いには耕地が開け、稲作・たばこ・飼料作物などが栽培されている。

町域の7割以上が標高400~800mの高地にあり、森林面積も84%を占めており、林業と酪農を経済基盤としている。本県酪農の先進地区の一つとして発展し、北上山系大規模畜産開発事業が進められ、袖山高原や塚森高原、土谷川高原などに草地造成が行われ、畜産公社による粗飼料生産が行われている。乳牛頭数は8,300頭を越している。

市部内遺跡は、葛巻町北部の田部地区の北西寄りに位置する。馬瀬川に沿って造られた県道一戸葛巻線のほぼ中央付近に当たるが、一戸町にかなり近い位置にある。川の両岸は山並みが迫り、段丘の発達規模が小さく、谷底平野や山麓緩斜面の発達も狭い地域である。遺跡はこの馬瀬川左岸に作られた段丘上に立地し、標高273m~276m、現河床からの比高約10~15mである。北緯40°7'21"、東經141°22'34"付近に位置する。遺跡西側には湧水量豊富な泉があり、周辺住民の憩いの場となっている。

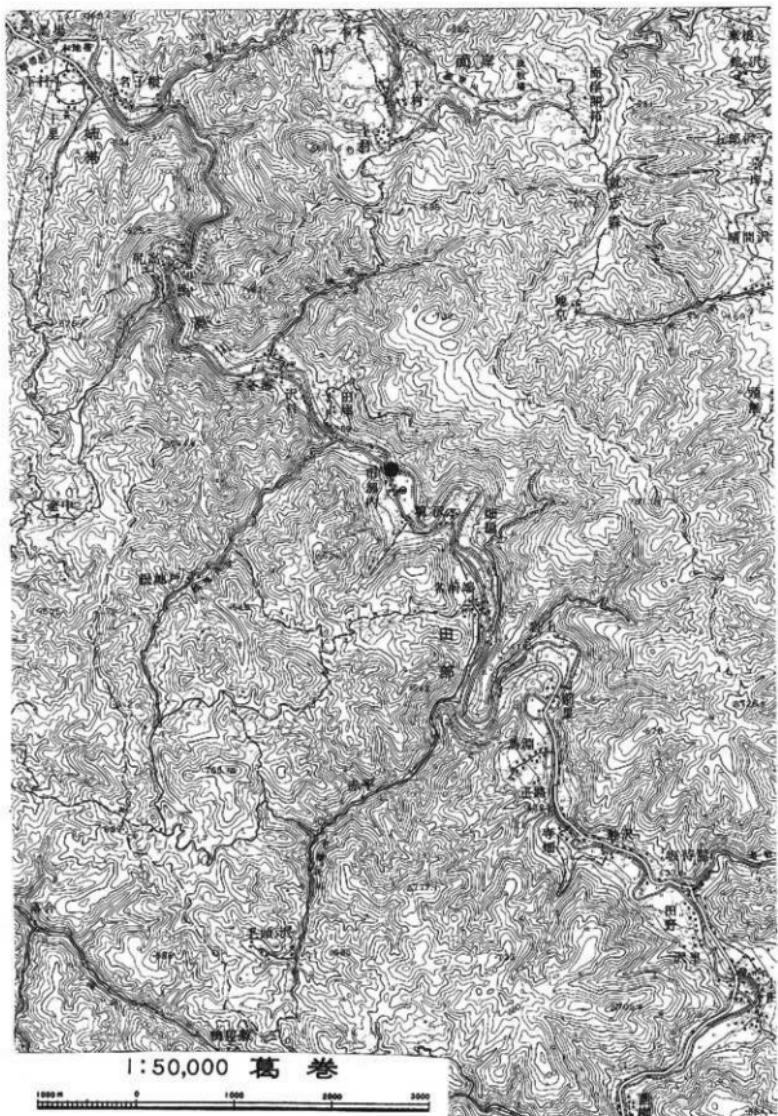
### 2. 周辺の遺跡（図版6~8図）

岩手県遺跡台帳によると、平成11年3月現在葛巻町内には、117の遺跡が登録されている。その内訳は縄文時代83カ所、中世城館32カ所、弥生時代遺跡、旧石器時代遺跡1カ所で、複合遺跡もある。このほかにも近世鉄山跡・洞穴遺跡など未登録の遺跡もある。

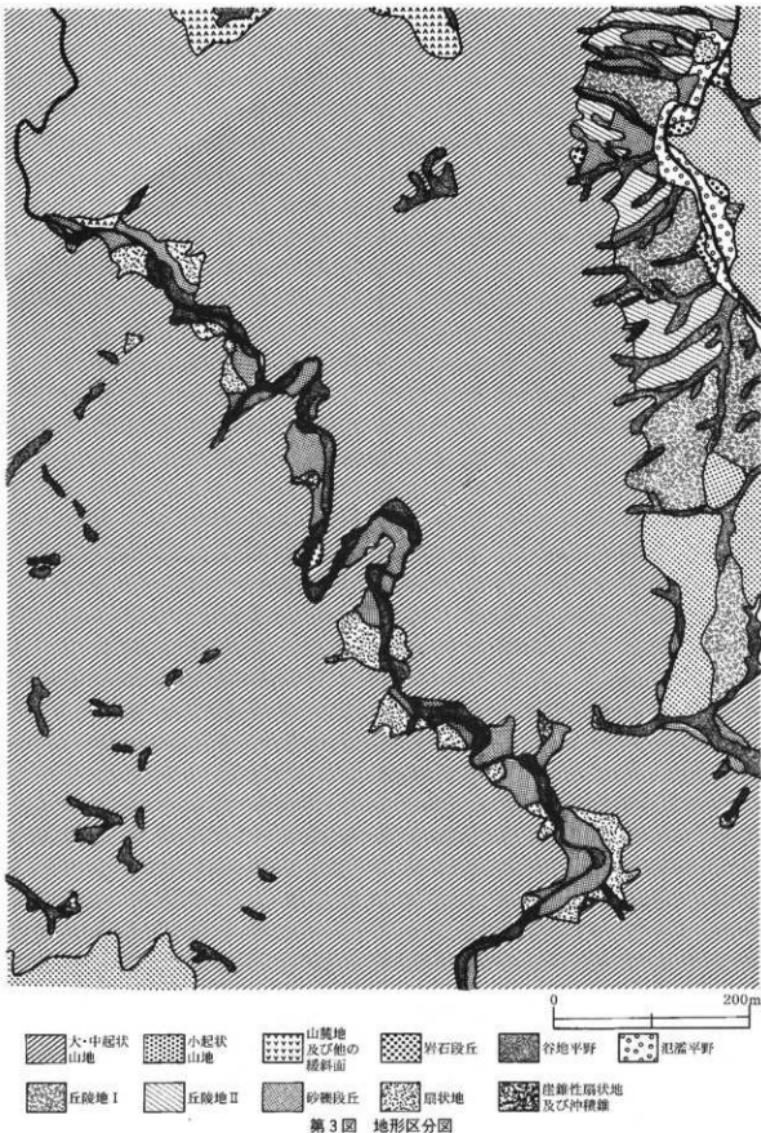
これまでに発掘調査された遺跡は、約3千年前の後期旧石器時代にあたる「泥這遺跡」が唯一で、ここからは平地住居跡と石斧・尖頭器等の石器が出土している。市部内遺跡の調査は、縄文時代遺跡として初めてであるが、本格的な発掘調査として町民の关心を集め、この市部内遺跡の調査に少し遅れて、岩手県教育委員会文化課と葛巻町教育委員会による品井沢遺跡の調査も行われている。

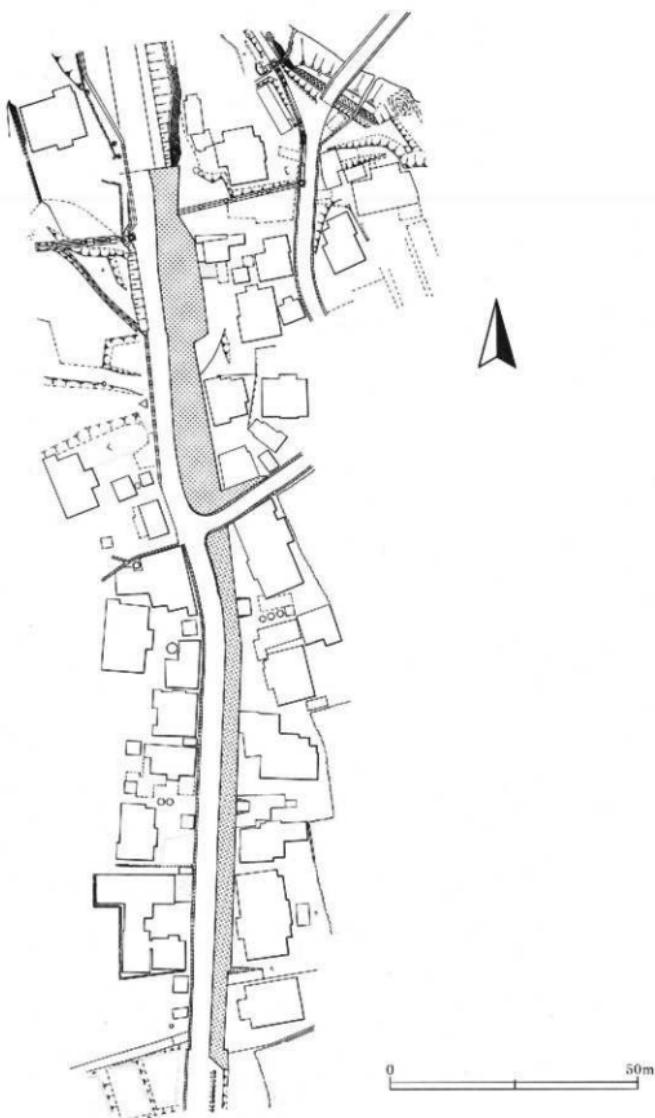


第1図 岩手県全図

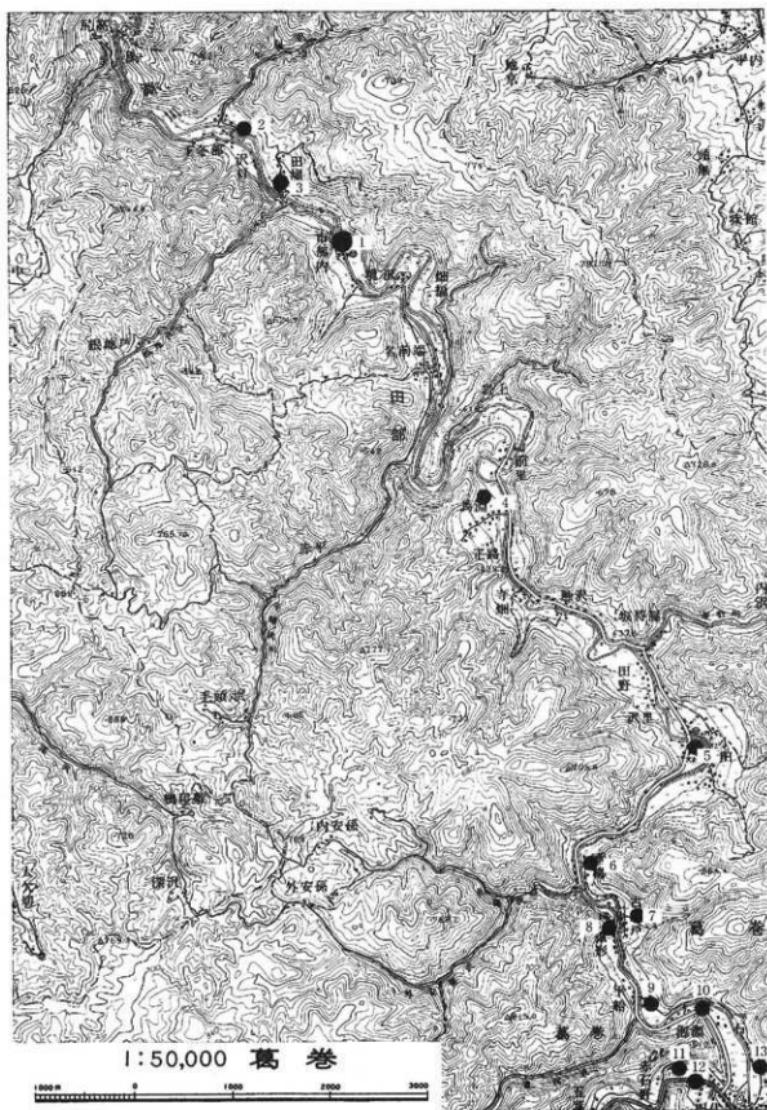


第2図 遺跡位置図

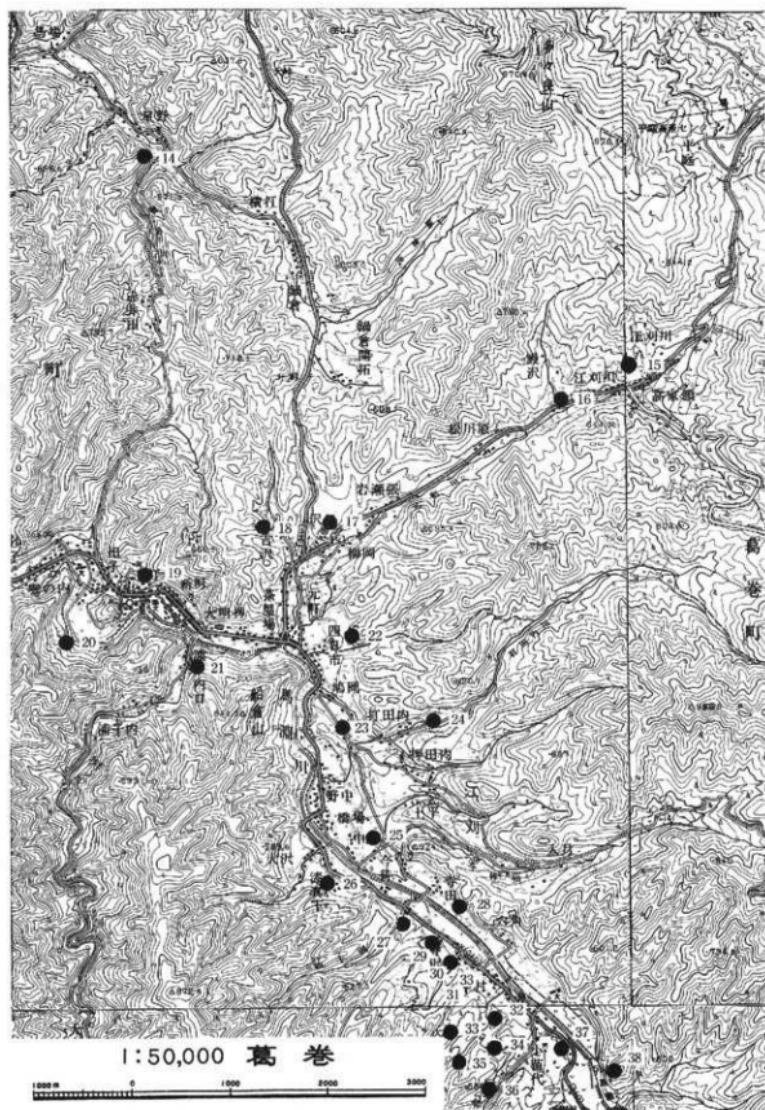




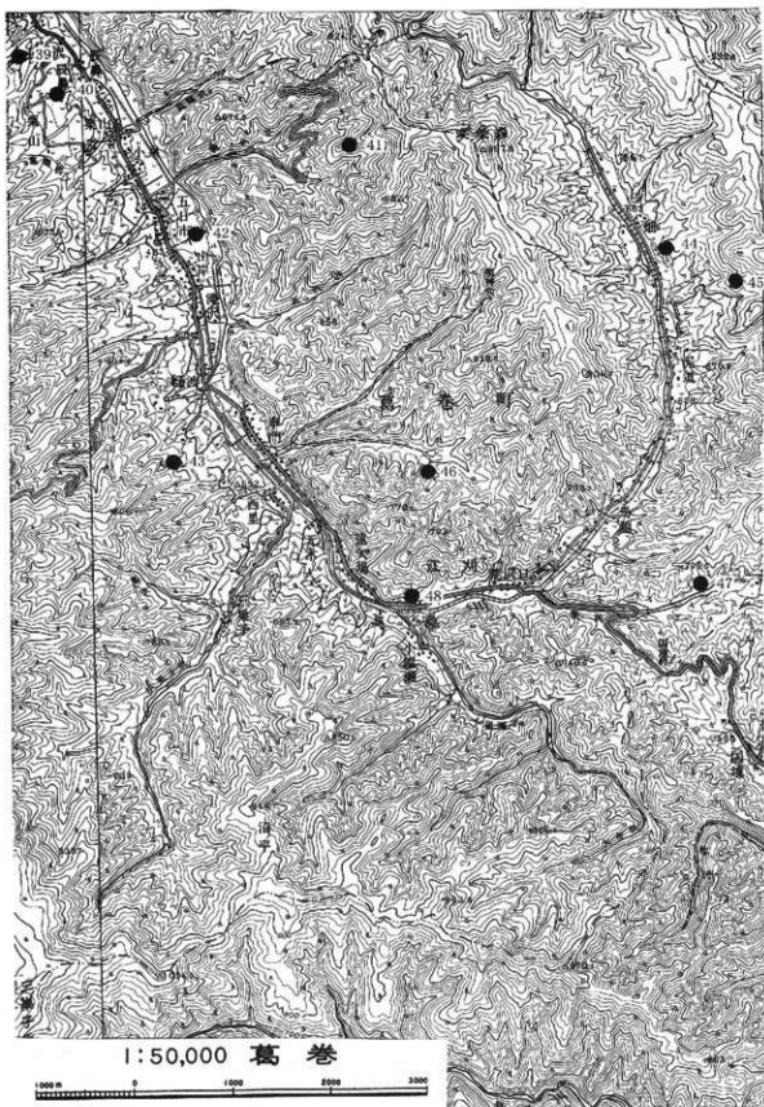
第4図 周辺の地形と調査区



第5図 周辺の遺跡① 馬瀬川中流域・田部・葛巻地区



第6図 周辺の遺跡② 馬淵川上中流域・萩巻・江刈地区



第7図 周辺の遺跡③ 馬瀬川上流域・江戸地区

## 市部内遺跡 周辺の遺跡一覧表（葛巻町）

その1

No.	遺跡名	種別	時代	遺構	遺物	所在地
1	市 部 内	散 布 地	縄 文	縄文土器、石器		田部字市部内
2	正 福 寺	散 布 地	縄 文	縄文土器		田部字冬部
3	冬 部 田 屋	散 布 地	縄 文	縄文土器		田部字冬部
4	下 馬 潤	散 布 地	縄 文	土器		田部字下馬潤
5	ウ シ 口	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）		葛巻字小田
6	垂 柳	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）		葛巻垂柳
7	古 川 戸	散 布 地	縄 文	縄文土器		葛巻古川戸
8	猿 方	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）		葛巻猿方
9	平 船	散 布 地	縄 文	縄文土器		葛巻平船
10	泡 渚	散 布 地	縄 文	縄文土器		葛巻泡渕
11	赤 平 野	散 布 地	縄 文	縄文土器		葛巻赤平野
12	野 里	散 布 地	縄 文	縄文土器、石器		葛巻字田代
13	二 ツ 石	散 布 地	縄 文	縄文土器		葛巻二ツ石
14	堀 田	散 布 地	縄 文	縄文土器（後期）		田部字堀田
15	江 刈 川	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈内字江刈川
16	船 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈内字江刈川
17	上 平 館	城 館 跡	縄文～中世	土塁		葛巻字元町
18	乱 吉 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器、石器		葛巻字元町
19	葛 卷 館	城 館 跡	縄文～中世	縄文土器、空櫓、礎石		葛巻字下町
20	更 の 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）		葛巻字更の沢
21	藏 船	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）、フレーク		葛巻字浦子内
22	小 森	散 布 地	縄 文	石器		江刈字四日市
23	鳩 岡 館	城 館 跡	縄文～中世	縄文土器、郭、土塁、竪穴、二重空掘		江刈字鳩岡
24	打 田 内	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字打田内
25	入 月	散 布 地	縄 文	縄文土器、石器		江刈字入月
26	戸 花 館	散布地、城館跡	縄文～中世	土器、石器、平場、空掘		江刈字大沢
27	高 屋 敷	散 布 地	縄 文	土器器、須恵器		江刈字寺田向
28	寺 田	散 布 地	縄 文	土器		江刈字寺田
29	八 森	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字寺沢
30	中 里	散 布 地	縄 文	土器		江刈字寺沢
31	御 堂 寺 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器、上師器、須恵器		江刈字中村
32	庵 畑	散 布 地	縄 文	縄文土器、須恵器		江刈字小苗代
33	天 满	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字小沢口
34	駒 沢	散 布 地	縄 文	土師器、須恵器		江刈字小苗代
35	中 平	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字中村
36	品 井 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字小苗代
37	小 甫 代	集 落 跡	縄 文	縄文土器、石器		江刈字小苗代
38	泉 田	散 布 地	縄 文	縄文土器（晚期）		江刈字泉田
39	小 平 沢	散 布 地	縄 文	縄文土器		江刈字小平沢
40	栄 山	散 布 地	縄 文	縄文土器（後・晚期）、石器		江刈字栗山

No.	遺跡名	種別	時代	遺構	遺物	所在地
41	さる穴	洞穴遺跡	縄文	縄文十器、石器		江刈字五日市
42	五日市	散布地	縄文	縄文十器(晚期)、土器、石器		江刈字五日市
43	車門向	散布地	縄文	縄文土器		江刈字車門
44	畑	散布地	縄文	縄文土器、土偶		江刈字畑
45	泥道	散布地	後期旧石器	石斧、尖頭器、石器、柱穴(13)		江刈字泥道
46	明神穴	洞穴遺跡	縄文			江刈字車門
47	荒沢	散布地	縄文	縄文上器(中期)		江刈字
48	遠矢場	散布地	縄文	縄文上器、石斧		江刈字遠矢場
49	中沢・山の神	散布地	縄文	縄文上器(後期)、石器		葛巻字中沢
50	宇別		縄文	縄文上器		葛巻字宇別
51	宇別上平		縄文	縄文上器		葛巻字宇別
52	宇別首神		縄文	縄文上器		葛巻字宇別
53	星野	散布地	縄文	縄文上器		葛巻字星野
54	小屋敷	散布地	縄文	縄文上器		葛巻字中屋敷
55	櫛ノ木		縄文	縄文上器		葛巻字櫛ノ木
56	中館	城館跡	縄文～中世	縄文上器		葛巻字田子向
57	九蔵坂	散布地	縄文	縄文上器(後期・晚期)、石器		葛巻字九蔵坂
58	高宮寺	散布地	縄文	土器、須恵器、社堂跡、室跡		江刈字中村
59	七谷川	散布地	縄文			葛巻字七谷川
60	志民沢	散布地	縄文	縄文土器片		元木志民沢
61	烟沢	散布地	縄文	縄文土器(前・晚期)		葛巻字只見
62	大石	散布地	縄文	縄文土器(後・晚期) 石器、土偶		葛巻字大石
63	高煙	散布地	縄文	縄文土器		江刈字栗山
64		散布地	縄文	縄文土器		江刈字栗山
65	キツネ塗	散布地	縄文	縄文土器		江刈字小泉
66	丹内沢	散布地	縄文	縄文土器		江刈字栗山
67	相野	散布地	縄文	縄文土器、石器		葛巻字尻喰
68	愛羅瀬	散布地	縄文	縄文土器		葛巻字愛羅瀬
69	シッペナイ	散布地	縄文	縄文土器		江刈字五日市
70	日影平	散布地	縄文	縄文土器		江刈字山岸
71	和山石沢	散布地	縄文	縄文土器		江刈字山岸
72	焼野	散布地	縄文	縄文土器		江刈字山岸
73	宇堂水	散布地	縄文	縄文土器		江刈字龍沢
74	平	散布地	縄文	縄文土器		江刈字日渡
75	中塙	散布地	縄文	縄文土器		江刈字日渡
76	横道	散布地	縄文	縄文土器		江刈字日渡
77	館塙	散布地	縄文	縄文土器		江刈字龍沢
78	近内沢	散布地	縄文	縄文土器		江刈字龍沢
79	向山	散布地	縄文	縄文土器		江刈字中門
80	車門向	散布地	縄文	縄文土器(晚期)		江刈字中門

No.	遺跡名	種別	時代	遺構	遺物	所在地
81	コイ下	散布地	縄文	縄文土器		江戸字西里
82	戸草沢	散布地	縄文	縄文土器		葛巻字戸草沢
83	鳩岡	散布地	縄文	縄文土器		江戸字鳩岡
84	荒谷	散布地	縄文	縄文土器(晚期)、石器		葛巻字荒谷
85	宇別東館	城館跡	中世			大字宇別
86	田屋館	城館跡	中世	空堀		田屋字田屋
87	冬部館	城館跡	中世	石器、堀切、竪穴、(3~4)、平場、腰郭		田部字市部内
88	寺畠館	城館跡	中世	堀、平場		田部字寺畠
89	扇ノ沢館	城館跡	中世	堀、平場(3段)		葛巻字小田
90	星野館	城館跡	中世	堀、土塁		葛巻字星野
91	耕雲寺経	塚	中世			葛巻字小田
92	小田館	城館跡	中世	堀、平場		葛巻字小田
93	猿方館	城館跡	中世			葛巻字猿方
94	高家領館	城館跡	中世			江戸内字高家領
95	樅ノ木館	城館跡	中世	堀、平場		葛巻字樅ノ木
96	中沢館	城館跡	中世	堀、平場		葛巻字中沢
97	上野沢館	城館跡	中世	堀切、平場		葛巻字田代
98	鏡沢館	城館跡	中世			葛巻字田子
99	八幡館	城館跡	中世			葛巻字田子
100	長者久保	城館跡	中世			葛巻字新町
101	元町館	城館跡	中世	三重空堀、平場、堀切、土塁		葛巻字元町
102	大石館	城館跡	中世	平場		葛巻字大石
103	真下館(大沢館)	城館跡		二郭、空堀		
104	宗光館(江戸城)	城館跡	中世	堀切、平場、土塁		江戸字寺田
105	小屋瀬館	城館跡	中世	平場(4~9段) 竪穴(31)		葛巻字小瀬屋
106	くれ坪館	城館跡	中世	堀		江戸字小苗代
107	泉出館(高館)	城館跡	中世	不明		江戸字泉田
108	栗山向館	城館跡	中世			江戸字栗山
109	豊沢館	城館跡	中世	空堀、土塁、三重堀、平場		葛巻字豊沢
110	荒谷館	城館跡	中世	腰郭、堀切、住居跡		葛巻字荒谷
111	山王館	城館跡	中世	平場、腰郭		江戸字淹沢
112	車門向館	城館跡	中世	堀、腰郭		江戸字車門
113	車門五輪塔	五輪塔	中世	五輪塔		江戸字車門
114	泥道館	城館跡	中世	空堀、平場(6段)、竪穴		江戸字泥道
115	西里館	城館跡	中世	堀		江戸字西里
116	木本館	城館跡	中世	空堀、虎口、平場		江戸字木本
117	向田代	散布地	弥生	弥生土器		葛巻字田代

### III 調査の方法と室内整理の方法

#### 1. 調査方法

##### (グリッド) の設定 (図版8図)

調査地は県道に沿って南北に細長く続いているので、第X系に沿ったグリッドを設定した。北から南に向かって50mごとにI～V区に大別し、さらに各区の中を細分し5mごとに北から南に1～10、東から西にa～jとし、それらの組み合わせでII 7 eグリッドとかIII 6「グリッドなどと呼ぶことにした。基準とした杭の座標位置は、基準点1がX=13,765.000m, Y=46,270.000m、標高273.512m、基準点2がX=13,635.000m, Y=46,285.000m、標高276.512mである。

##### (発掘の手順)

掘掘の前に1～Vの各区に試掘トレーンを入れ、基本土層を確認した。炭化物や焼上が混入するⅢ層までバックホーで除去し、遺構検出・精査後人力で、掘り下げて、さらに遺構検出・精査を行った。精査は住居跡を4分法、それ以外は2分法を基本とし、遺構状況に応じて行った。

##### (実測の方法)

実測は基本的に埋土の断面、及び平面、炉の断面、遺物出土状況などについて行った。平面実測は直角座標系に合わせたグリッド杭を基準にして、簡易造り方で行った。縮尺は20分の1を原則とし、遺構状況によつては10分の1の図面も作成した。

##### (写真撮影)

写真撮影は35mmカメラでモノクロと、カラーリバーサルで記録することを原則としたが、場合によっては6×7版も使用した。また、ボラロイドカメラを補助的に使用し、フィールドカードの観察記録も作成した。調査終了後にセスナ機による航空写真撮影も行った。

##### (遺構の名称)

遺構の名称は検出順に1号・2号…としたが、精査中に状況が変わり、名称が変更になったり、欠番になったものもある。また、遺構の種類ごとに、住居跡はR A、建物跡はR B、上坑はR D、焼土遺構はR F、墓塚はR T、埋設上器はR Z、溝跡はR G、を頭に付した。

##### (遺物の取り上げ)

遺物の取り上げは遺構ごとに、また、層位ごとに行った。遺構外の遺物についてはグリッドごとに層位を分けて行った。

#### 2. 室内整理方法

##### (遺構図面)

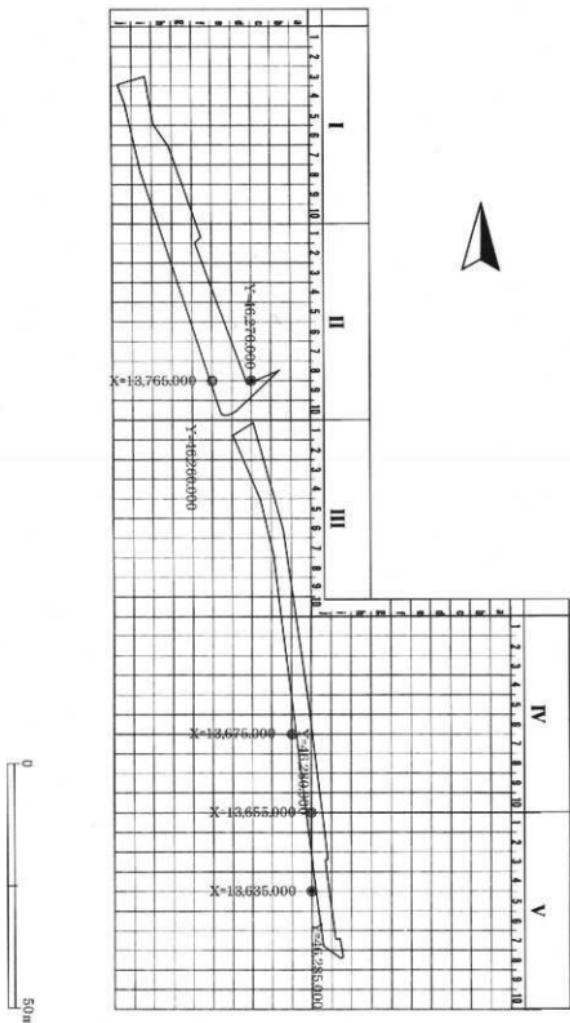
遺構実測図は点検後、分解あるいは接合を行い、遺構ごとにトレースした。また併せて遺構配置図も作成した。トレース終了後の図面は点検後図版作成を行った。

##### (遺物の処理)

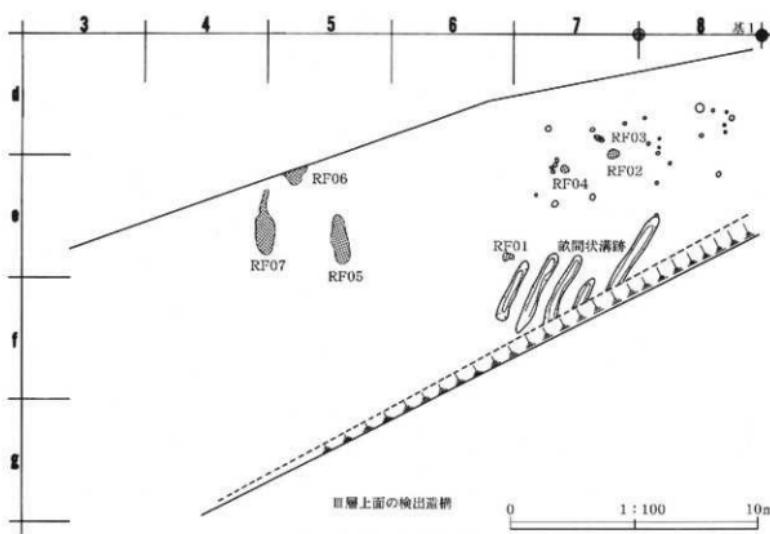
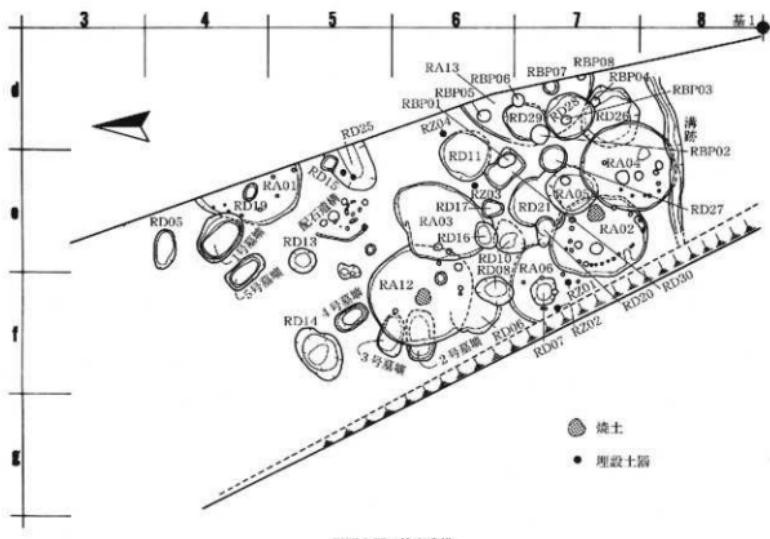
遺物は水洗い後、遺跡略号・出土地等を注記し、可能な限り接合復元をした。その後器種ごとに分けて収録し、写真撮影と実測を行った。実測図は点検後トレースし遺構ごとに図版を作成した。

##### (図版の縮尺)

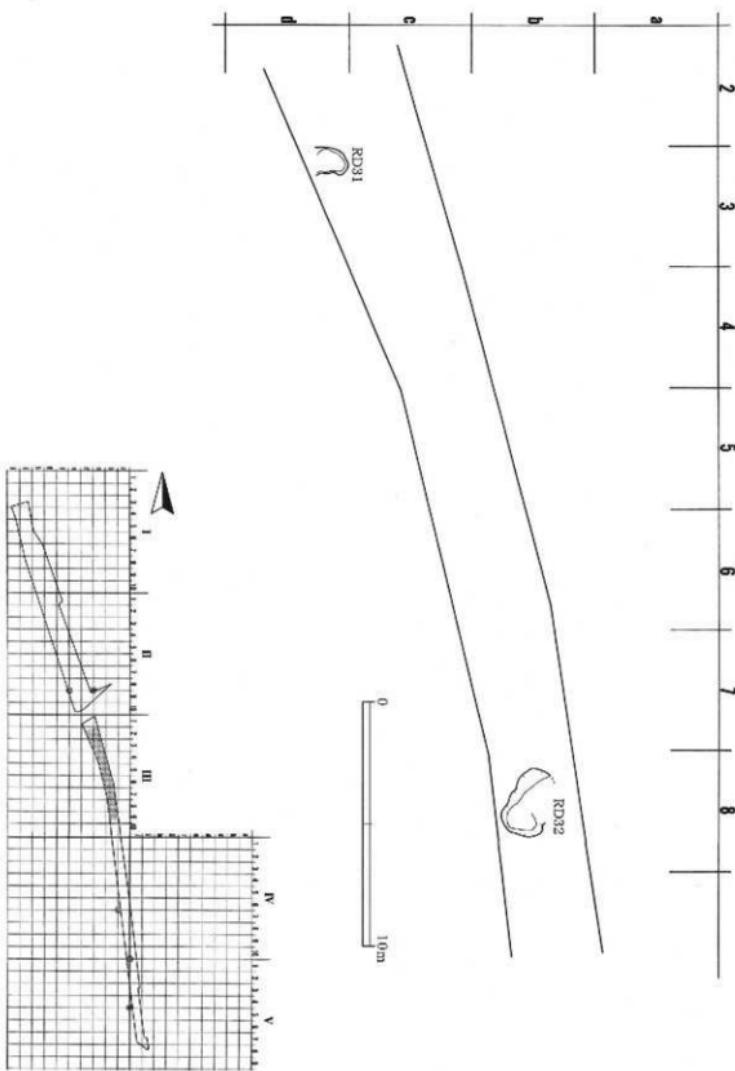
図版作成は遺構番号順に行い、仕上り寸法は原則として10分の1とした。任意縮尺のものにはスケールを付した。遺物図版の縮尺は土器土製品が3分の1、石器は2分の1を基本とし、スケールを付した。写真図版については、遺構は任意縮尺、遺物はすべて3分の2で掲載した。



第8図 グリット設定図



第9図 (1) II区遺構配置図



第10図 (2)Ⅲ区造構配置図

## IV 検出された遺構と遺物

### 1. 基本土層

I区からV区までだいぶ様相が異なるが、遺構が多く検出されたII区付近の上層は図のようになる。

I層 10YR 2/3 黒褐色土 表土で碎石等の盛土層である。

層厚約30cm

II層 10YR 2/1 黒色土 炭化物や焼土が含まれている。

層厚20~30cm

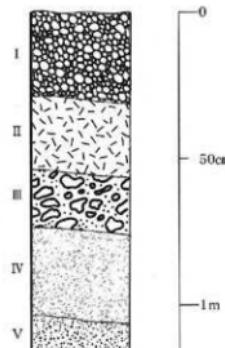
III層 10YR 2/2 黒褐色土 織や縄文時代の遺物を多く含む。

層厚約20cm

IV層 10YR 4/2 黄褐色土 砂質土で上面が縄文時代の遺構検出面である。縄文土器片や織を含む。

層厚は約30cm

V層 碓層 段丘疊層 層厚不明



第11図 基本土層

### 2. III層上面の検出遺構

III層上面で検出されたのは焼土遺構7、柱穴状土坑群1、畝間状遺構群1である。

#### (1) 焼土遺構

R F 0 1 焼土遺構 (第12図、写真図版3)

〈位置・検出面〉 II区6eグリッドに位置し、III層上面で検出した。

〈規模〉 43cm×30cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大16cmである。

〈伴出遺物〉 (図版32-1、写真図版22-1)

焼土上位の埋土から出土している。32-1は深鉢口縁部で口唇押圧・口縁部に横平行沈線・内面沈線の施文が、施されている。

〈時期〉 検出層位から縄文時代より新しい。

R F 0 2 焼土遺構 (第12図、写真図版3)

〈位置・検出面〉 II区7dグリッドに位置し、III層上面で検出した。

〈規模〉 42cm×36cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大20cmである。

〈伴出遺物〉 出土遺物なし

〈時期〉 検出層位から縄文時代より新しい。

R F 0 3 焼土遺構 (第12図、写真図版3)

〈位置・検出面〉 II区7eグリッドに位置し、III層上面で検出した。

〈規模〉 20cm×31cmの範囲にいびつな三角形状に広がる。厚さは最大24cmである。

〈伴出遺物〉 出土遺物なし

〈時期〉 検出層位から縄文時代より新しい。

#### R F 0 4 焼土遺構（第12図、写真図版3）

- （位置・検出面） II区7cグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。  
（規模） 36cm×26cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大10cmである。  
（伴出遺物） 出土遺物なし  
（時期） 検出層位から縄文時代より新しい。

#### R F 0 5 焼土遺構（第13図、写真図版3）

- （位置・検出面） II区5eグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。  
（規模） 50cm×13cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大20cmである。  
（伴出遺物） 出土遺物なし  
（時期） 検出層位から縄文時代より新しい。

#### R F 0 6 焼土遺構（第13図、写真図版4）

- （位置・検出面） II区5eグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。  
（規模） 東側は調査区外に続くが、24cm×15.5cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大11cmである。  
（伴出遺物） 出土遺物なし  
（時期） 検出層位から縄文時代より新しい。

#### R F 0 7 焼土遺構（第13図、写真図版なし）

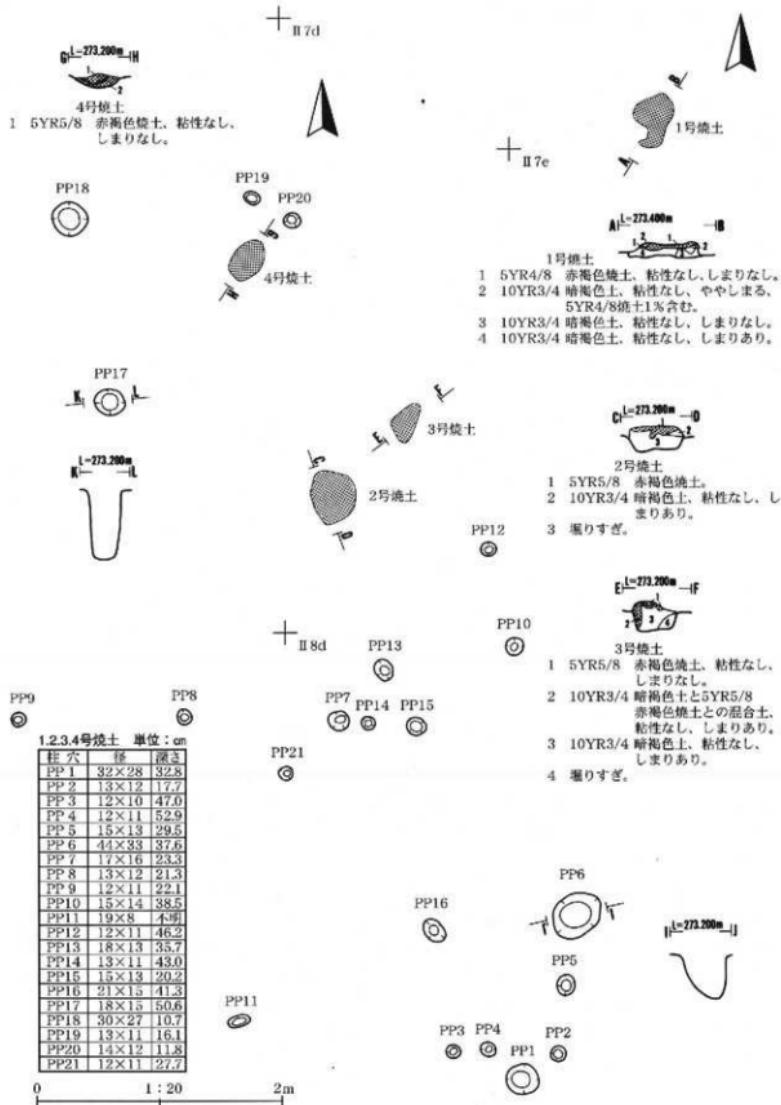
- （位置・検出面） II区5eグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。  
（規模） 不整形で67cm×30cmである。  
（伴出遺物） 出土遺物なし  
（時期） 検出層位から縄文時代より新しい。

#### （2）柱穴状小土坑群（第12図、写真図版なし）

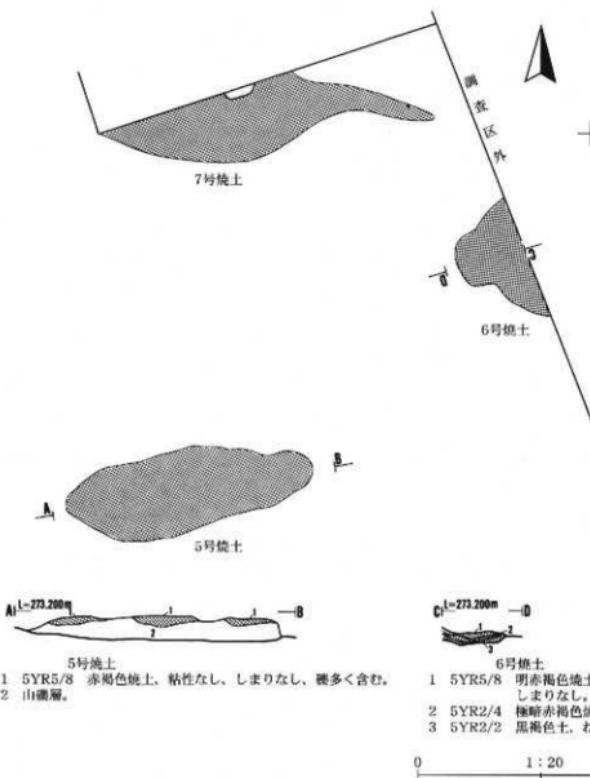
位置はII7d～II8dグリッドで検出した。柱穴状小土坑群21基を登録した。いずれもⅡ層面で検出した。直径は10～44cm、深さは10.7cm～52.9cmである。平均すると径は16cm、深さは14.9cmである。配置に明確なものは見いだせなかった。断面や底面に柱痕跡を確認できるものではなかった。出土遺物はない。検出面の層位から縄文時代よりは新しいと思われる。

#### （3）畝間状遺構（第14図、写真図版5）

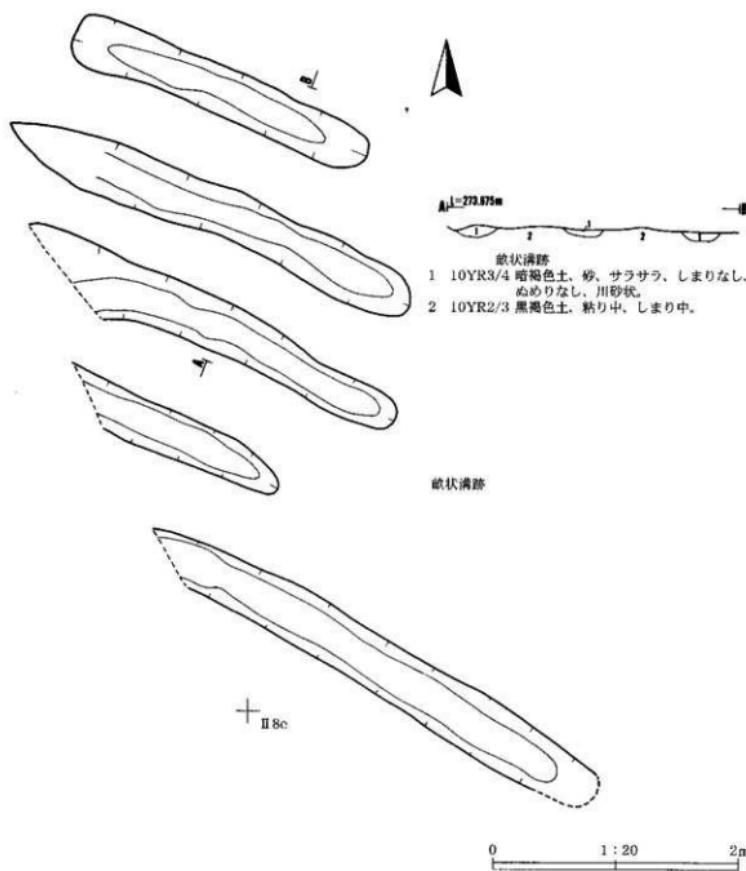
- （位置・検出面） II区の南西側7e～7fグリッド内に位置し、Ⅲ層上面で5条検出された。  
（規模） 5条ともほぼ同方向で、西～東に傾斜する溝状のくぼみで、砂に覆われていた。溝の長さは250～400cm、幅34～48cm、検出面からの深さは6～10cmである。  
（伴出遺物） 出土遺物なし  
（時期） 検出層位から縄文時代より新しい。



第12図 1~4号焼土・柱穴状小土坑群



第13図 5~7号焼土



第14図 歛間状遺構

### 3. IV、層上面の検出遺構（縄文時代）

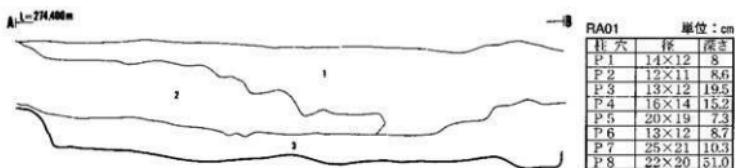
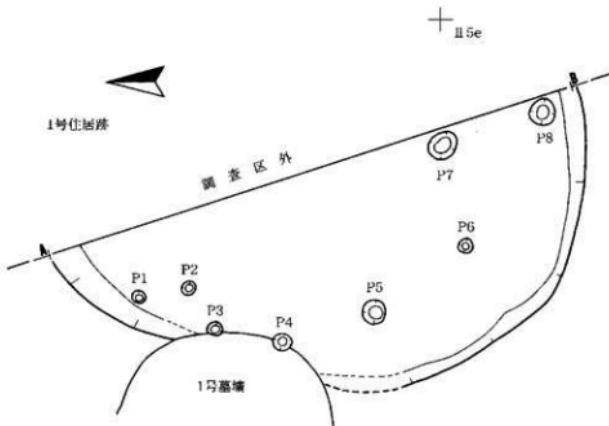
#### (1) 穴住居跡

##### R A 0 1 (第15図、写真図版6)

- 〈位置・検出層位〉 II区の北東より4Eグリッドに位置し、IV層上面で検出された。
- 〈重複関係〉 西側の一部がR T 0 1墓壙と重複し、墓壙に切られる。
- 〈平面形・規模〉 楕円長方形気味の梢円形で、長軸4.5m、短軸3.3m、深さ15cmほどである。
- 〈埋土〉 3層にわけられ、1・2層は黒褐色土を主体として、親指大の炭化物を含む自然堆積であり搅乱箇所が見られる。
- 〈壁・床面〉 壁高は、最も残りのよいところで15cmほどである。床は踏み固められたあとが若干見られ溝跡等の施設はない。
- 〈柱穴〉 床面に8基検出されている。柱穴径は最大25cm、最小11cmで、深さは7.3cm~51cmとなっている。P 7とP 8が比較的大型で、住居跡の中央に位置することから主柱穴の可能性がある。
- 〈炉〉 調査区内では検出されなかった。調査区外に付設されていると推測される。
- 〈遺物〉 (図版32-2~6、写真図版22-(1)~2~8)  
埋土から完形に近い縄文土器の個体や破片、土偶の破片、石器が出土している。32-2は広口壺又は、注口土器の頸部から胴部の破片で、平行沈線文を主として区分し、RL地文と黒色磨きがほどこされている。32-3は深鉢の破片で、口縁部は欠損している。32-4は小型の鉢で、口縁部が小波状で平行沈線、胴部は羽状縄文が施されている。32-5は鉢の口縁部破片で、口縁部上位に平行沈線と連続刻目が施され下位は無文である。32-6は土偶の肩から腕にかけての破片で、全体に刺突がほどこされている。32-7はつまみ部分の欠損する石造である。32-8は磨製石斧で刃部と基部ともに欠損する。
- 〈時期他〉 出土遺物より縄文時代後期と思われる。

##### R A 0 2 (第16図、写真図版7)

- 〈位置・検出層位〉 II 7 eグリッドに位置し、IV面で検出した。
- 〈重複関係〉 東側でRA 4号竪穴住居跡とR A 5号に切られ、西側でRA 6号竪穴住居跡を切る。
- 〈平面図・規模〉 平面形は楕円梢円形を呈するものと思われ、長軸は4.03m×短軸3.3mと推定される。
- 〈埋土〉 3層に分けられる。1層目は黒褐色土、中2・2層目は砂状の褐色土から構成される。3層目は黒褐色土の中に褐色土が30%含まれている。
- 〈壁・床面〉 壁は外傾し、高さ28cmである。床面は平坦である。東側は他の遺構に切られていて定かではない。
- 〈柱穴〉 杖穴状土坑は18基検出している。これらの口径の最大は48cm~53cm、最小は6cm×8cmである。
- 〈炉〉 焼土を東側に2基検出している。深さは東壁寄りで、配置は64cm×72cmの番な円形で、高さ10cm。もう1基は北側に位置し、26cm×26cmのほぼ円形で、厚さ約10cmである。
- 〈遺物〉 (図版32-9~33-17、写真図版22-9~23-17)  
床面から32-10と33-8・13、埋土から多量の土器片が出土している。33-1は大型注



- 1号住居跡
- 1 10YR2/3 黒褐色上 炭化物含む、ねばりなし、しまりなし、小石含む。
  - 2 10YR2/3 黒褐色土 炭化物含む、ねばりなし、しまりなし、(炭化物人間の軽指大含む)。
  - 3 10YR2/2 黒褐色上 炭化物含む、ねばり中。

0 1 : 20 2m

第15図 1号竪穴住居跡

口上器胸部破片で連続刻日と平行沈線が施されている。33-2は壺または注口土器の破片で平行沈線や木葉状の沈線区画内に縄文が施され頸部には張状の貼付がある。3は深鉢、4・5・7は鉢又は台付鉢である。6・8は小型の鉢で、8は口縁部羊齒状文が施されている。9~11は鉢の破片である。9・12・14・15は、平行沈線と磨消による施文され、9は肥厚し、一部くぼみをもつ波状口唇である。16は壺の胸部片で雲形文が施され赤色顔料が塗影されている。33-13は床面から出土した壺、又は鉢の破片で沈線がある。33-16は赤色顔料付舟で雲形文が施されている。

(時期他) 出土遺物より縄文時代晚期中葉と思われる。

R A O 3 (第17図、写真図版8)

(位置・検出層位) II 6 e グリッドに位置する。

(重複関係) RD10上坑とRD16十坑そしてRD17上坑に切られている。

(平面図・規模) 平面形は隅丸楕円形を呈するものと思われる。長軸4.3m×短軸3.15mと推定される。

(埋土) 15層に分けられる。全体的に3層目には土器群が含まれる。15層目は褐色上で粘性なく、縮まる。

(壁・床面) 壁は高さ20cm程で緩やかに外傾して立ち上がり、高さ20cm程である。床面はほぼ平坦である。

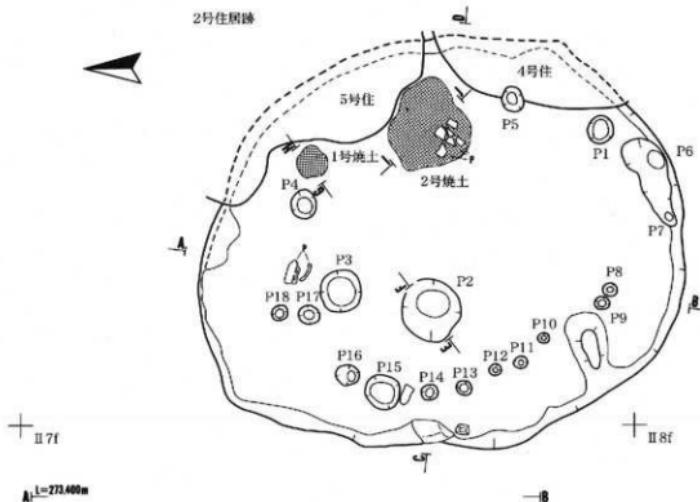
(柱穴) 柱穴は2基検出している。規模は径26cm~41cm、深さは29.6cm~38.3cmである。柱痕跡は不明である。

(炉) 検出されなかった。

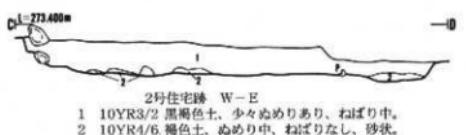
(遺物) (図版34-1~35-10、写真図版24-1~25-9)

埋土から多量の上器と土器片が出土している。中でも31-3・5~7・17は埋土の下位から出土している。34-1は胎土に纏維を多量に混入する深鉢で、粗い縄文が施されている。2は口縁部付近が土製品の破片と思われ、平行沈線を主として区画文と磨消文が表面に施されている。9~12はほぼ完形の土器で、羊齒状文や三叉文が主に施文されている。11の台部には透かしがある。13は注口土器の破片、17は注口部の破片である。18は短いが両刃加工で打製石斧のようである。35-1は凹石の破損品である。2~7は土偶の破片である。2は胸部~左脚が残存し、腹部に沈線や刺突が施されている。3は肩から腕の破片で4~7は脚部の破片である。8は土錐と思われ、溝が十字になっている。9は小型の壺、10は筒状の鉢で下位に孔が一つあいている。34-5は深鉢の口唇部で大波状口唇、平行沈線、円形刺突文が施されている。鉢が6点、壺が3点、土偶が5点、その他が出土している。34-9~11は鉢の完形、35-8は土錐の完形で十字沈線、頭部が茶色である。土偶はすべて中央で35-2の胸部~肩は刺突文、35-3の肩~腕は無文、35-4は片脚、35-5はスタンプ又は足で無文、35-7の右足は無文などである。

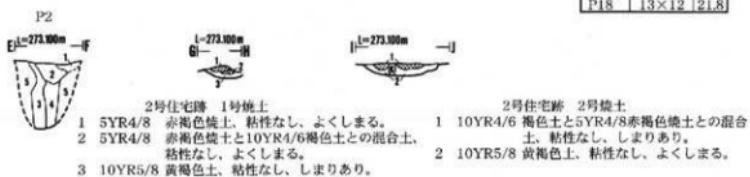
(時期他) 縄文時代後期中葉から縄文時代晚期前葉の遺物が出土しているが、埋土下位の出土遺物でも特定できない。晚期前葉の可能性が高い。



2号住宅跡 N-S  
 1 10YR3/2 黒褐色土、少々ぬめりあり、ねばり中、しまり中。  
 2 10YR4/6 褐色土、ぬめり中、ねばりなし、砂状。  
 3 10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし。



柱穴	径	深さ	RA02	単位: cm
P1	24×21	24.8		
P2	53×48	56.0		
P3	35×33	53.4		
P4	25×20	27.9		
P5	21×18	25.2		
P6	16×13	46.8		
P7	8×6	8.3		
P8	12×11	9.6		
P9	12×11	4.6		
P10	10×9	7.5		
P11	11×10	7.6		
P12	9×9	17.5		
P13	13×11	4.0		
P14	14×13	4.2		
P15	29×27	11.5		
P16	19×16	18.8		
P17	18×15	11.3		
P18	13×12	21.8		

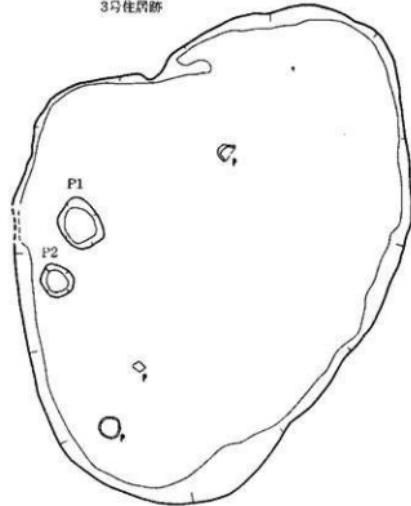


- 2号住居跡 P2
- 10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりあり。
  - 10YR2/2 黑褐色土、粘性あり、しまりやあり、根状物1%含む。
  - 10YR2/3 黑褐色土、粘性とてもある。しまりあり(やや粒系円の砂質)。
  - 10YR2/3 黑褐色土、粘性あり、しまりなし。
  - 10YR4/6 褐色土、粘性あり、しまりあり。
- 0 1 : 20 2m

第16図 2号竪穴住居跡

+ II 6e

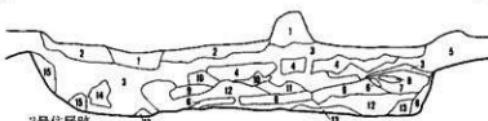
3号住居跡



RA03		単位: cm	
柱穴	床	深さ	
P1	41	×35	29.6
P2	27	×26	38.3

+ II 7e

A=273.700m

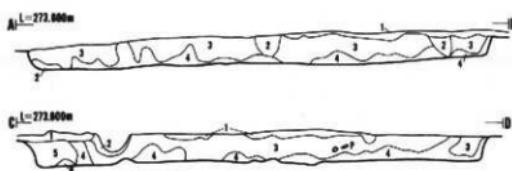
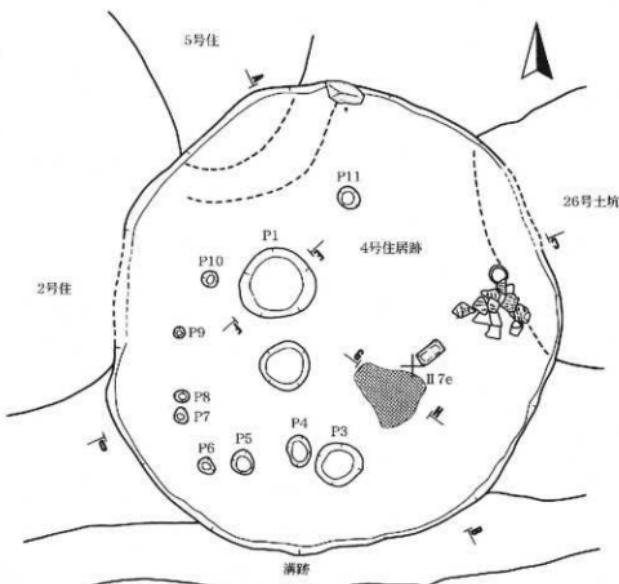


- 1 10YR5/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、小礫30%含む。  
 2 10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり、小礫5%含む。  
 3 10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりあり（土器片多量に含む）。  
 4 10YR5/8 黄褐色土と10YR3/4 暗褐色土との混合土（砂土）、粘性なし、固くしまる（拂土か？）。

- 5 10YR2/3 黑褐色土、粘性あり、しまりややあり（3と同じであるが、しまり弱い）。  
 6 10YR2/3 黑褐色土、粘性なし、固くしまる。10YR5/8 黄褐色土30%含む、排土。  
 7 10YR2/2 黑褐色土、粘性あり、しまりあり、黄化物1%含む。  
 8 10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、とても固い、排土。  
 9 10YR2/3 黑褐色土、粘性なし、固くしまる。10YR8/3 浅黄褐色土20%含む。  
 10 10YR2/3 暗褐色土、粘性なし、固くしまる。10YR8/3 浅黄褐色土50%含む。  
 11 10YR2/3 黑褐色土、粘性なし、固くしまる。10YR8/3 浅黄褐色土30%含む。  
 12 10YR2/2 黑褐色土、粘性あり、しまりなし。  
 13 10YR3/3 暗褐色土、粘性あり（やや砂質）、しまりなし。  
 14 10YR2/2 黑褐色土、粘性あり、しまりあり、（黄化物1%含む）、7と同じ。  
 15 10YR4/6 褐色土、粘性なし、しまりあり（草崩積上か）。

0 1 : 20 2m

第17図 3号竪穴住居跡

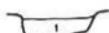


柱穴	径	深さ	単位: cm
P 1	60×55	18.6	
P 2	40×36	27.3	
P 3	40×34	15.8	
P 4	26×20	9.0	
P 5	19×17	12.0	
P 6	14×13	18.4	
P 7	14×12	4.5	
P 8	12×10	17.1	
P 9	8×8	13.4	
P10	13×12	4.6	
P11	17×15	15.2	

4号住跡

- 1 10YR3/4 喀褐色土、粘性なし、非常に固い。
- 2 10YR3/4 喀褐色土、粘性なし、もろい、50% 硫酸含む（古代遺構の柱穴埋土）。
- 3 10YR3/4 喀褐色土、粘性あり、しまりややあり、土器片多量出土。
- 4 10YR3/4 褐色土、粘性あり、しまりややあり。
- 5 10YR2/3 黒褐色土、粘性ややあり、しまりあり（他の遺構の埋土か？）。
- 6 10YR3/3 喀褐色土、粘性ややあり、しまりあり（他の遺構の埋土か？）。

E-L=273.000m 一F



4号住居跡 P1

- 1 10YR3/4 喀褐色土、粘性なし、しまりややあり。

G-L=273.000m 一B



4号住居跡 炉（焼土）

- 1 5YR5/8 赤褐色燒土、粘性なし、固くしまる。
- 2 5YR5/8 赤褐色燒土と10YR3/4 喀褐色土との混合土、粘性ややあり、しまりなし。

0 1:20 2m

第18図 4号竪穴住居跡

#### R A 0 4 (第18図、写真図版9)

- (位置・検出層位) II 7 c グリッドに位置する。
- (重複関係) R A 2 壁穴住居跡より新しいと思われる。
- (平面形・規模) 平面形は円形を呈するものと思われる。長軸は3.85m×短軸は3.65mと推定される。
- (埋土) 6層に分けられる。上位面は暗褐色土で3層目に土器が多量に出土している。5・6層目は他の遺構の埋土と思われる。
- (壁・床面) 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。高さ20cm程度で、床面はほぼ平坦である。
- (柱穴) 柱穴は11基検出している。規模は径8cm～60cm、深さ4.5cm～27.3cmである。大は径60cm、深さ18.6cmで住居内にあるが土坑とも思える。
- (炉) 焼土1基検出している。直径60cm×単径50cmで、厚さは最大で10cm程である。
- (遺物) (図版35-11～36-13、写真図版25-10～26-10)

多量の縄文土器と礫石器が、埋土からの出土である。35-11は軋製深鉢の口縁部の一部に二山状小突起がある立体、35-12は壺の破片で、頸部付近に平行沈線と胴部は研磨され、赤色顔料が塗装されている。13は小型の鉢で、口縁部に羊齒状文が施されている。36-4も同じく赤色顔料が施されている、36-3は壺、10は台付鉢で、他は鉢のようである。6は平行沈線による施文がなされている。12は側面に敲打痕があり、13は、両側面に敲打痕と研磨面がのこる凹石である。36-5は壺の口縁部で工字文が施されている。

- (時期他) 縄文時代後期前葉～縄文時代晚期後葉の土器もあるが晚期前葉と思われる遺物が多い。晚期前葉の可能性が大である。

#### R A 0 5 (第19図、写真図版10)

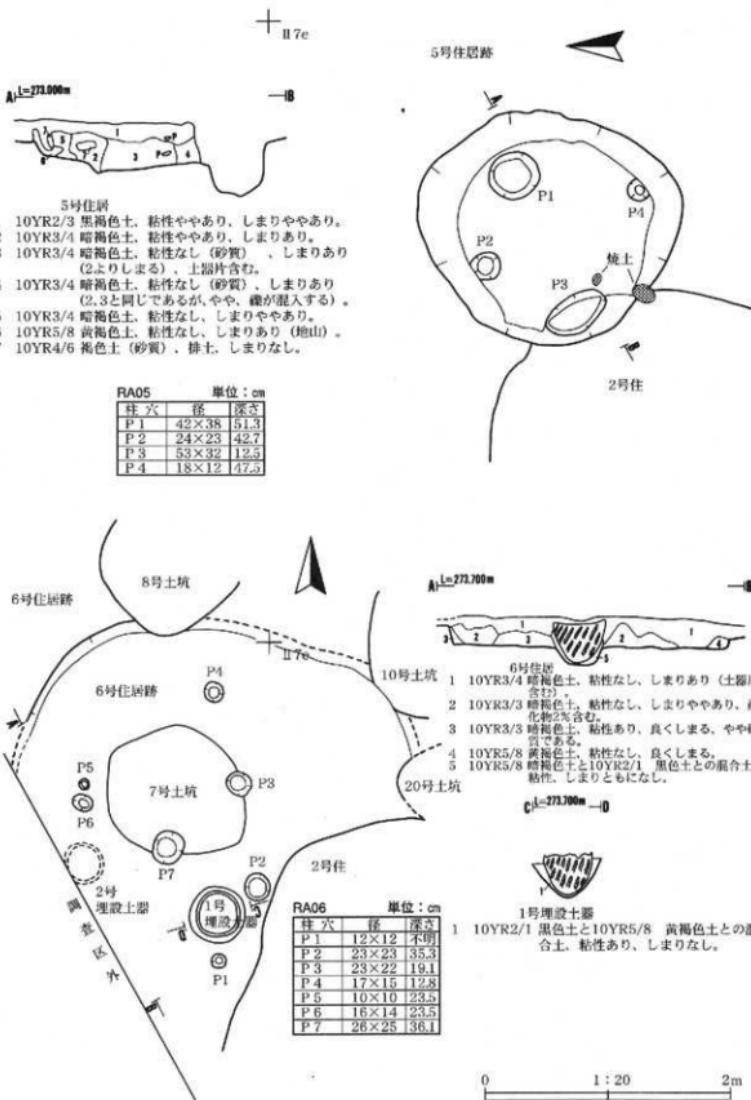
- (位置・検出層位) II 7 c グリッドに位置する。
- (重複関係) 西側はR A 2 壁穴住居跡と重複している。
- (平面形・規模) 平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。長軸2.25m×半径1.9mと推定される。
- (埋土) 7層に分けられる。上位面は黒褐色土主体で3層目には土器が含まれる。
- (壁・床面) 壁高は約30cmである。床面はほぼ平坦である。
- (柱穴) 柱穴状土坑は4基検出している。径は12cm～53cm、深さ12.5cm～51.3cmである。配置は不明である。
- (炉) 焼土を南西の位置で2基検出している。径は10cm～20cmの稍円形である。
- (遺物) (図版36-14～19、写真図版26-11～16)

埋土から縄文土器片が少量得られている。図版36-14・18は底部付近の破片、他は口縁部～胴部の破片である。器種は鉢または深鉢と思われる。15は羊齒状文、16は沈線区画の磨消がされている。17は口縁部無文帯の下位に圧痕が19は沈線が巡っている。

- (時期他) 遺物は縄文時代後期中葉から縄文時代晚期前葉のものが出土しており、縄文時代晚期前葉の可能性が高い。

#### R A 0 6 (第19図、写真図版10)

- (位置・検出層位) II 7 f グリッドに位置する。
- (重複関係) 2号壁穴住居跡に切られる。10号・20号土坑と重複している。



第19図 5・6号竪穴住居跡

**(平面形・規模)** 一部しか残存していないが、ほぼ円形を呈するものと思われる。規模は直径3.25mと推定される。

**(埋土)** 5層に分けられる。上位は暗褐色土で土器片が含まれる。2層目も暗褐色土で炭化物が2%含まれる。

**(壁・床面)** 壁高は約20cmであり床面はほぼ平坦である。床面に1・2号埋蔵土器を検出した。

**(柱穴)** 柱穴状土坑は7基検出している。径10cm~26cm、深さ12.8cm~36.1cmである。配置は不明である。

**(炉)** 検出できなかった。

**(遺物)** (図版36図-20・21、写真図版26-17・18)

埋土から数点の土器片が出土している。20・21とも注口土器の破片である。20は平行沈線と粘土貼付、連続押圧による施文がなされ赤色顔料が塗装されている。21は平行沈線と列点状の連続押圧、C文状やZ字状やの沈線文が施されている。

**(時期他)** 出土土器より縄文時代晩期に属すると思われる。

**R A 1 2** (第20図、写真図版11)

**(位置・検出層位)** II 6「グリッド」に位置する。

**(重複関係)** 南東側がRA 3号住居跡と重複している。南西側に2・3号墓壇と重複し、南側もRD 6号土坑と重複している。

**(平面形・規模)** 平面形は椭円形を呈するものと思われ、直径4.35m×4.0mと推定される。

**(埋土)** 7層に分けられる。上位は黒褐色土で3層目には土器が多量に含まれている。下位面は暗褐色土で粘性なし、しまりありである。

**(壁・床面)** 壁高は20cm~30cmで外傾している。床面はほぼ平坦である。

**(柱穴)** 柱穴状土坑は6基検出している。規模は口径11cm~52cm、深さは16.0cm~35.5cmである。

**(炉)** 地床がと思われる焼土を住居跡中央に1基検出している。64cm~70cm、厚さは最大1.5cm程度である。

**(遺物)** (図版37図-1~12、写真図版26-19~27-3)

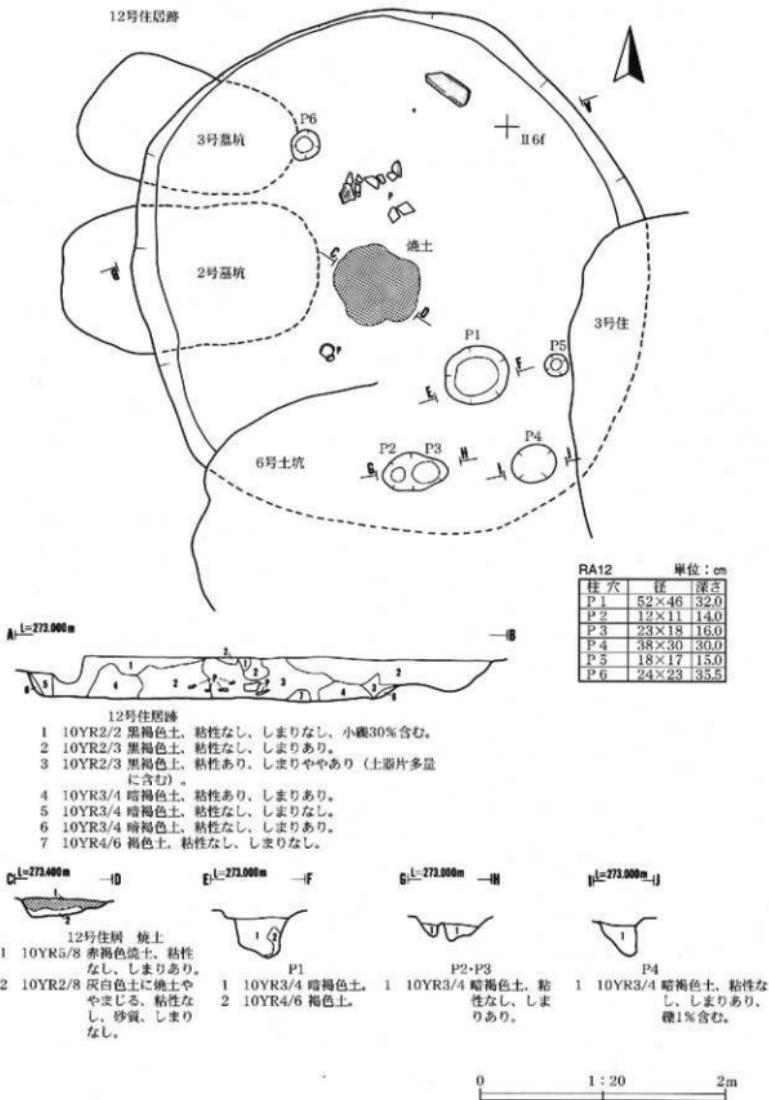
床面から37-3・4・7の上器片と10の土製品が出土し、他は埋土から出土している。3は小型の壺の破片で無文・研磨されている。4は鉢の口縁部で無文・研磨されている。7は深鉢の口縁部で波状を呈し、口縁部に沿う平行沈線が施文されている。10は四脚付皿のミニチュア品である。埋土・遺物も破片が多い。1・2は、大きな波状を呈して、広がる口縁部を持つ深鉢である。5は壺の9は深鉢の胴下部~底部である。11は土偶の脚部、12は円盤状土製品である。深鉢が3点、1は大波状口唇と刃状縞文が施されている。3は無文で内面にナデが施されている壺の胴部、11は上偶の左脚で中実である。10は動物の脚を表現している皿形の土製品、12は外周がギザギザの上製円盤である。

**(時期他)** 時期は床面上の土器から、縄文時代後期中葉の可能性を考えられる。

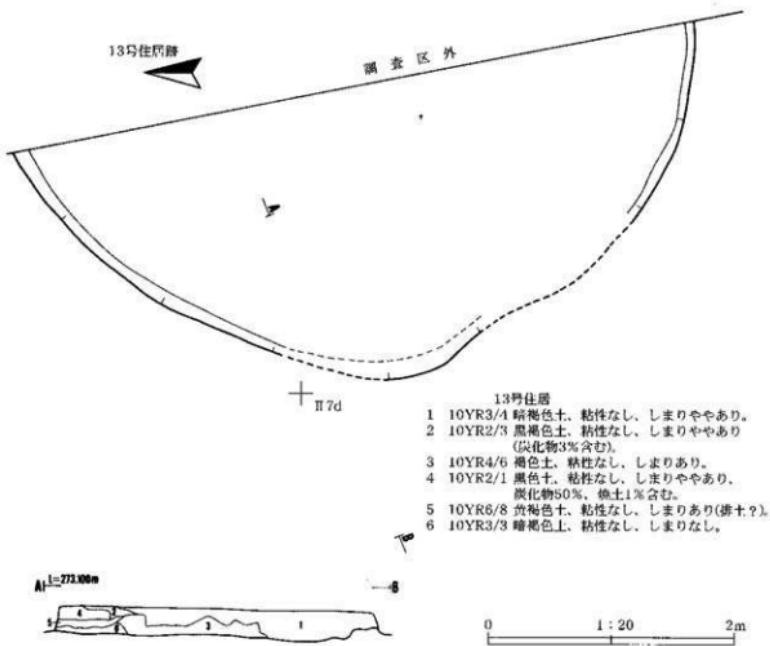
**R A 1 3** (第21図、写真図版11)

**(位置・検出層位)** II 7 d「グリッド」に位置する。

**(重複関係)** RD28・29と重複し、東側は調査区外となり未検出である。



第20図 12号竪穴住居跡



- 〈平面形・規模〉 半円形はほぼ円形を呈していると思われ、直径約5.5mである。
- 〈埋土〉 6層に分けられる。全体的には粘性なし、爪で押さなければへこまない程度にしまりありである。1層目と4層目は炭化物を含む。
- 〈壁・床面〉 壁高は25cmで、床面はほぼ平坦である。
- 〈柱穴〉 検出されなかった。
- 〈炉〉 4層目に炭化物50%と焼土1%を含む。
- 〈遺物〉 (第38図～1～17、写真図版27-4～20)

床面から2・5・13の土器片が、他は埋土からの出土である。7は鉢の破片で13は雲文が施されている。15は粗製深鉢の破片で、横位に結合する羽状縄文が巡る。1・3・8は鉢で1は羊齒状文、3は沈線と連続刻刷・磨消文が巡る。8は羊齒状文と雲文が施されている。4・6は壺で、4は羊齒状文、6は変形丁字文が施されている。9～12・14・15は口縁部の破片で、沈線文や連続刻刷の施文がなされている。16は注口土器の注口部の破片である。17は磨製石斧で刃部が欠損している。1は波状口縁で人組文の鉢、4は羊齒状文で赤色顔料が塗彩された注口土器である。14も赤色顔料が施されている。17は磨製石斧である。

〈時期他〉 時期は床面出土の土器から縄文時代晚期中葉と思われる。

## (2) 土坑

土坑は2基検出している。遺構番号は連番でRD1～RD32と登録したが、欠番扱いとしたものがある。また、墓壙に登録変更したものもある。

### R D 0 5 (第22図、写真図版12)

〈位置〉 II 4 c グリッドに位置する。

〈検出状況〉 RT1号墓壙の北の位置にあり、墓壙の可能性もあるが、定かではないので土坑としている。

〈規模・形状〉 開口部径158cm×85cm・底部径140cm×65cm・深さ65cm、平面形は梢円形、断面形はピーカー形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉 6層からなる。1層目は暗褐色土で、上器片が出土している。2層目は褐色土で下器片が出土している。

〈出土遺物〉 (第39図-1・2、写真図版28-1・2) 埋土から上器片が数点出土している。1は鉢の口縁部片で、沈線と連続刻目状の施文がみられる。2は壺の口頭部の破片と思われる。平行沈線と連続刻目2条の施文がなされている。

〈時期〉 時期は出土遺物から縄文時代晚期前葉と思われる。

### R D 0 6 (第22図、写真図版12)

〈位置〉 II 6 f グリッドに位置する。

〈検出状況〉 RD8号土坑に切られ、RD12号土坑を切る。

〈規模・形状〉 残存部分のわかるところは、開口部径220cm×( )cm、底部径190cm×( )cm、深さ15cm、平面形は円形もしくは梢円形と思われるが不明。

〈埋土〉 4層からなる。暗褐色土主体で、3層は黄褐色土との混合土、粘性あり、しまりありである。

〈出土遺物〉 (第39図-3~11、写真図版28-3~11) 埋土から土器や上器片、土製品、石器が出土している。3は粗製の深鉢で口縁部は欠損している。4・5・7は深鉢の口縁部片で、4・5は波状口縁を呈する。平行沈線や連続刻押圧の施文がなされている。6は深鉢の破片で平行沈線による曲状文が施されている。7は羊齒状文が施されている。8は台付鉢の台部で沈線が巡る。9・10は円盤状土製品である。11は棒状の石器で両端が敲打により欠損している。

〈時期〉 時期は縄文時代後期前葉の上器も混入しているが、縄文時代晚期前葉の可能性が高いと思われる。

### R D 0 7 (第22図、写真図版12)

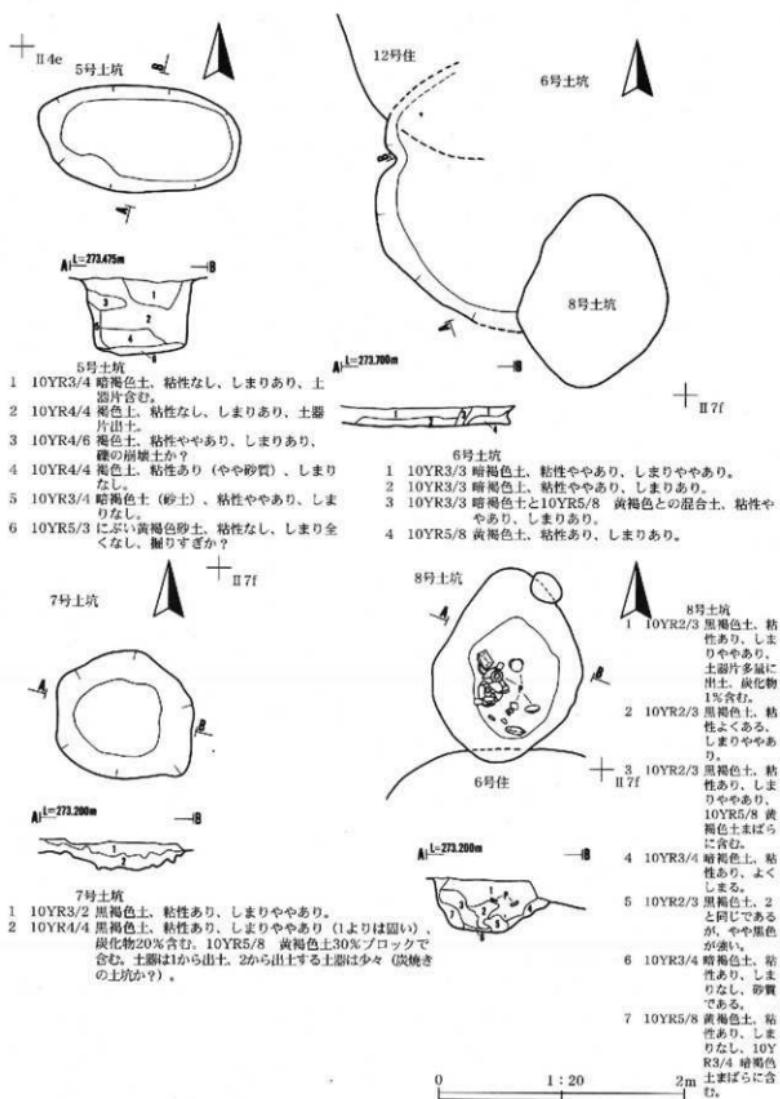
〈位置〉 II 7 f グリッドに位置する。

〈検出状況〉 6号住居跡の中から出土した。

〈規模・形状〉 開口部は径110cm×105cm・底部型は70cm×60cm・深さ20cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり壁は緩やかに外傾する。

〈埋土〉 2層目は1層目より堅く、炭化物20%を含み1層より出土土器が少ない。

〈出土遺物〉 (第40図-1~3、写真図版28-12~14) 埋土から縄文土器片と土製品2点が出土している。



第22図 5~8号土坑

第40図-1は注口土器の胴部破片で上半には三叉文と変形沈線文が巡り、下半は無文で研磨されている。2は動物形土製品の破片と思われる。3は土偶の胴部破片のようである。

(時期) 時期は出土遺物から縄文時代晚期前葉の可能性がある。

R D 0 8 (第22図、写真図版12・13)

(位置) II 6 「グリッドに位置する。

(検出状況) 6号住居跡と6号土坑跡を切る。

(規模・形状) 開口部径は155cm×116cm・底部径は100cm×73cm・深さ40cm、平面形は橢円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁は外傾する。

(埋土) 7層に分けられ、黒褐色が主体である。1層目からは上器片が多量に出土しており、炭化物が1%含まれている。

(出土遺物) (第40図-4~12、写真図版28-15~29-5) 埋土から土器、土器片と石器が出土している。第40図-4~6は台付鉢のほぼ完形品で、4・6は羊齒状文、5はK字状文が施されている。7は鉢でR Cの文に沈線と、磨消による区画文が施文されている。8・9・11は口縁部破片で8には補修孔が見られる。10は台付土器の台部で文ではなく平行沈線が巡っている。12は石槍とおもわれる石器で、両面からていねいに打抜加工がなされている。

(時期) 時期は出土遺構から縄文時代晚期中葉と思われる。

R D 0 9 は欠番

R D 1 0 (第23図、写真図版13)

(位置) II 7 c グリッドに位置する。

(検出状況) RD16号上坑の南側で検出した。

(規模・形状) 開口部径は130cm×120cm・底部径は65cm×60cm・深さ1.4cm、平面形は正な橢円形、断面形は皿形を呈する。底部はやや平坦であり、壁は緩やかに外傾する。

(埋土) 5層に分けられ、土に暗褐色土で占められ、しまる。

(出土遺物) 出土遺物なし

(時期) 時期は縄文時代と思われる。

R D 1 1 (第23図、写真図版13)

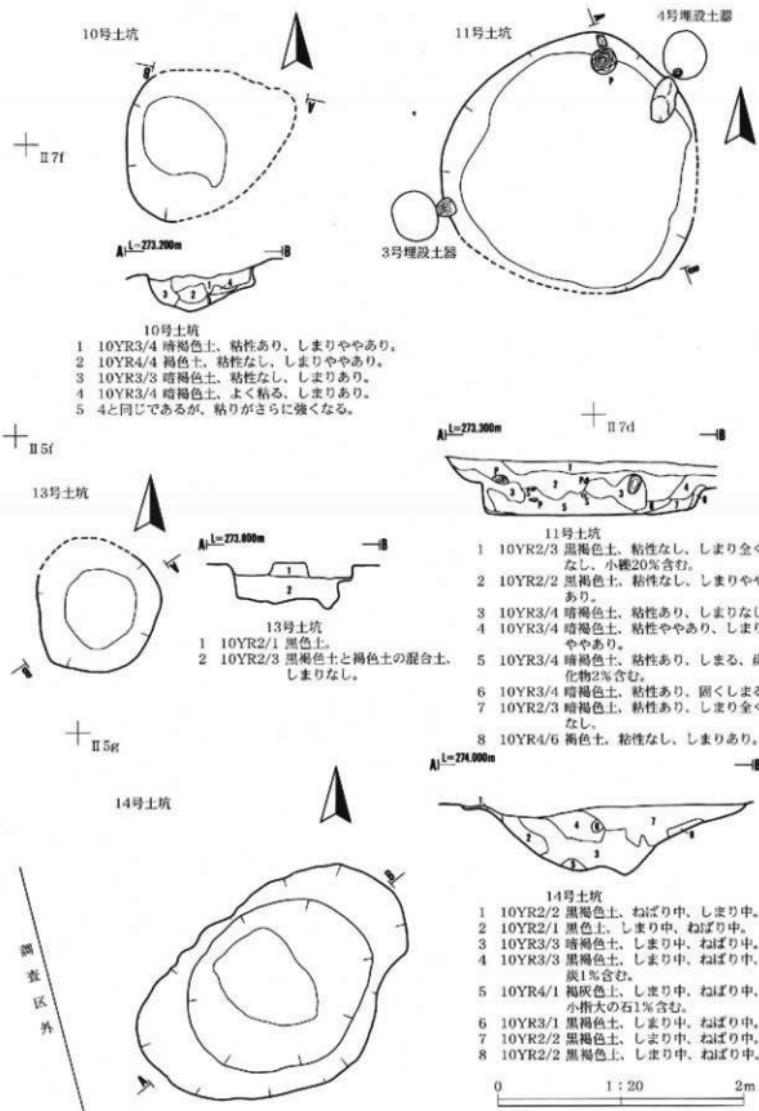
(位置) II 6 e グリッドに位置する。

(検出状況) 北東側に4号埋設土器、西側に3号埋設土器があり、北側で土器が出土された。

(規模・形状) 開口部径は210cm×210cm・底部径は162cm×190cm・深さ40cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁はゆるやかに外傾する。

(埋土) 8層からなる全体の傾向は、2層目には炭化物が3%含まれ、4層目にも炭化物が50%と焼土1%が含まれている。

(出土遺物) (第41図、写真図版29-6~24) 埋土から土器片が出土しているが、埋土の上～中位で得られたものが大半で、1～3が埋土下位から得られている。1は台付鉢の胴下位から台部で、接続部付近に、隆脊による三叉状の施文が巡る。2・3は鉢の口縁部破片で羊齒状文や連續



第23図 10・11・13・14号土坑

刻状文が施文される。13は鉢または台付鉢でX状文や雲形文が施されている。15は広口壺で平行沈線で区画された頸部は無文上位と下位には三叉文を主とした施文がなされている。18は小型壺で無文である。19は土錐と思われ、長軸と短軸に沈線が巡る。

(時期) 時期は出土遺物より縄文時代晚期から前葉と思われる。

R D 1 2 は削除

R D 1 3 (第23図、写真図版14)

(位置) II 5 e グリッドに位置する。

(検出状況) 北側半分の壁は検出困難で検出できなかった。

(規模・形状) 開口部は100cm×100cm・底部径は65cm×60cm・深さは30cm、平面形は円形、断面形はビーカー形を呈する。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ直立する。

(埋土) 調査手順の誤りで実測していないが、炭化物がまばらに混入し黒褐色土を主としていた。

(出土遺物) (第42図、写真図版29～25) 埋土から縄文土器片が得られている。鉢または台付鉢の口縁部から胴部の破片で、口縁部に平行沈線と羊齒状文、2個1対の粘土粒の貼付が見られる。

(時期) 時期は出土遺物から縄文時代晚期前葉と思われる。

R D 1 4 (第23図、写真図版14) R D 1 8 と同じ

(位置) II 5 f グリッドに位置する。

(検出状況) II区の北東側に位置している。

(規模・形状) 開口部径は240cm・底部径は70cm・深さは55cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁は緩やかに外傾する。

(埋土) 8層に分けられる。4層目には炭化物1%が含まれ、5層目は褐灰色土、粘り中、しまり中で小指大の石1%が含まれる。

(出土遺物) (第42図-2～5、写真図版29～26～29) 埋土下位から縄文土器数点が得られている。2は鉢形土器の胴～底部で無文である。3は口縁部突起の破片で、突起に三角形状の沈線区画が施されている。4は胴部上位の破片で、刺突と平行沈線による施文がある。5は口縁部の破片で、連続するX字状の施文と平行沈線が巡る。

(時期) 時期は出土遺物より縄文時代晚期前葉の可能性が高い。

R D 1 5 (第24図、写真図版14)

(位置) II 5 e グリッドに位置する。

(検出状況) 火山灰状の堆積物で検出された。

(規模・形状) 開口部径は65cm×55cm・底部径は50cm×47cm・深さは8cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部は平坦であり、壁は外傾する。

(埋土) 1層だけで、浅黄色の灰状の堆積層で、分析・鑑定の結果十和田火山灰であるとされた。詳細は分析・鑑定のページで参照。

(出土遺物) 出土遺物なし

(時期) 時期は古代と思われる。

R D 1 6 (第24図、写真図版14)

- (位置) II 6 e グリッドに位置する。
- (検出状況) RA 3号住居跡を切る。RD10号土坑跡を切る。
- (規模・形状) 開口部径は120cm×85cm・底部径は55cm×75cm・深さ22cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁は外傾する。
- (埋土) 4層目からなる。1層目は暗褐色土で、礫1%含む。
- (出土遺物) (第42図-6・7、写真図版29-30・31) 埋土中から、数点の土器が得られている。6・7は口縁部の破片である。6は波状口縁で横位の平行沈線の間に格行して、垂下する沈線が施文される。7は平行沈線と溝状の粘土の貼付による施文がなされている。
- (時期) 時期は出土遺物より縄文時代後期と思われる。

R D 1 7 (第24図、写真図版15)

- (位置) II 6 c グリッドに位置する。
- (検出状況) RA3号住居跡を切り、西側半分の壁ははっきり検出されなかった。
- (規模・形状) 開口部径は90cm×80cm・底部径は80cm×65cm・深さ20cm、平面形は斧な楕円形、断面形は皿形を呈する。底面はほぼ平坦であり壁は外傾である。
- (埋土) 1層目は暗褐色土で粘性あり、縫まりがややある。2層目は黄褐色土で地山の挿上と思われる。
- (出土遺物) 出土遺物なし
- (時期) 縄文時代と思われる。

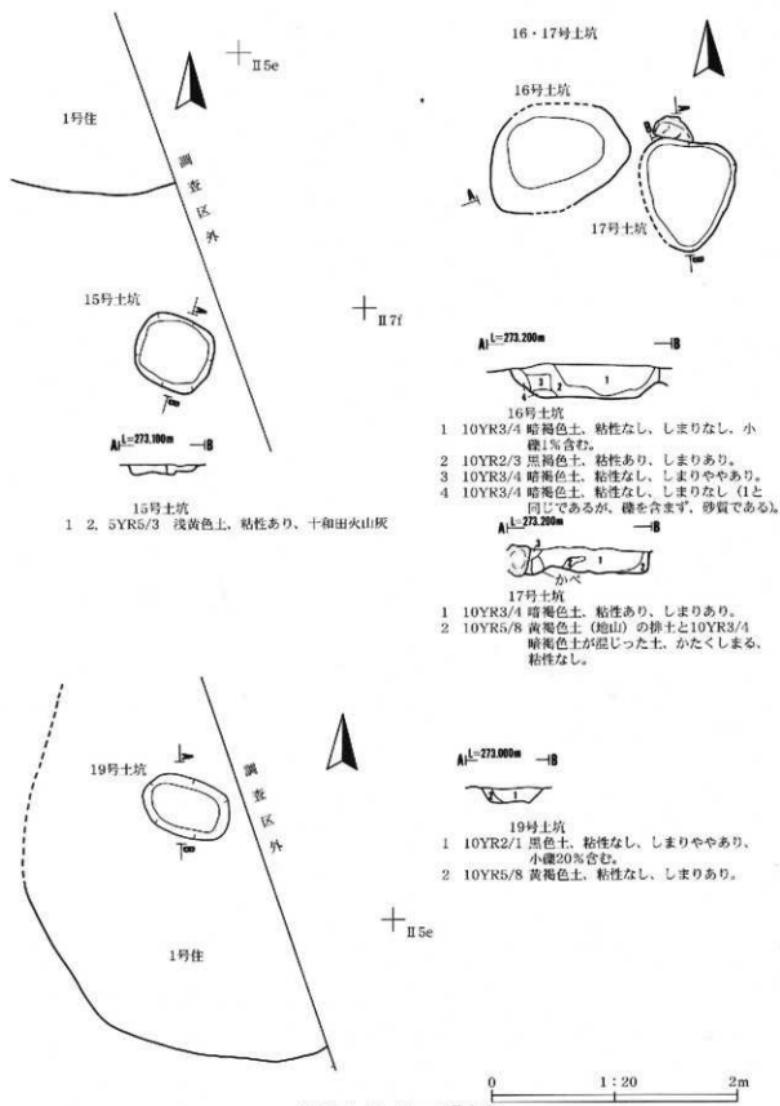
R D 1 8 は R D 1 4 に変更となった。

R D 1 9 (第24図、写真図版15)

- (位置) II 4 e グリッドに位置する。
- (検出状況) RA 1号住居跡内から検出された
- (規模・形状) 開口部径は50cm×75cm・底部径は30cm×55cm・深さ12cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底部は平坦であり、壁は外傾する
- (埋土) RA 1号住居内の土坑で、2層からなり、ともに粘性なし、しまりなしである
- (出土遺物) 出土遺物なし
- (時期) 縄文時代と思われる。

R D 2 0 (第25図、写真図版15)

- (位置) II 7 e グリッドに位置している。
- (検出状況) RA 2号住居跡を切る。RD 2 1号土坑跡を切る。
- (規模・形状) 開口部径は80cm×100cm・底部径は65cm×74cm・深さ30cm、平面形は正な円形、断面形はビーカー形を呈する。
- (埋土) 3層に分かれている。暗褐色土主体で黄褐色土を20%含んでいる。
- (出土遺物) (第42図、写真図版29-32) 墓上中から8の縄文土器片1点が得られている。口縁部の破片で、平行沈線と連続押圧状の施文がなされている。
- (時期) 時期は出土遺物より、縄文時代晚期前葉と思われる。



第24図 15~17・19号土坑

R D 2 1 (第25図、写真図版15)

- (位置) II 7 c グリッドに位置する。
- (検出状況) R A 5号住居跡に切られ、R D 2 0号土坑にも切られる。
- (規模・形状) 開口部径は210cm×不明・底部径は170cm×不明・深さ25cm、平面形は梢円形、断面形は不定形を呈する。
- (埋土) 4層に分けられる。2層目の暗褐色土が大部分をしめている。
- (出土遺物) (第42図-9~11、写真図版30-1~3) 埋土中から数点の土器片が得られている。9は波状口縁の頂部破片で、外面と内面頂部付近に平行沈線が施されている。10は鉢の口縁部破片で、三叉文が施されている。11は注口土器の破片である。
- (時期) 時期は出土遺物より、縄文時代晚期初頭と思われる。

R D 2 2 は R T 2 に変更した。

R D 2 3 は R T 3 に変更した。

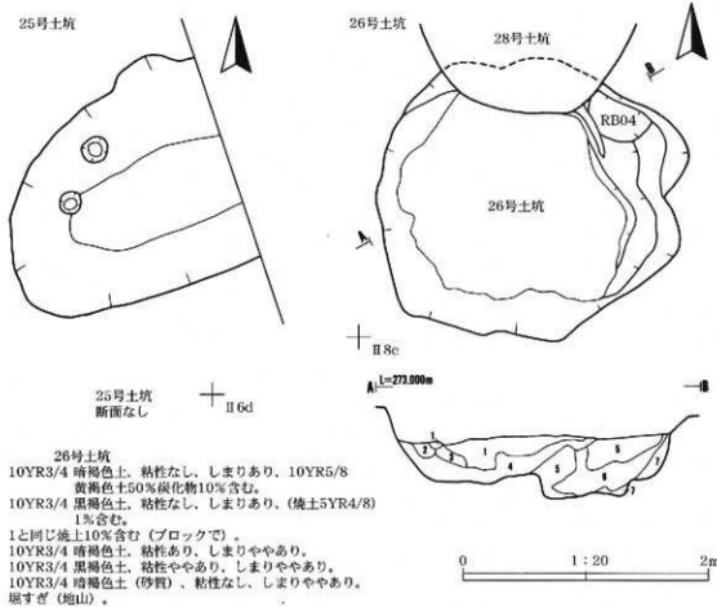
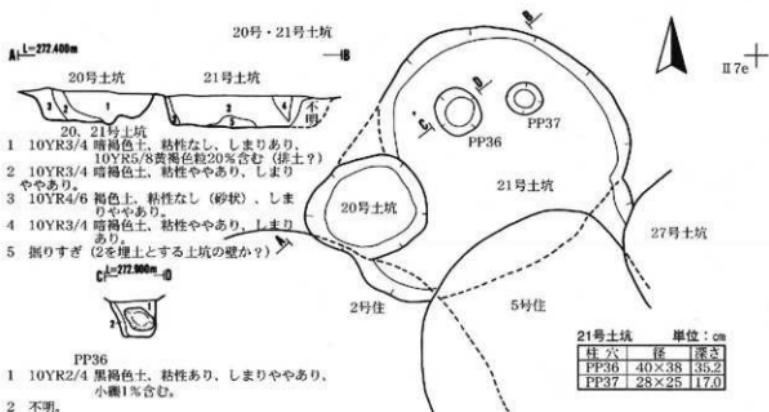
R D 2 4 は R T 4 に変更した。

R D 2 5 (第25図、写真図版16)

- (位置) II 5 e グリッドに位置する。
- (検出状況) 東側は調査区外に統き残存するものと思われる。
- (規模・形状) 口部径は170cm×残存していないので不明cm・底部径は58cm×不明cm・深さ不明cm、平面形は梢円形を呈する。
- (埋土) 断面図は手違いにより未作成で詳細不明
- (出土遺物) (第42図-12、写真図版30-4) 埋土中から12の縄文土器1点が得られている。波状突起の口縁部で、突起頂部に棒状工具による押圧が施されている。口縁部は無文研磨されて、胴部との境界は段になっている。
- (時期) 時期は出土遺物より、縄文時代後期後半と思われる。

R D 2 6 (第25図、写真図版16)

- (位置) II 7 d グリッドに位置する。
- (検出状況) R D 28号土坑に切られる。北東側に柱穴状上坑がある。
- (規模・形状) 開口部径は230cm×225cm・底部径はR D 28号に切られているので、不明cm×210cm・深さは50cm、平面形は正な円形、断面形は楕円形を呈する。底面は不整であり、壁は外傾する。
- (埋土) 7層に分けられる。主に暗褐色土と黒褐色土が交互に埋土している。1層目には炭化物10%が含まれる。2・3層目には焼土が含まれる。
- (出土遺物) (第42図-13~23、写真図版30-5~15) 埋土から多量の上器と土器片が出土している。17は注口土器の欠損品で、羊齒状文が主に施されている。20は台付鉢の欠損品で、平行沈線や磨消連続押圧等の施文がなされている。21・22は台付鉢の破損品である。16・19は口縁部突起の破片である。18は口縁部に連続押圧状の施文と平行沈線が巡り、胴部には



第25図 20・21・25・26号土坑

磨消によりK字状と思われる雲形文が施文されている。

（時期） 時期は出土遺物より、縄文時代後期中葉から晩期後葉と思われる。

R D 2 7 （第26図、写真図版16）

（位置） II 7 e グリッドに位置している。

（検出状況） この十坑に伴うかどうか不明な柱穴状上坑を北側で検出した。

（規模・形状） 開口部径は105cm×100cm・底部径は124cm×125cm・深さは50cm、平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。

（埋土） 気が付かず掘ったため断面図はない。

（出土遺物）（第43図-1～3、写真図版30-16～18） 埋土から縄文土器片数点と石器1点が得られている。1は鉢の破片で、三叉文を主として施文がなされている。2も口縁部突起を伴う破片で、沈線と磨消による施文されている。3は磨石で精円形の2面に磨面が形成され、側縁には敲打痕がある。

（時期） 時期は出土遺物より、縄文時代晩期初頭と思われる。

R D 2 8 （第26図、写真図版16）

（位置） II 7 d グリッドに位置する。

（検出状況） 北側で柱穴状上坑を検出した。

（規模・形状） 開口部径は190cm×20cm・底部径は175cm×155cm・深さ15cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁は急な外傾である。

（埋土） 6層に分けられる。3層目は紗質でしまりがない。

（出土遺物）（第43図-4～6、写真図版19～21） 埋土の下位から数点の土器片が出土している。4・5は口縁部の破片で、4は刺突と三叉文が、6は沈線と磨消が施されている。5は注口土器の注口部である。

（時期） 時期は出土遺物より縄文時代晩期初頭と思われる。

R D 2 9 （第26図、写真図版16）

（位置） II 7 d グリッドに位置する。

（検出状況） 掘立柱柱穴2と6が検出された。2号上坑が南側にある。

（規模・形状） 開口部径は200cm×155cm・底部径は160cm×140cm・深さ30cm、平面形はほぼ円形で、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直である。

（埋土） 3層に分けられる。1層目は褐色土主体の混合上で排水と思われる。

（出土遺物）（第43図-7、写真図版30-22） 埋土から縄文土器片1点が得られている。墨りのきっちとした原体による羽状縄文が施文されている。

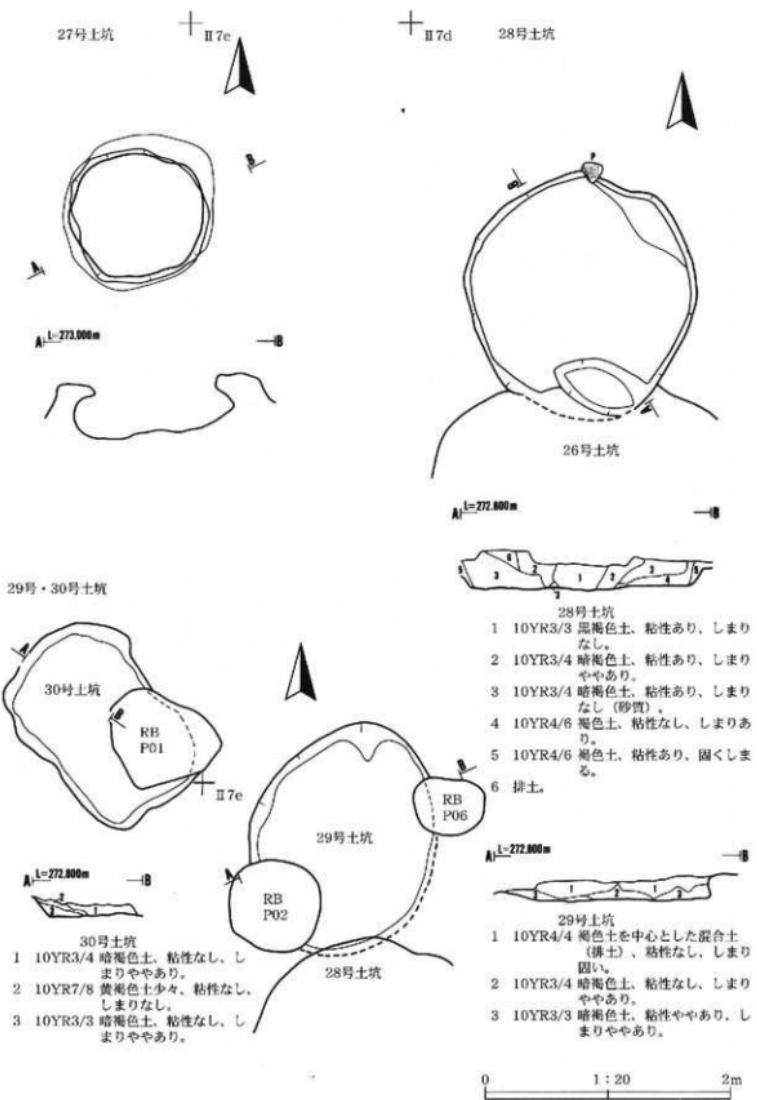
（時期） 時期は出土遺物から縄文時代後期後葉と思われる。

R D 3 0 （第26図、写真図版17）

（位置） II 6 c グリッドに位置している。

（検出状況） 掘立柱柱穴1に切られている。

（規模・形状） 開口部径は170cm×105cm・底部径は150cm×90cm・深さ15cm、平面形は歪な精円形、



第26図 27~30号土坑

断面形は直形を呈する。底面は平坦であり、壁は外傾する。

- (埋土) 3層に分けられる。  
(出土状況) 出土遺物なし  
(時期) 縄文時代と思われる。

R D 3 1 (第27図、写真図版17)

- (位置) III区3d北側グリッドに位置する。  
(検出状況) 西側が大きく擾乱されていた。  
(規模・形状) 開口部径は100cm×擾乱があり不明cm・底部径は不明cm×不明cm・深さ40cm、平面形は橢円形、断面形は不明。底部は中心が深く丸底から内凹ぎみに擦り続いている。壁は外傾する。  
(埋土) 2層に分けられるが、大きく擾乱を受けている。  
(出土遺物) 出土遺物なし  
(時期) 縄文時代と思われるがはっきりしない。

R D 3 2 (第27図、写真図版17)

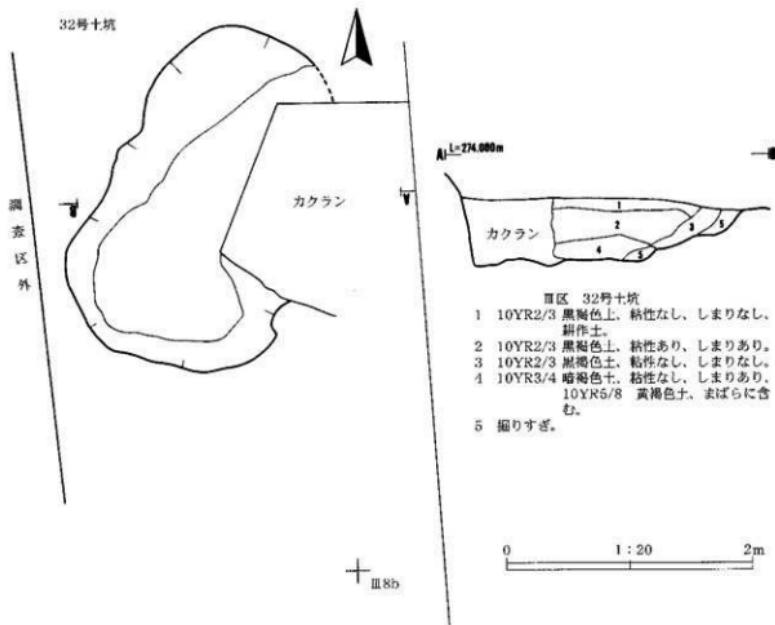
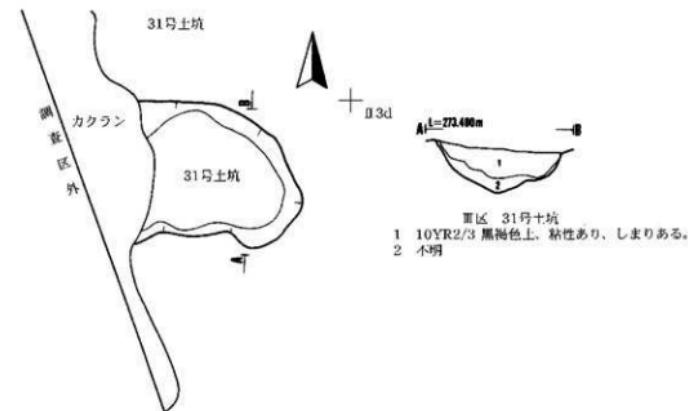
- (位置) III区8bグリッドに位置する。  
(検出状況) 摆乱がある。  
(規模・形状) 開口部径は擾乱があり、不明cm×280cm・底部径は不明cm×不明cm・深さ50cm、平面形は重な橢円形、断面形は擾乱されており直形を呈すると思われる。底面はほぼ平坦であり、壁は外傾する。  
(埋土) 5層に分けられるが、大きく擾乱されている。  
(出土遺物) 出土遺物なし  
(時期) 縄文時代と思われる。

(3) 墓壙

墓壙は5基検出している。すべてが最初土坑として登録したが、形状等を検討して墓壙としたものである。

R T 01号墓壙 (第28図、写真図版18)

- (位置) II 4 c グリッドに位置する。  
(検出状況・重複関係) 深堀トレンチの断面に上坑状のくぼみを検出した。先に精査していたR T 5号墓壙と形状が酷似していることから、R T 1号墓壙と登録したものである。東側でRA 1号竪穴住居跡を切るものと推測する。  
(形状・規模) 形状は橢円形を呈し、径220cm×150cm、深いところで98cmあり、浅いところで50cmである。  
(出土遺物) (第43図-8~11、写真図版30-23~26) 埋土から数点の縄文土器片が得られている。8~11は深鉢の口縁部片である。9・10は太い沈線と、磨消による施文が施されている。11は少し変形しているが、羊齒状文が施文されている。  
(時期) 出土遺物から時期は縄文時代晚期前葉の可能性があるが、後期後葉と思われる。



第27図 31・32号土坑

R T 02号墓塙 (第28図、写真図判18)

〈位置〉 II 6 f グリッドに位置する。

〈検出状況・重複関係〉 R A 1 2号堅穴住居跡の西側壁に3基の土坑状のプランを確認した。南からR T 2号墓塙・R T 3号墓塙・R T 4号墓塙と登録した。その南側に位置する。R A 1 2号堅穴住居の西側を切るものと推測する。

〈形状・規模〉 形状は梢円形を呈し、径210cm×115cmで底絶80cm×90cmで深さ40cm～60cmあり、ピカ一型をしている。壁の内側がくぼんでおりドーナツ状の溝になっている。

〈出土遺物〉 (第43図-12～15、写真図版30-27～31-3) 埋土から縄文土器数点が得られた。R T 02とR T 04の遺物が混同してしまい、どちらに属したか特定できない。12は鉢の破片で連續刻状の施文が巡り胸部は沈線と磨消による区画文がなされている。13は小型の鉢と思われる。口縁部が欠損している。14は無文の口縁部が欠損している。14は無文口縁部下位に補修孔があり、平行沈線が一定の場所で交互に折り返す施文がなされている。15は沈線と磨消施文で残った隆帯状の施文の上に粘土粒が貼付けてある。

〈時期〉 時期は出土遺物から縄文時代後期後葉～末葉と思われる。

R T 03号墓塙 (第28図、写真図判18)

〈位置〉 II 5 f グリッドに位置する。

〈検出状況・重複関係〉 検出状況はR T 2号墓塙と同じで、南北側はR T 2号墓塙と北東側でR T 4号墓塙と隣接する。検出状況はR T 2号墓塙と同じである。

〈形状・規模〉 形状は梢円形を呈し、径170cm×100cm、底絶は80cm×140cmで、深さ30cmあり、壁は外傾している。

〈出土遺物〉 (第43図-16、写真図版31-4) 埋土から16の鉢の破片1点が得られている。沈線と磨消による区画文が施文され、内部にきっちとした捺りの羽状綱文が施文されている。

〈時期〉 時期は出土遺物から縄文時代後期と思われる。

R T 04号墓塙 (第28図、写真図判18)

〈位置〉 II 5 f グリッドに位置する。

〈検出状況・重複関係〉 検出面はR T 2号墓塙、R T 3号墓塙と同様で、南北側でR T 3号墓塙と隣接する。

〈形状・規模〉 形状は梢円形を呈し、径73cm×140cmで底絶は30cm×90cm、深さは32cmあり、壁の内側に溝がある。

〈出土遺物〉 (第43図-12～15、写真図版30-27～31-3) 縄文土器の深鉢と鉢が出上している。12～15

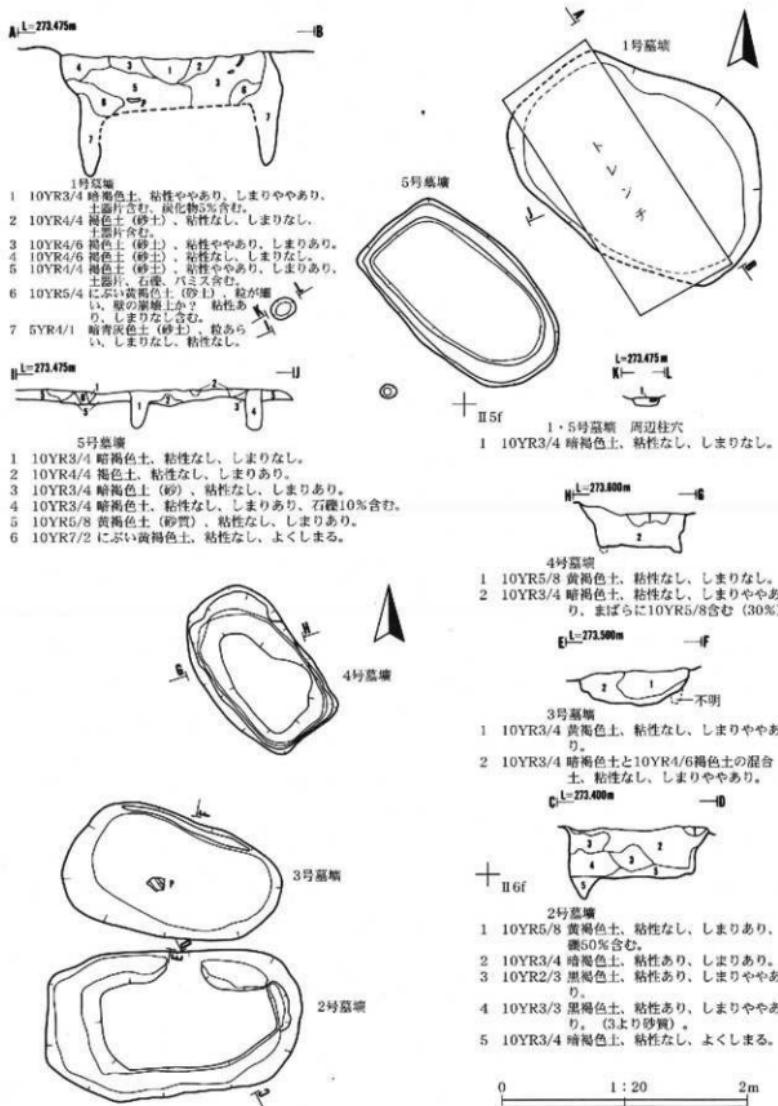
〈時期〉 時期は出土遺物より縄文時代後期と思われる。

R T 05号墓塙 (第28図、写真図判19)

〈位置〉 II 4 f グリッドに位置する。

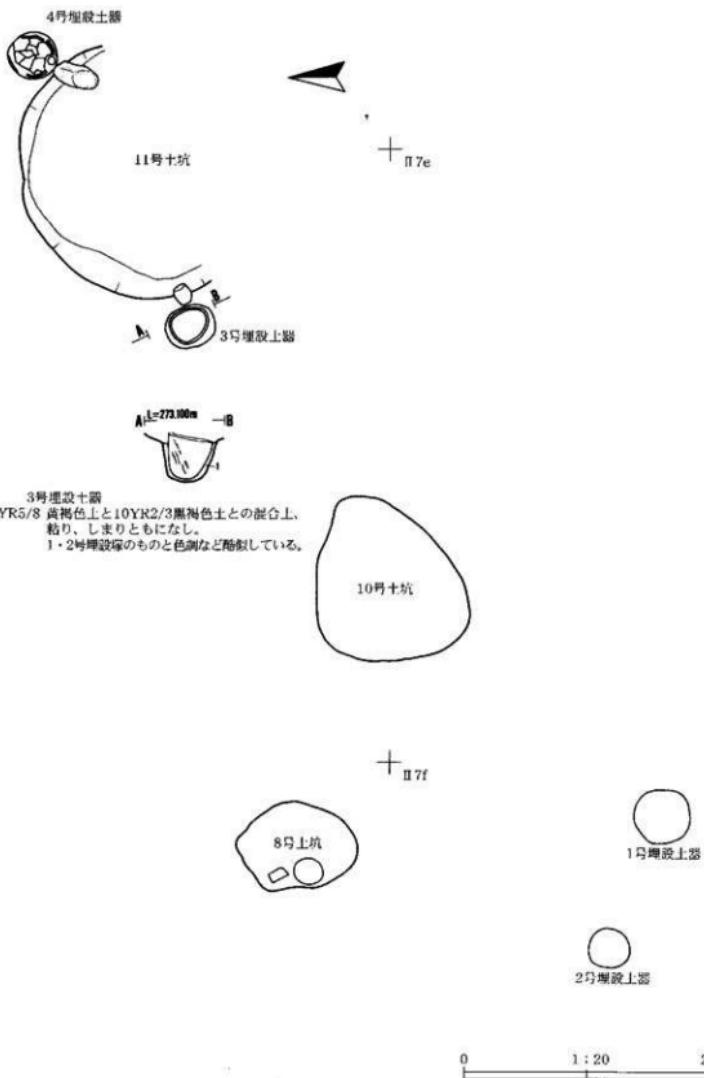
〈検出状況・重複関係〉 検出面は北東側でR T 1号墓塙と隣接する。

〈形状・規模〉 形状は梢円形を呈し、径は172cm×100cmで底絶は142cm×75cmで深いところで310cmあり、浅いところで30cmある。墓穴内の壁際に溝がドーナツ状になっている。



第28図 1～5号基壙

- (出土遺物) 出土遺物なし  
(時期) 層位から縄文時代と思われる。
- (4) 埋設土器
- R Z 01号埋設土器 (第29図、写真図版19)  
(位置) II 7 f グリッドに位置する。  
(検出面) IV層黄褐色土から検出した。  
(規模) 直径約45cm、深さ約32cmの掘り方に胴下部を正位西側に埋置してある。  
(状況) RA 6号住居跡内西南側から検出された。そばにRD 7号土坑がある。またRZ 2号埋設土器もある。
- (第44図-1、写真図版31-5) 大型の深鉢で口縁部から胴部であり、上位は欠損している。器厚は薄く表面には単節斜縄文が施されている。
- (時期) 時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代後期～晚期の遺構と考えられる。
- R Z 02号埋設土器 (第29図、写真図版19)  
(位置) II 7 f グリッドに位置する。  
(検出面) IV層黄褐色土中位から検出した。  
(規模) 直径約30cm、深さ約30cmの掘り方に胴下部を正位に埋置してある。  
(状況) RA 6号住居跡内西側から検出された。そばにRD 7号土坑があり、RZ 1号埋設土器もある。
- (第44図-2、写真図版31-6) 大型の深鉢で口縁部が欠損している。器厚は薄く、表面には単節斜縄文が施されている。
- (時期) 時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代晚期の遺構と考えられる。
- R Z 03号埋設土器 (第29図、写真図版19)  
(位置) II 6 c グリッドに位置する。  
(検出面) IV層黄褐色土中位から検出した。  
(規模) 直径約35cm、深さ約24cmの堀り方に胴部を正位に埋置したようだが、傾いている。  
(状況) そばにRA 3号住居跡、RD 11号土坑、RD 17号土坑、RD 30号土坑などがある。石器1点が出土している。
- (第45図-1・2、写真図版32-1・2) 大型の埋設土器で底部が欠損している。胴部上位に膨らみを持ち、器厚は薄い、表面全面に単節斜縄文が施されている。また埋土内から2の石器1点が出土している。
- (時期) 時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代後期～晚期の遺構と考えられる。
- R Z 04号埋設土器 (第29図、写真図版20)  
(位置) II 6 d グリッドに位置する。  
(検出面) IV層黄褐色土中位から検出した。  
(規模) 直径約30cmでその中に直径約23cmの土器が埋置してある。  
(状況) (第45図3・4、写真図版32-3・4) そばにRD 11号土坑がある。  
(時期) 埋設されている土器の特徴から、縄文時代の遺構と考えられる。



第29図 1~4号埋設土器

### (5) 溝跡

#### R G01溝跡 (第30図、写真図版21)

溝は、4号住居跡南側を西から東へと続く。規模は、長さ670cm・幅30~70cm・深さ約16cmである。発掘中も溝の西側調査区境から伏流水が出て、発掘するのに困難であった。溝はほぼ直線で、断面がV字形なので、人为的溝と思われるし、自然流水溝とも考えられる。(第45図-5・6、写真図版32-5・6) 墓土から石器2点が出上している。(第45図-5・6) は石匙で、横長の基部中付近につまみ部分が作られている。6は石劍の破片である。

### (6) 配石遺構(第31図、写真図版21)

**位置・検出状況** 位置は、II 5 c グリッドに位置している。VI層で検出した。配石の周りに柱穴5基がある。

**(平面形・規模)** 平面形は14~30cm大の石が8個、70~140cmの範囲に分散している。石は埋り込んであるのか、置いてあるのか判断はできない。7個の石は焼跡のように見えるが、焼上は伴わない。配石の規則的な配置は認められない。西側に壁があり、それが巡れば、住居状にもなり得る可能性がある。配石の周りに柱穴が6基あるが、これとの関わりは不明である。

**(遺物)** 東側に(写真図版5)琥珀の粒が出土した。大きさは、大は14mm×18mm・小は2mm×3mm、平均すると5mm×6mm、量は33.29gである。この区域は祭祀との関わりがあるかもしれないが定かではない。

**(時期)** 繩文時代の可能性が高い。

### (7) 掘立柱建物跡 (第31図、写真図版21)

**位置・検出状況** 位置は、II 6 d・6 e・7 d・7 c グリッドに位置している。13号縦穴住居の位置と重複しているが、住居とは直接関わらないと判断する。

**(平面形・規模)** 柱穴は8基検出した。柱穴の平面形は、開口部が70cm×90cm~43cm×43cm・深さが20cm~37cmである。1間130cm×110cm~80cm×50cmが3間と、南西から北東の方向に柱穴間が少しづつ狭くなっている。南東の方向は調査区外なので、詳細は検出できないが続くものと思われる。

**(埋土)** 2層に細分される。1層目は黒褐色土で粘性あり、締まりなしである。2層目は暗褐色土で粘性あり、締まりなしである。

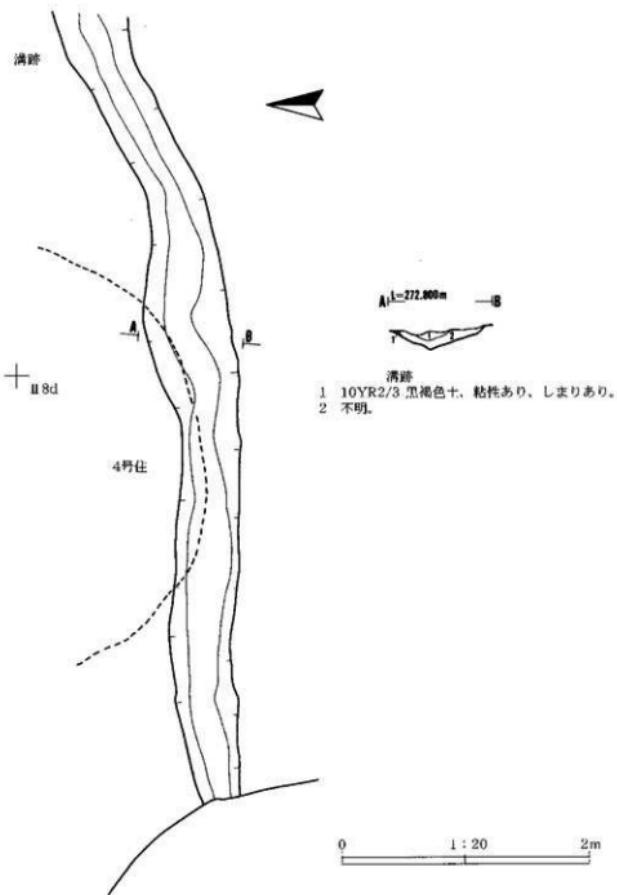
**(遺物)** 出土遺物はない。

**(時期)** 時期は出土遺物がないので不明である。

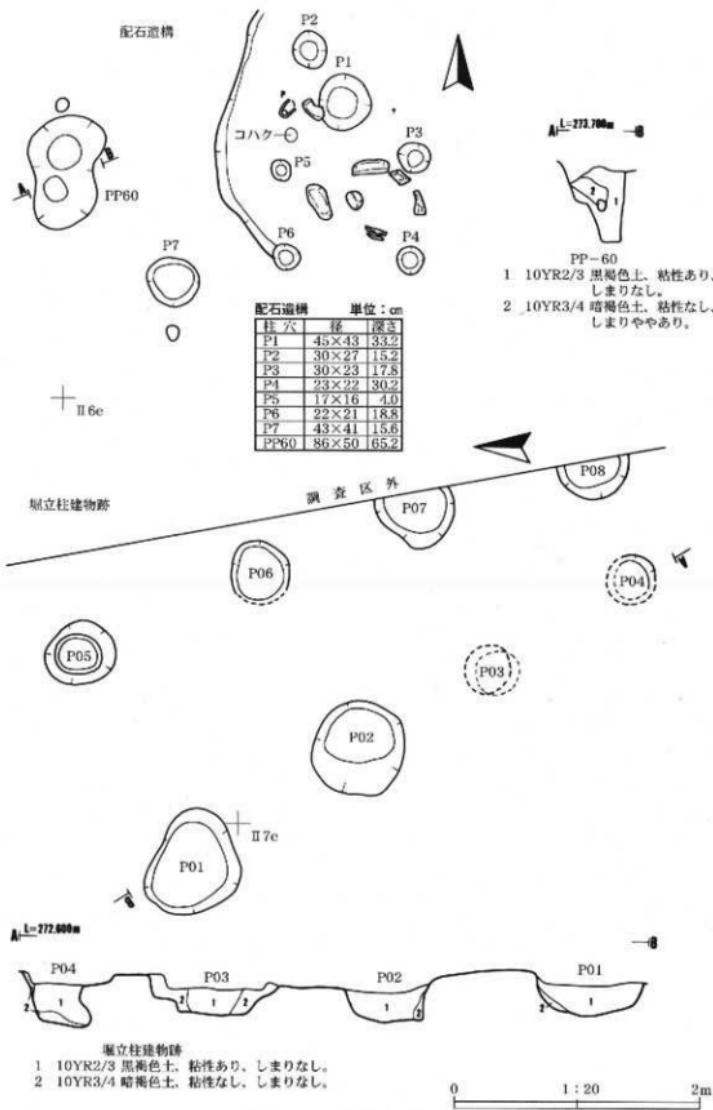
掘立柱建物跡柱穴

単位cm

No.	径	深さ	備 考	No.	径	深さ	備 考
P01	70×90	37		P05	55×58	不計測	
P02	70×80	20		P06	50×50	不計測	
P03	43×43	22		P07	62×不明	不計測	
P04	50×55	22		P08	60×不明	不計測	



第30図 溝跡



第31図 配石遺構・柱立柱建物跡

## 遺構外出土の遺物

### 1. 土器

多量の土器片が出土しているが、胎上に纖維の混じる土器は、遺構伴出の1点のみである。以下に時期毎に大別した。

#### (1) 縄文時代中期末葉の土器 (第46図-1、写真図版33-1)

キャラバ一形を呈し、4単位の波状口縁からなる沈線と磨消により変形した「J」字状の施文がなされる。遺物量は極めて少ない。

#### (2) 縄文時代後期前葉の土器 (第46図-2~6・9・15・16・21・第47図-1・第48図-1・5、写真図版33-2~6・9・15・16・21・23・34-16・20)

沈線と磨消による区画文を主とする土器である。平縁と波状口縁があり、器厚も厚いものと薄いものが多い。口縁突起の下に、粘土粒が貼付されたものもある。縄文はきっちりしたもののが使用されているものが多い。

#### (3) 縄文時代後期中葉の土器 (第46図-7・8・10~14、写真図版33-7・8・10~14)

平行沈線や平行沈線間に横行する線が施文される土器と、やや間隔の広い押圧を連続して巡らせる土器がある。突起状の波状口縁のものが多いようである。

#### (4) 縄文時代後期後葉の土器 (第46図-9・17~20、写真図版33-9・17~20)

細い口縁に繊かな連続押圧が巡る土器群である。研磨はていねいにおこなわれており、第46図-22や第47図-5・6も同群に入れてもいいかもしれない。

#### (5) 縄文時代後期末葉の土器 (第48図-11、写真図版35-5)

沈線や押圧の施文の他に粘土粒を貼付した土器群である。第48図-11は粘土粒の貼付はないが、三叉文状の施文がなされている。

#### (6) 縄文時代晚期初頭 (第47図-1・第48図-4、写真図版34-16・34-9)

三叉文を文様の主とする土器群である。

4は口縁部を欠損する注口土器である。胴部は球状で、注口部の基部に小さな突起が残る。

#### (7) 縄文時代晚期前葉の土器群 (第48図-9・10・12~15・第49図-1~11、写真図版35-3・4・6~15)

羊齒状文や三叉文を変形させた満巻状文が施されている土器群である。表面はよく研磨されている。第49図-2・4・7・8は第49図-9のような注口上部の破片のようである。

#### (8) 縄文時代晚期後葉の土器 (第49図-12~15、写真図版35-21~24)

雲形文や変形工字状文を施文する土器群である。

#### (9) 縄文時代晚期末葉の土器 (第49図-16、写真図版3-25)

変形工字文に粘土粒の貼付を作り土器群である。少量しか出土していない。

### 2. 土製品 (第49図-17~19~26、写真図版36-1~10)

第49図-17~19は土偶の破損品である。刺穴による施文が共通点である。19は脚部の破片と思われる。20は腕輪の破片のようである。21は板状の破片である。23・24はミニチュア土器の破損品である。25・26は円盤状土製品である。

### 3. 石器

石器は剥片石器、礫石器とも少ない。機種ごとに以下のように分類した。

(1) 鐵・石槍 (第50図-1~3、写真図版36-11~13)

両面を剥離加工で槍先形に整えたものである。1・2はやや短いが石槍と思われる。3は破損しているが石鐵と思われる。

(2) 石匙 (第50図-4、写真図版36-14)

つまみ部分が作り出された石器である。両面加工で、粗雑なつまみ部分と刃部が作られている。

(3) 削撃器 (第50図-5、写真図版36-15)

剥片の縁辺に刃部加工が施されたものである。

(4) 石錐 (第50図-6、写真図版36-16)

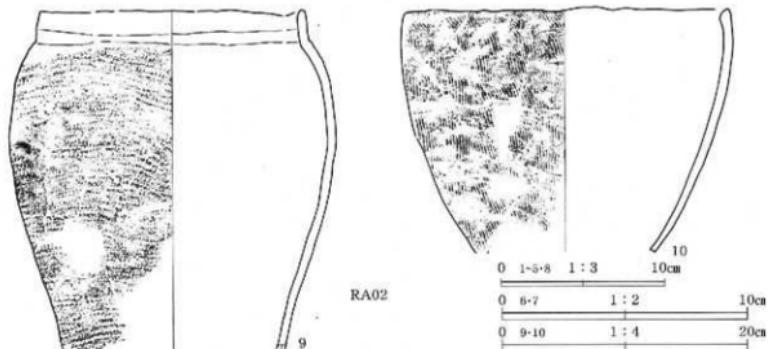
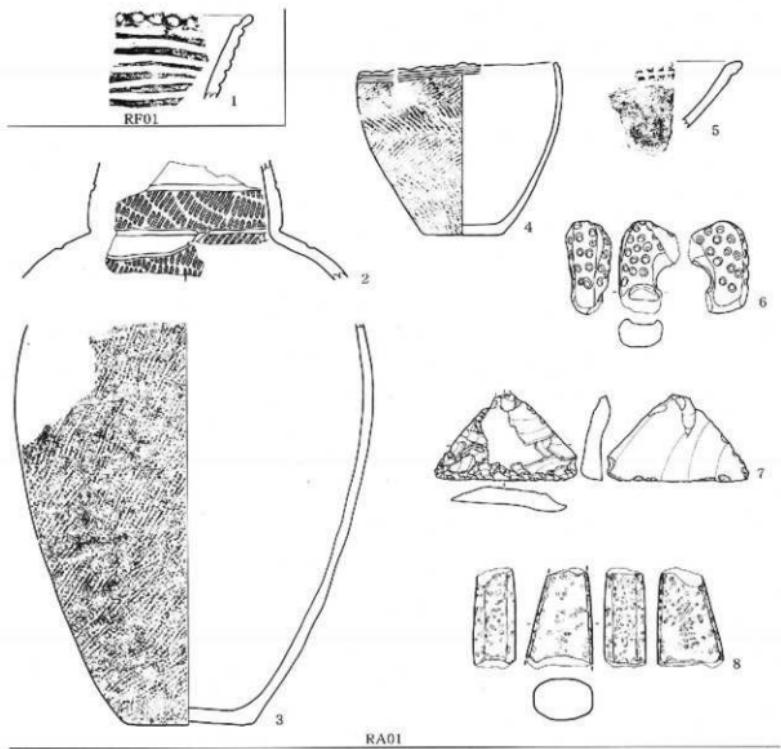
平らたい自然礫の両端を打欠いて、紐がはずれにくく、結べるように加工したもので、網のおもりと考えられている。

(5) 磨製石斧 (第50図-9~16、写真図版36-19~37-3)

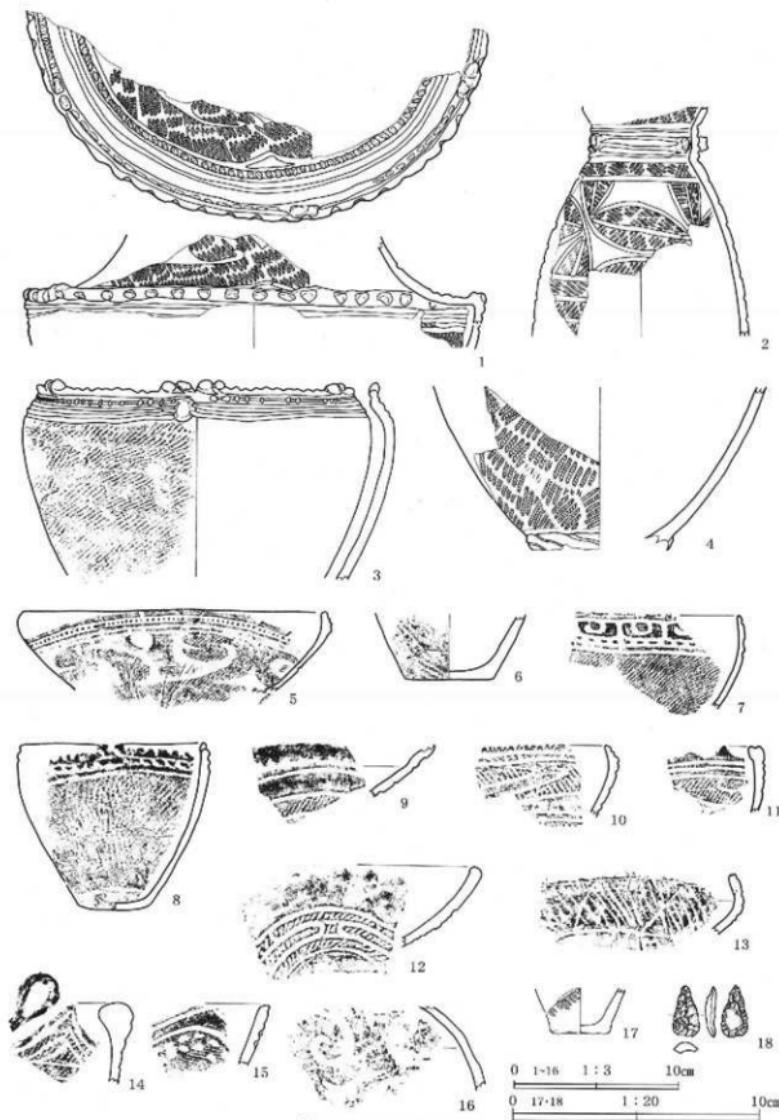
斧状に整形して、全面を研磨仕上げした石器である。大半が破損品である。14は自然礫に近い形状であるが、刃部が破損したような形状にみらるものである。15は厚目であり、刃部再生の可能性と石斧以外の転用が考えられる。

(6) 石皿・台石 (第51図-1~3、写真図版37-4~6)

磨石と対になり研磨や敲打の台になる石器である。くぼみから形成されているが、破損している。



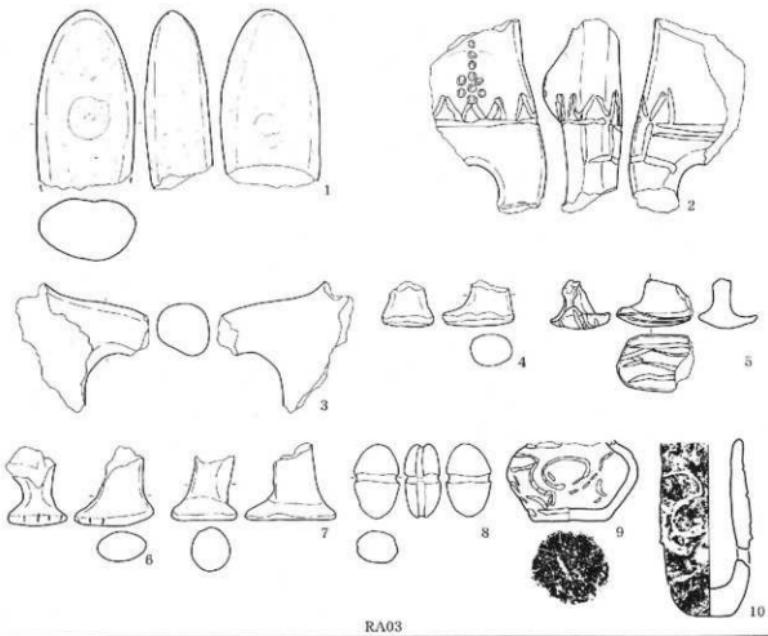
第32図 RF01・RA01・02(1)出土遺物



第33図 RA02(2)出土遺物

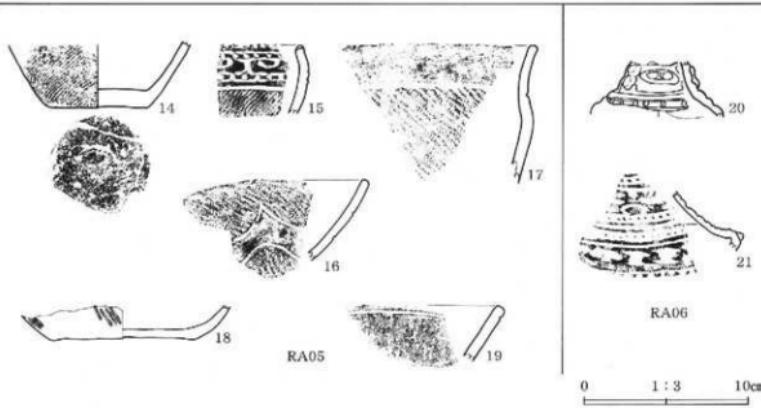
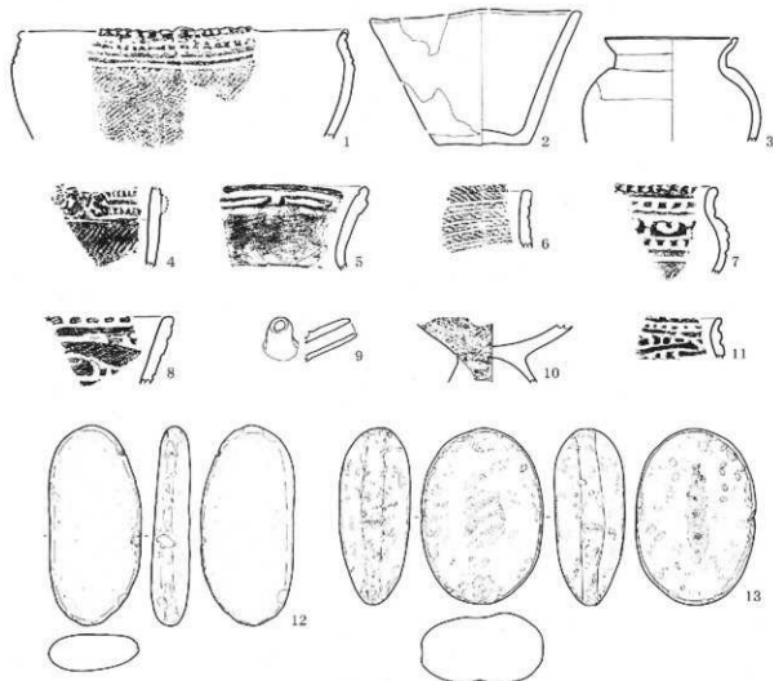


第34図 RA03(1)出土遺物

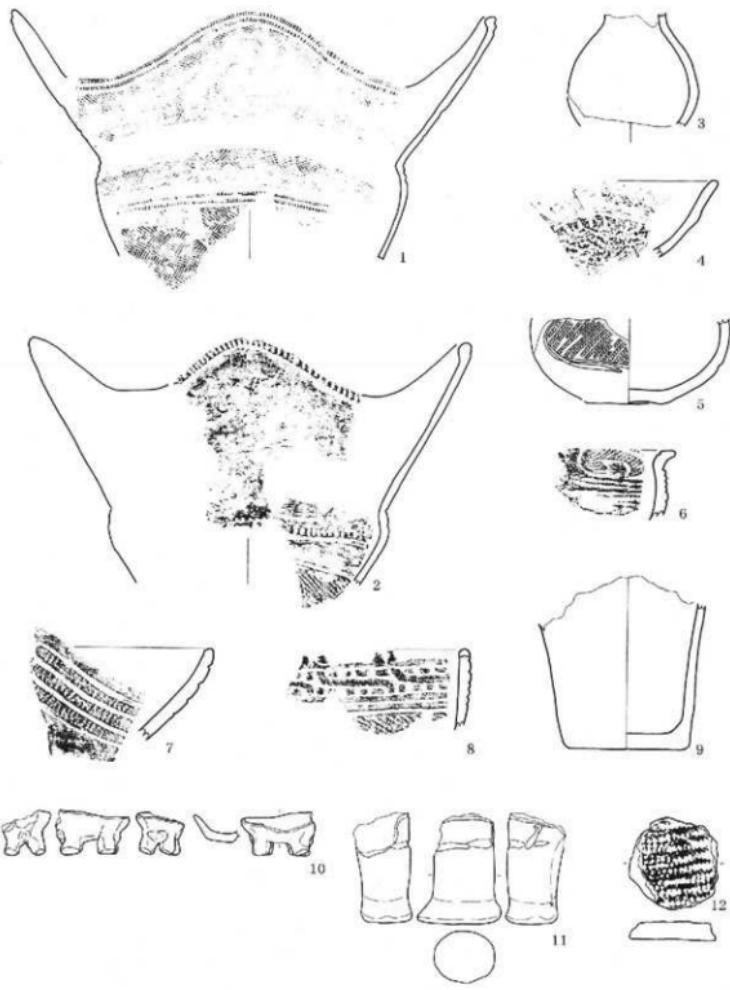


RA04  
 0 1-12-13 1 : 3 10cm  
 0 11 1 : 4 20cm  
 0 2-10 1 : 2 10cm

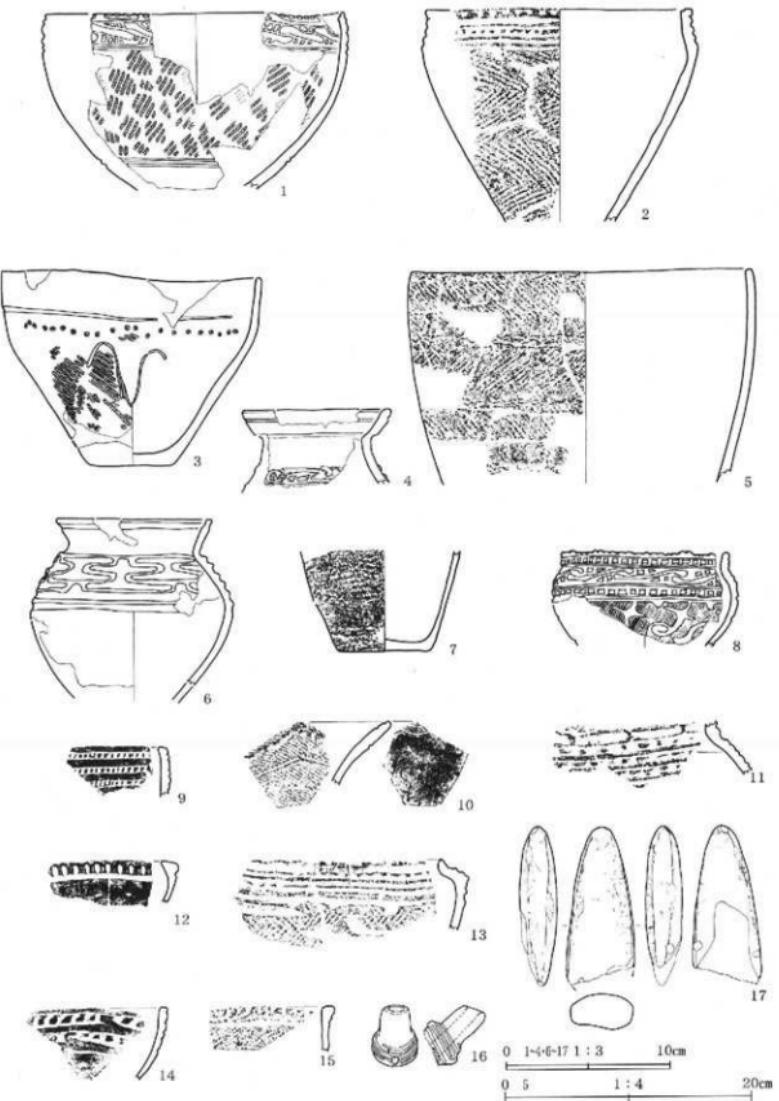
第35図 RA03(2)・04(1)出土遺物



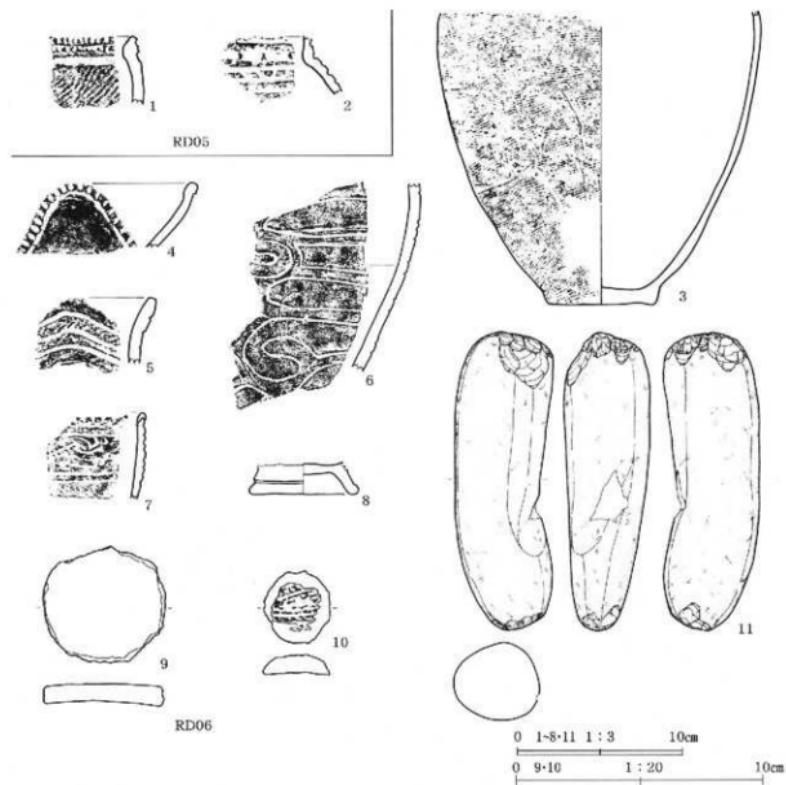
第36図 RA04(2)・05・06出土遺物



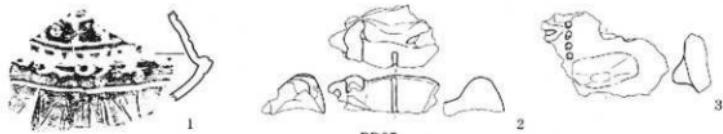
第37図 RA12出土遺物



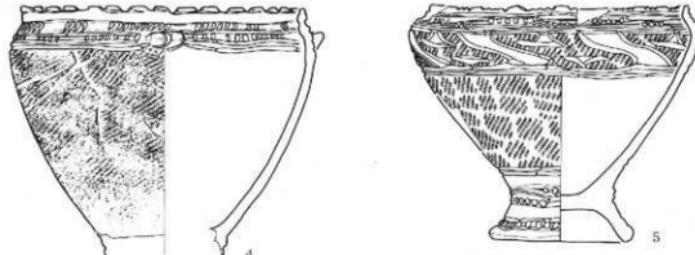
第38図 RA13出土遺物



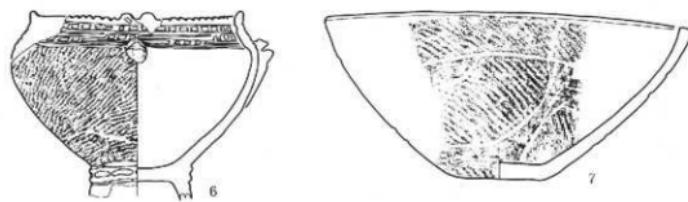
第39図 RD05・06出土遺物



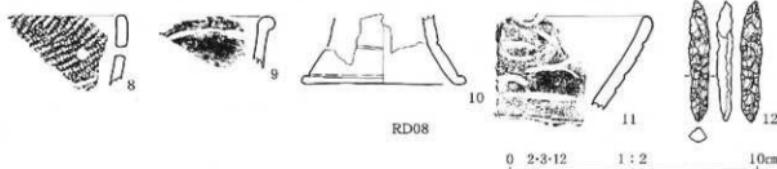
RD07



5



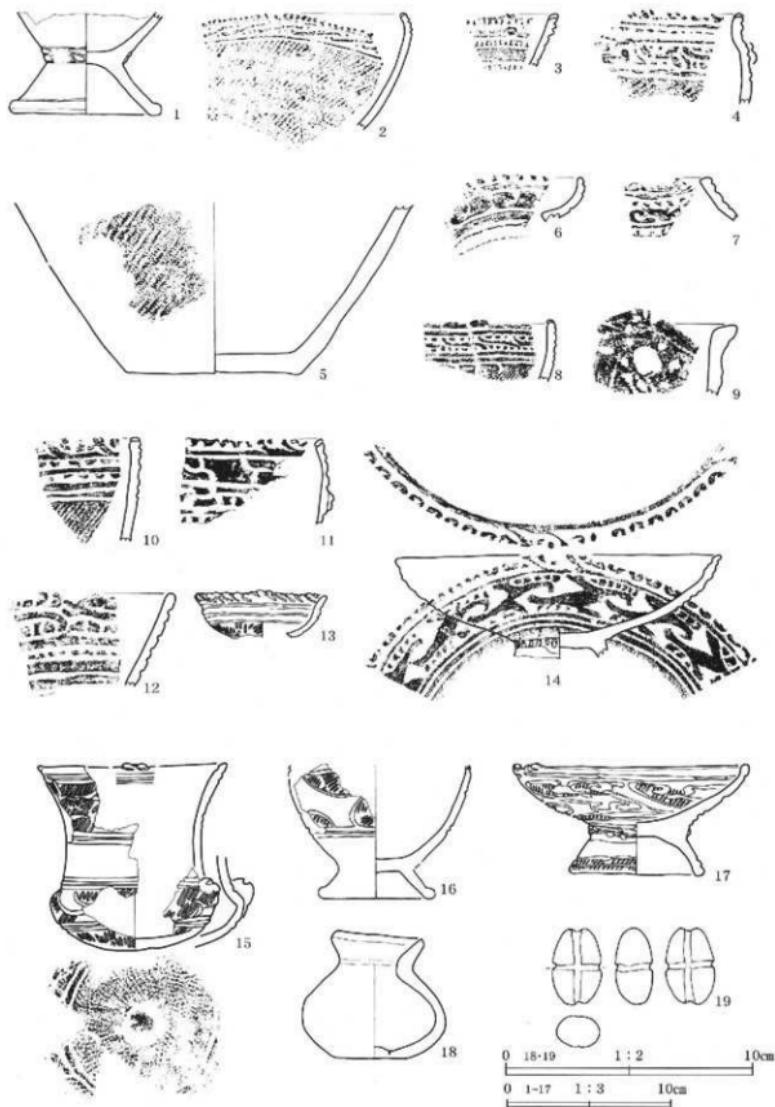
7



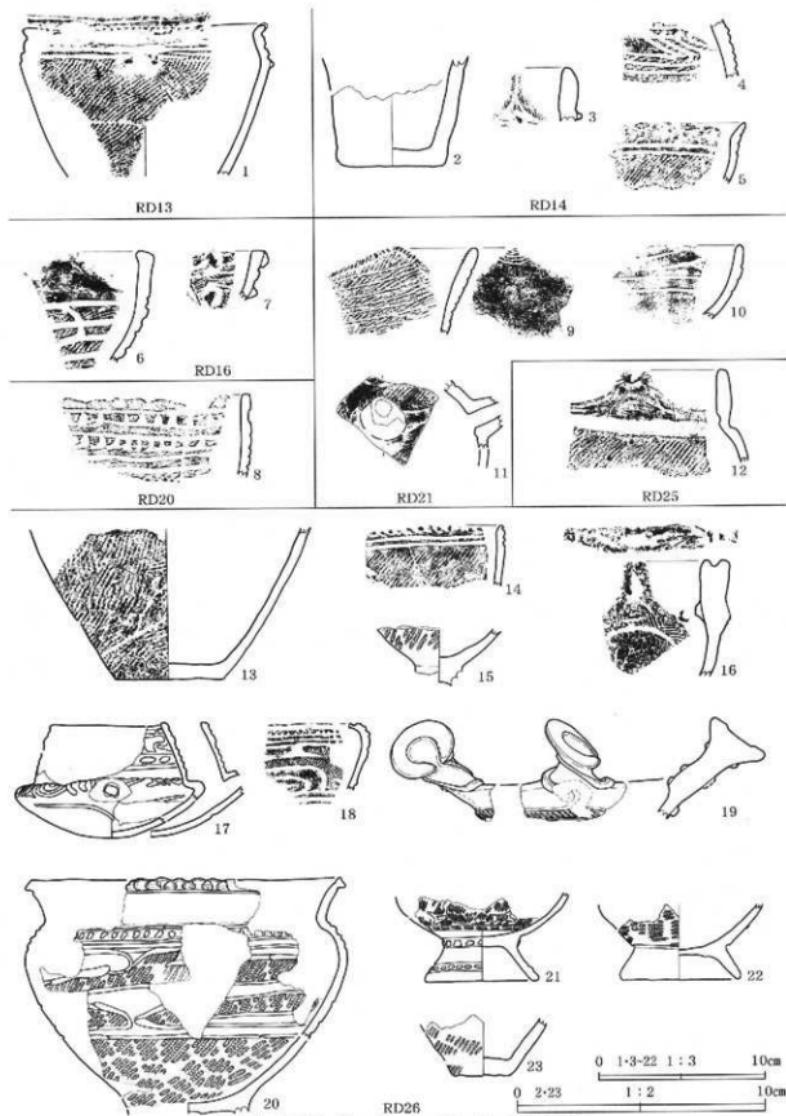
RD08

0	2-3-12	1:2	10cm
0	1-4-11	1:3	10cm

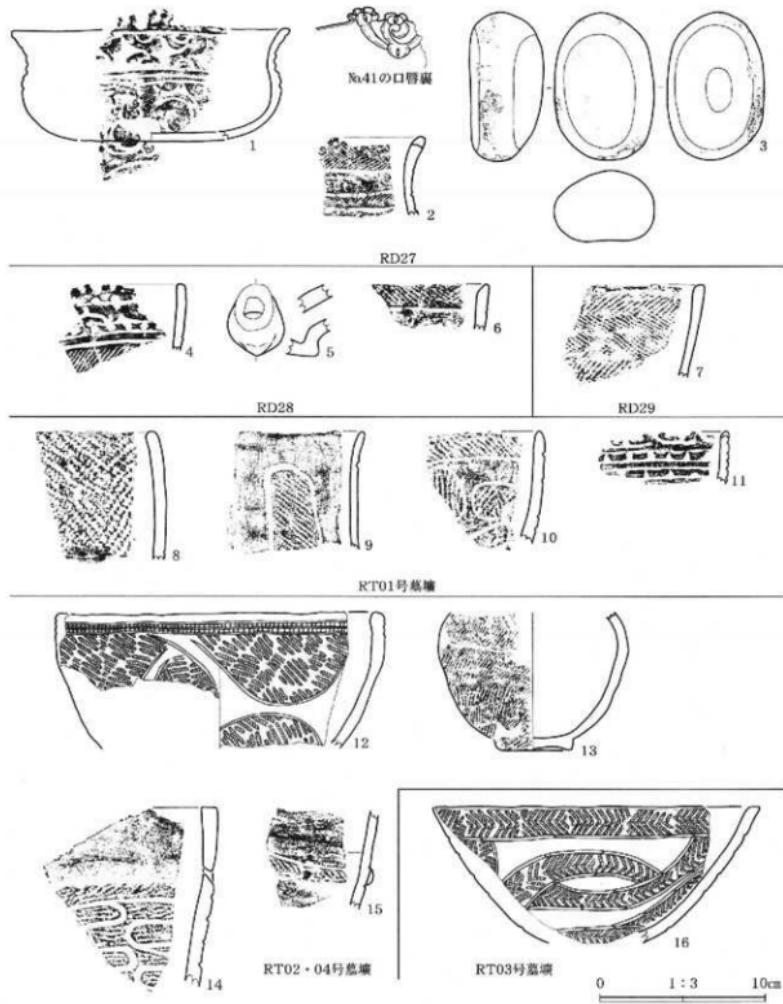
第40図 RD07・08出土遺物



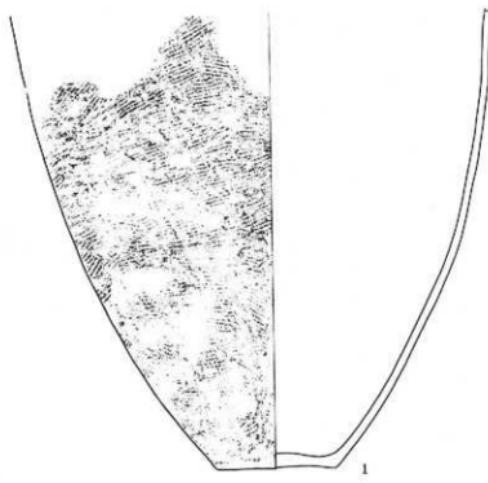
第41図 RD11出土遺物



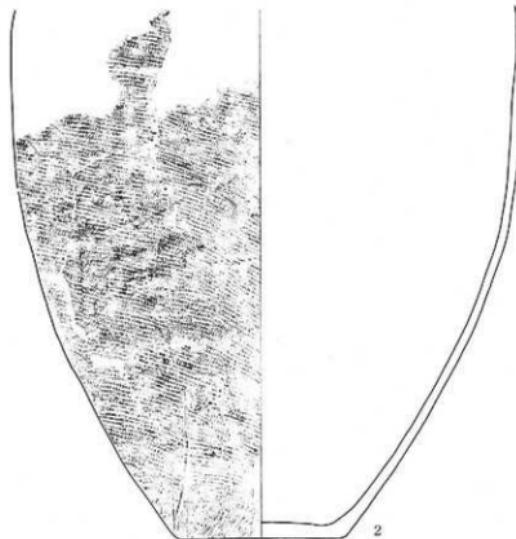
第42図 RD13・14・16・20・21・25・26出土遺物



第43図 RD27・28・29, RT01~04号墓塙出土遺物

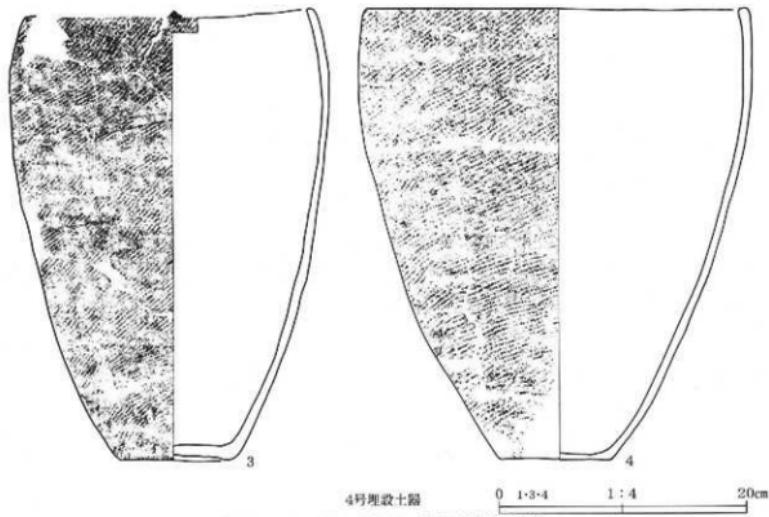
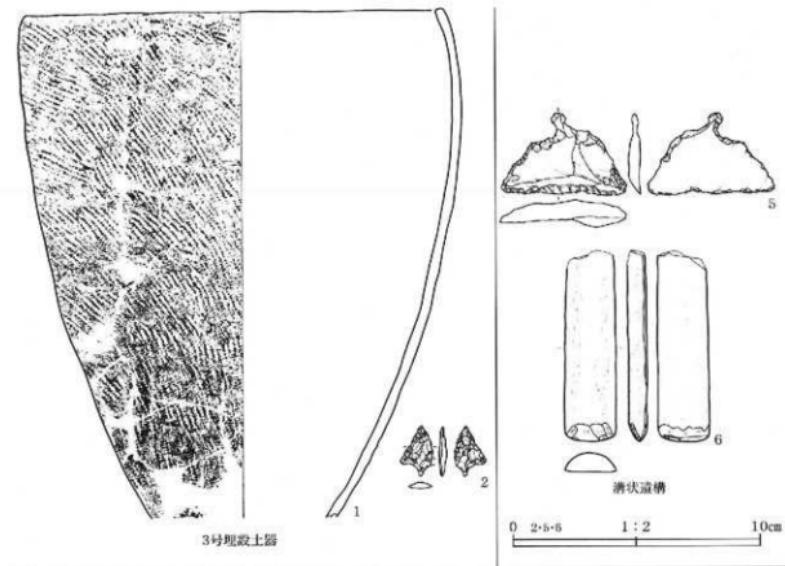


1号埋設土器

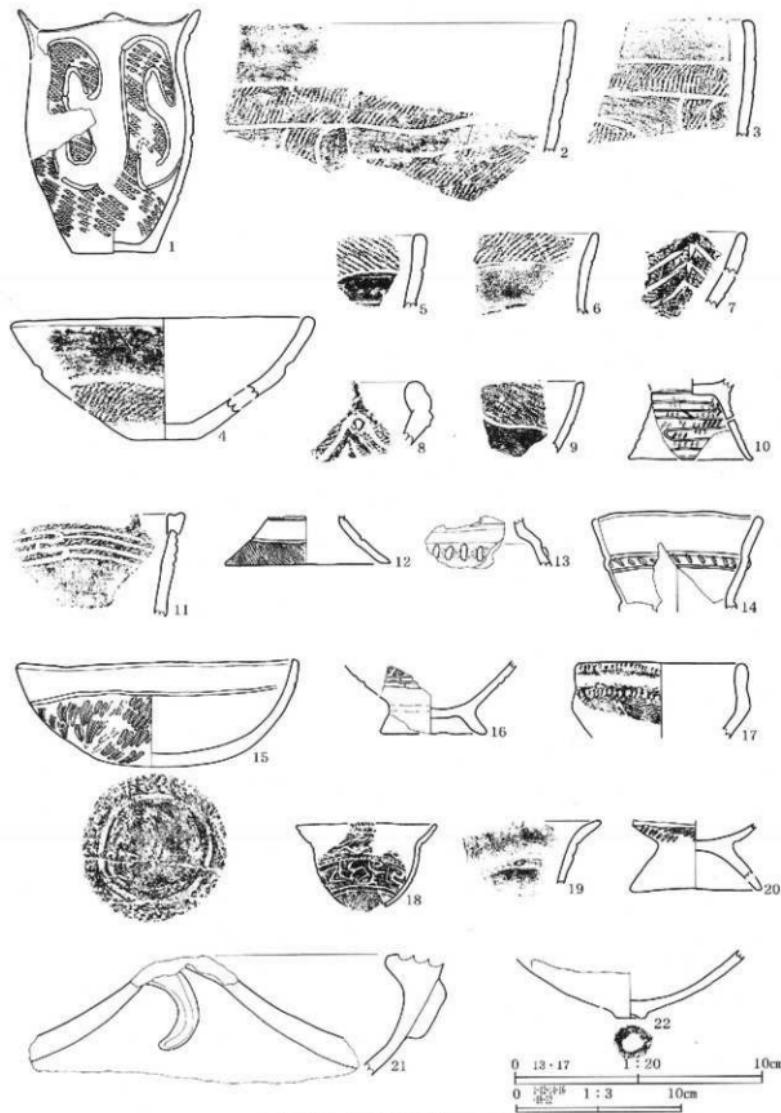


第44図 1・2号埋設土器

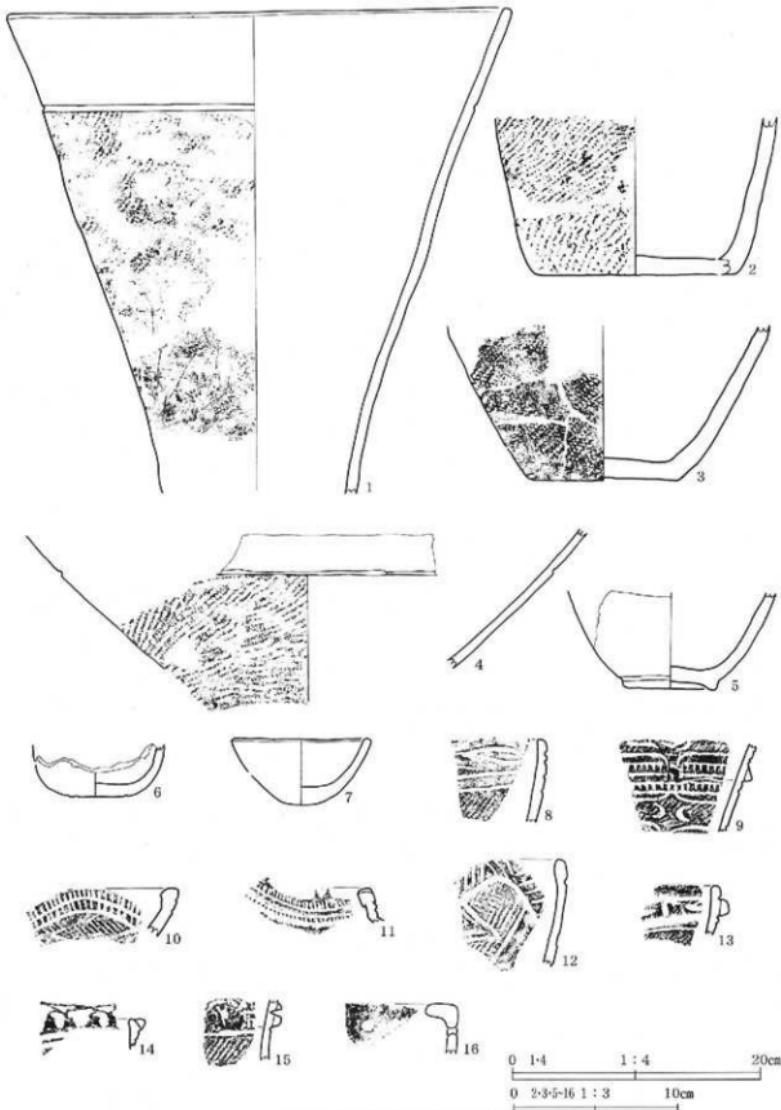
0 1 : 4 20cm



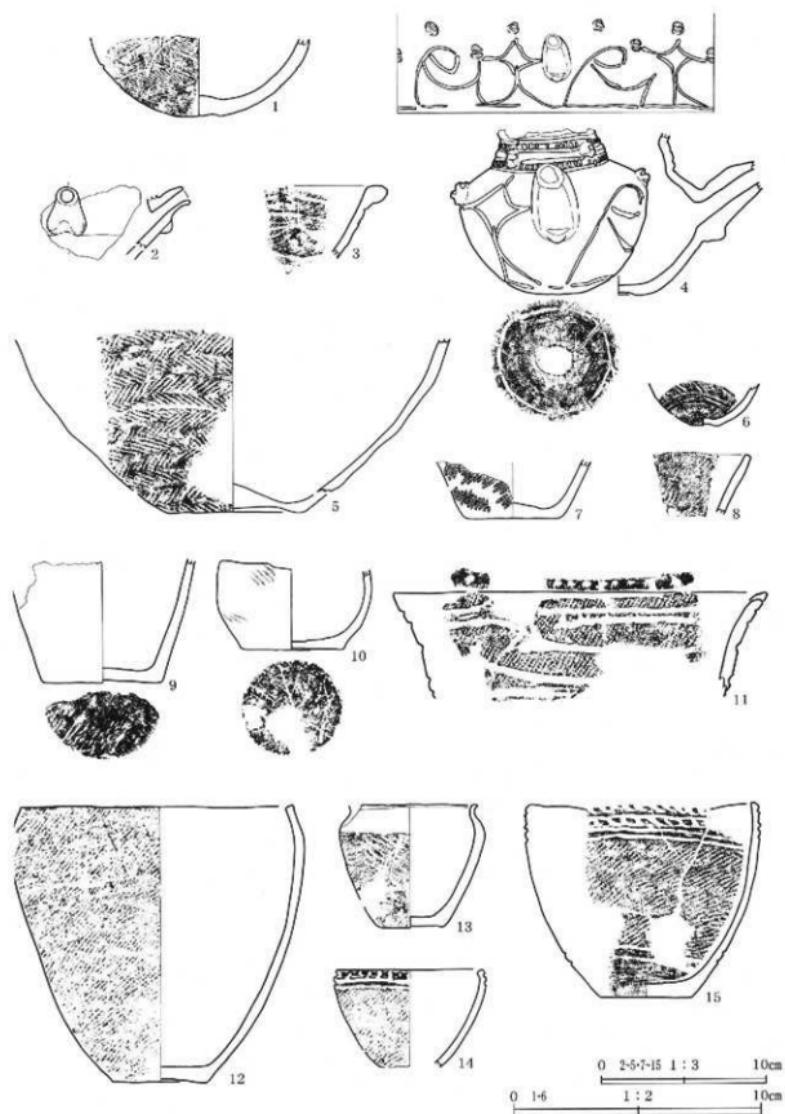
第45図 3・4号埋設土器・溝状遺構出土遺物



第46図 造構外出土遺物(土器1)



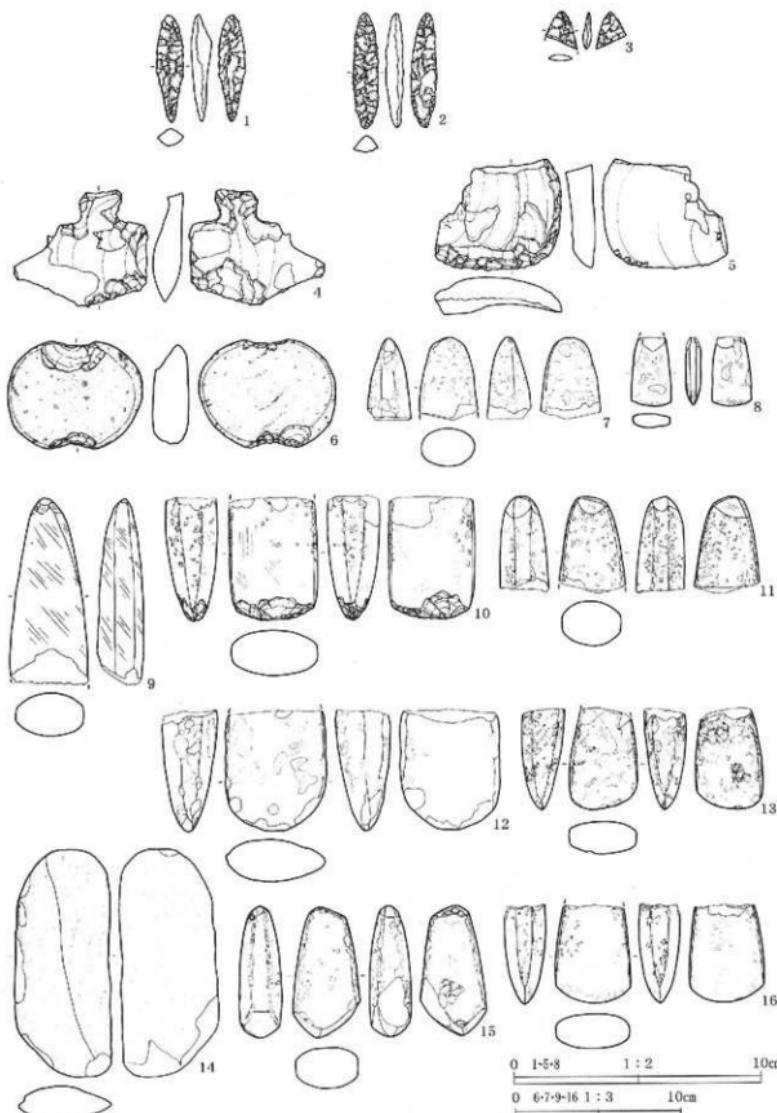
第47図 遺構外出土遺物(土器2)



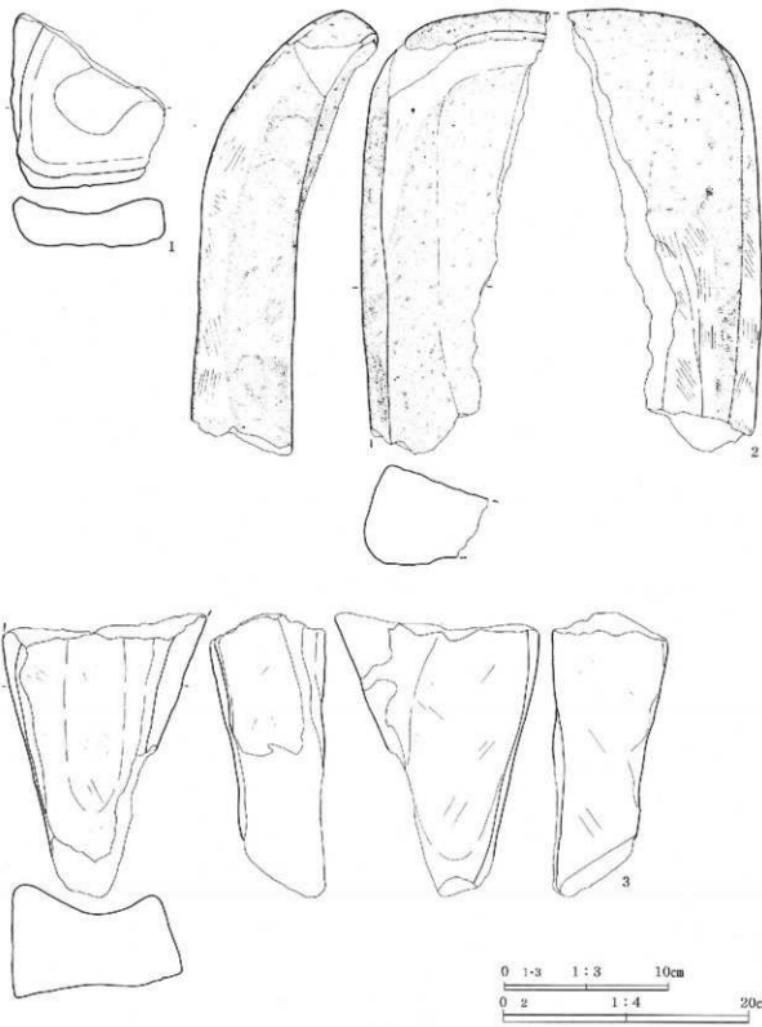
第48図 造構外出土遺物(土器3)



第49図 遺構外出土遺物(土器4・土製品)



第50図 遺構外出土遺物(石器1)



第51図 通構外出土遺物(石器2・石製品)

## VI. ま と め

### 1. 遺構

市部内遺跡で検出した竪穴住居は縄文時代のものが8棟で、うち縄文時代後期後葉と思われるもの2棟、晩期初頭～前葉と思われるものが6棟ある。縄文時代の上坑は22基、焼土遺構7基、墓壙は5基、埋設土器は4基検出した。

竪穴住居跡は、すべてII区から検出された。形状は円形を基調としており、規模は径2.25m～径5.5mであり、平均すると3.5mである。炉はすべてが地床炉で、住居の中央に1つの地床炉のあるもの、東寄りに2つの地床炉があるもの、調査区内に炉跡らしい痕跡は見当たらないものがあった。

上坑は22基で、縄文時代後期が4基、縄文時代晩期が11基、その他不明の縄文時代が6基、古代が1基である。平面形は円形基調のものと楕円形基調のものに大別される。円形のものは8基、楕円形のものが21基、搅乱により不明のものが1基である。断面形は皿形が14基、ビーカー形が4基、フラスコ形が1基、搅乱により不明が3基である。規模は径50cm～280cmである。

焼土遺構は7基検出された。検出位置はすべてII区からの検出である。規模は、径20cm～270cm・深さは2.5cm～6cmであり、不整形である。伴出遺物はなく、III層上面からの出土なので縄文時代より新しいものと思われる。

墓壙は、II区の北東から南北方向に並んで5基が検出された。平面形状は5基とも楕円形である。時期は検出遺物等から縄文時代である。規模の大きいものは220cm×280cmで、小さいものは73cm×140cmであり、平均すると約155cmである。壁は直立し壁際には溝が巡るものもある。深さは30cm～98cmである。

埋設土器は4基、II区6～7グリッド北東から南北方向に並んでおり、IV層上面で検出した。土器の大きさに掘り込んだ土坑に、胴部または胴下部が正面に埋設され、粗製の大型深鉢または深鉢で、大きさは径30cm～44cm、深さは24cm～32cmである。時期は縄文時代後期後葉から晩期前葉である。

この遺跡は縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけて継続的に利用されていた可能性が高い。しかし、調査者の力量が及ばず同時に存在する遺構の組み合わせや数、埋設土器と住居の関係など遺構間の関連については明らかにできなかった。

### 2. 遺物

今回の調査では、搅乱を受けている所が多く、II区に集中して出土した。遺構および包含層からの遺物の出土は大コンテナ(41cm×31cm×30cm)で約20箱強の出土である。土器は遺構内外併せて262点掲載した。石器は33点掲載した。このうちの9割以上が土器である。全体的に縄文時代後期から晩期の土器が出土しており、土製品、石製品等祭祀にかかわるとされる土器の出土もあった。

石器は少なく、石鏃4点・石匙2点・削器1点・石錐2点・磨製石斧9点・石皿3点・その他が出土している。北上山地のものが多い中で、安山岩の石皿は奥羽山脈のものもあった。石鏃の黒曜石は産地不明となっている。

## VII 火山灰分析・鑑定

岩手郡葛巻町市部内遺跡出土の火山灰  
株式会社 占環境研究所

### 1. はじめに

岩手県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、岩手火山、秋田駒ヶ岳火山、「十和田火山」など東北地方北部に分布する火山ほか、遠く北海道、中部、中国、九州、さらには、中国北朝鮮国境などに位置する火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる（たとえば、早田・八木、1991など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらと層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の推積年代を知ることができるようになっている。

そこで、遺跡発掘調査の際に認められたテフラについて、発掘調査担当者により採取された試料を対象に火山ガラス比分析、重鉱物組成分析（以上を合わせてテフラ組成分析と呼ぶ）、屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を行うことになった。

### 2. 分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、葛巻町市部内遺跡において、発掘調査担当者により採取された試料である。

### 3. 分析・測定方法

#### (1) テフラ組成分析（火山ガラス比・重鉱物組成分析）

テフラ組成分析の手順は、次の通りである。

1) 超音波洗浄により泥分を除去。

2) 80°Cで恒温乾燥。

3) 分析篩により、1/4-1/8mmの粒子を簡別。

4) 側光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態色調別組成を求める（火山ガラス比分析）。

5) 側光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

#### (2) 屈折率測定

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井、1972、1993）による。

### 4. 分析結果

14号上坑試料のテフラ組成ダイヤグラムを図1に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を表1および表2に示す。試料に含まれる火山ガラスの割合は36%で、量の多い順に、軽石型（纖維束状、スポンジ状：25.2%）、中間型（10%）、バブル型（平板状：0.8%）である。色調としては、無色透明のほか、淡褐色、淡灰色、淡緑色などの火山ガラスが認められる。重鉱物としては、量の多い順に斜方輝石（43.6%）、磁鐵鉱（34%）、単斜輝石（22%）などが含まれている。

屈折率測定の結果を表3に示す。試料に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(r)の屈折率は、各々1.498-1.505と1.706-1.708である。以上のことから、この試料には915年に「十和田火山」から噴出したと考えられている十和田a火山灰(To-a、町田ほか、1981)に由来するテフラ粒子が含まれている可能性が高いと考えられる。

## 5. まとめ

岩手県内の発掘調査において認められたテフラ試料について、火山ガラス比分析、重鉱物組成分析（以上、テフラ組成分析）と屈折率測定を行った。その結果、十和田a火山灰(To-a, 915AD) のほか、十和田中振テフラ(To-Cu, 5,500年前\*2)や白頭山苦小牧火山灰(B-Tm, 800~900年前\*1)に由来する可能性の高いテフラ粒子が検出された。なお、テフラが一次堆積層として認められたか否かについては、現地において土層断面を観察できなかったことから言及できない。

表1 市部内遺跡における火山ガラス比分析結果

試料採取地点	bw	md	pm	その他	合計
14号土坑	2	25	63	160	250

表2 市部内遺跡における重鉱物組成分析結果

試料採取地点	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
14号土坑	0	109	55	0	0	85	1	250

数字は粒子数。ol：カンラン石、opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石、ho：角閃石、bi：黒雲母、mt：磁鐵鉱。

表3 市部内遺跡における屈折率測定結果

試料採取地点	火山ガラス(n)	斜方輝石(r)
14号土坑	1.498~1.505	1.706~1.708

屈折率測定は、温度一定型屈折率測定法（新井、1992, 1993）による。

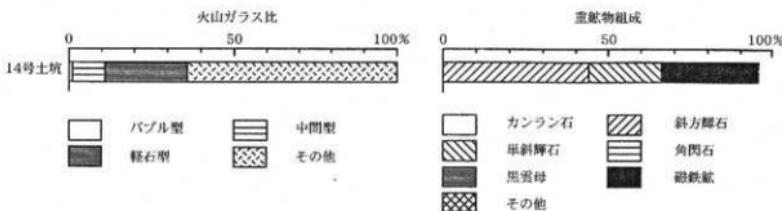


図1 市部内遺跡におけるテフラ組成ダイヤグラム

遺物観察表（土器・土製品）－1

図版 写真図版	出上地 点・層	位	器 種	部 位	文様・その他	分 類
32-1 22-1 RF01 墓土中	深鉢	口縁	押口唇	楕平口唇	垂側沈線	晚周Ⅰ墓後半
32-2 22-2 RA01 墓土	壺?	新郎～胴	すりけし	RL 黒色唇	晚周Ⅰ墓前半	
32-3 22-3 RA01 墓土上	深鉢	口縁～底	LR 内面凹り			
32-4 22-4 RA01 墓土	鉢	立体	波状口縁	沈線	(後期?)	
32-5 22-5 RA01 墓土	鉢	口縁	沈線文		後周後墓	
32-6 22-6 RA01 墓土	土圓	肩	刺突	中央		
32-9 22-9 RA02 墓土	深鉢	口縁～胴	LR 小穴	無文		
32-10 22-10 RA02 墓土	鉢	口縁～胴	LR 口唇内そき (門厚)		後周?	
33-1 23-1 RA02 墓土	大型注口	口縁	連續刻目	平行沈線	晚周Ⅰ墓	
33-2 23-2 RA02 墓土	壺	口縁～胴	平行沈線	羽状彫文	晚周木葬	
33-3 23-3 RA02 墓土下	鉢	口縁～胴	波状突起	連續刻目	晚周Ⅰ墓	
33-4 23-4 RA02 墓土	鉢	肩～底	R.I.		晚周中墓	
33-5 23-5 RA02 墓土	浅鉢	縁	刻口文	平行沈線 翼形文	晚周中墓	
33-6 23-6 RA02 墓土	鉢	肩～底	羽状彫文		晚周Ⅰ墓	
33-7 23-7 RA02 墓土	鉢	口縁	波状口縁	羊首状文 LR	晚周前葉後半	
33-8 23-8 RA02 床面	鉢	立体	波状口縁	羊首状文	燎周前葉	
33-9 23-9 RA02 墓土	浅鉢	口縁	すりけし	沈線 縞文	燎周中墓	
33-10 23-10 RA02 墓土	鉢	口縁	波状口縁	刺突刻目 翼形文	晚周中墓～後期	
33-11 23-11 RA02 墓土	鉢	口縁	平行沈線			
33-12 23-12 RA02 墓土	深鉢	口縁	大波状口縁	無文 みかさ	後周中墓後半	
33-13 23-13 RA02 床面?	壺?	肩	沈線		後周中墓	
33-14 23-14 RA02 墓土	深鉢	口縁	突起	衣縫文 縞文		
33-15 23-15 RA02 墓土	鉢	口縁	沈線 刺突文		繩文前周後半	
33-16 23-16 RA02 墓土	壺	肩	縞形文	赤绘り	晚周中墓	
33-17 23-17 RA02 墓土	鉢	肩～底	RL			
34-1 24-1 RA03 墓土 RD08-09検出面	深鉢	口縁～胴	外輪 LR 繩織混入		前周前葉	
34-2 24-2 RA03 墓土 I:	鉢	口縁	帶状文 沈線 RL 内側に羽状彫文		後周前葉	
34-3 24-3 RA03 墓土下	鉢	肩～底	R.I.			
34-4 24-4 RA03 墓土	鉢	口縁～底	波状口唇 三爻文 LR		晚周前葉	
34-5 24-5 RA03 墓土下	深鉢	口縁	大波状口唇 平行沈線 门形刻癸文	すりけし	晚周初頭	
34-6 24-6 RA03 墓土下	壺	肩	みがき 赤绘り			
34-7 24-7 RA03 墓土下	壺	口縁	羊首状文 入網文		晚周前葉後半～中	
34-8 24-8 RA03 墓土上	不明	口縁	連續文 突起		晚周前葉後半	

遺物觀察表（土器・土製品）－2

図版 写真図版	出上地 点・層位	器種	部位	文様・その他	分類
34-9 24-9 RA03	堀上	小深鉢	完形	波状口唇 刻目による八組文 穂形文	晚期中葉
34-10 24-10 RA03	堀土	台付鉢	完形	突起 沈線 刻目による八組文 LR	晚期中葉
34-11 24-11 RA03	堀土	台付鉢	完形	波状口唇 穂形文 刻目によるすかし	晚期中葉
34-12 24-12 RA03	堀土	小鉢	立体	波状口唇 穂形文 RL	晚期中葉
34-13 24-13 RA03	堀土	漬	胸	突起 剣目	晚期前葉
34-14 24-14 RA03	堀土下	鉢	口縁	橢円沈線 遠珠文	晚期前葉後半
34-15 24-15 RA03	堀土	鉢	口縁	波状口唇 人組三文文	晩期前葉前半
34-16 24-16 RA03	堀土	鉢	口縁	沈線	丹後式
34-17 24-17 RA03	堀土下	注口	口		不明
35-2 25-1 RA03	床下	土鍋	胸~脚	刺突	
35-3 25-2 RA03	堀土下位	土鍋	肩~腕		
35-4 25-3 RA03	堀土下位	土鍋	片脚	無文	
35-5 25-4 RA03	床面埋土下	土鍋	足	無文	
35-6 25-5 RA03	堀土下	土鍋	足		
35-7 25-6 RA03	堀土上	土鉢	右脚	無文	
35-8 25-7 RA03	堀土下	土鉢	完形	十字沈線 黃褐色	
35-9 25-8 RA03	堀土中	小鄭十器	(輪状)鉢	口~胸	
35-10 25-9 RA03北	褐色土	深鉢	立休	下位に孔 突起RL	
35-11 25-10 RA03	堀土下	壺	口縁~胸	沈線 みがき 赤塗り	
35-12 25-11 RA04	埋土中~下	鉢	立休	波状口唇 入組文 RL	
35-13 25-12 RA04	堀土	鉢	口縁	波状口唇 入組文 沈線 RL	
36-1 25-13 RA04	埋土上	深鉢	完形	無文	
36-2 25-14 RA04	堀土上	深鉢	口縁	II腰外鴨 みがき 赤塗り	
36-3 25-15 RA04	堀土	深鉢	口縁	赤塗り	
36-4 26-1 RA04	埋土中~下	鉢	口縁	I字文?	晚期後葉?
36-5 26-2 RA04	埋土中~下	鉢	口縁	口唇上面に脚文 平行沈線	
36-6 26-3 RA04	埋土中~下	鉢	口縁	波状口唇 入組文	
36-7 26-4 RA04	埋土中~下	鉢	口縫	波状口唇 半圓状文の変形	晚期前葉後半
36-8 26-5 RA04	検出断面	鉢	口縫	無文	
36-9 26-6 RA04	中~下位	注口	口		
36-10 26-7 RA04	埋土中~下	台付	台部		
36-11 26-8 RA04	埋土上~中	鉢	口縫	台部 半圓状文	後期後葉
36-14 26-11 RA05	堀土上~下	深鉢	底部	RL	後・晚期

遺物觀察表（土器・土製品）－3

圖版	写真出版	出土地點・層位	器種	部位	文様・その他	分類
36-15	26-12 RA05	埋土中～下	鉢	口縁	沈線 LR	晚期前葉
36-16	26-13 RA05	埋土中～下	鉢	口縁	RL	後期中葉
36-17	26-14 RA05	埋土中～下	深鉢	口縁	口唇上面に縦文 すりけし RL	後期
36-18	26-15 RA05	埋土下	深鉢	底部	LR	後・晚期
36-19	26-16 RA05	埋土下	鉢	口縁	口面沈線文 LR	後期後葉・中葉
36-20	26-17 RA06	埋土上	注口	口縁	押圧状刻目列 赤焼り	後期後葉
36-21	26-18 RA06	埋土	注口	片	刻口 半輪状文	後期中葉
37-1	26-19 RA12	RA09 埋土	深鉢	口縁～胸	大波状口唇 羽状綱文	後期中葉
37-2	26-20 RA12	埋土中	深鉢	口縁	大波状口唇 遷院刻目 すりけし RL	後期中葉
37-3	26-21 RA12	床面	鉢	胸	無文 みがき 内面ナデ	後期後葉
37-4	26-22 RA12	床面上	深鉢	口縁	すりけし LR	後期後葉
37-5	26-23 RA12	埋土中	鉢	底	沈線 縄文	晚期前葉半
37-6	26-24 RA12	埋土中	鉢	口縁	突起 すりけし LR 簡形文	晚期前葉
37-7	26-25 RA12	埋土上	鉢	口縁	平行帯状文	晚期中葉
37-8	26-26 RA12	埋土中	鉢	口縁	突起 半輪状文 RL	晚期中葉
37-9	26-27 RA12	RD06・II 7c 漢出面	鉢	口縫	無文	
37-10	27-1 RA12	床面	土製品	立体	動物の頭の表現 上面皿 腹部茶色	
37-11	27-2 RA12	埋土	土器	左側	RL 縄文	
37-12	27-3 RA12	埋土中位	門縫			
38-1	27-4 RA13	床上	鉢	立体	波状口唇 入組文	晚期中葉
38-2	27-5 RA13	床面	深鉢	立体	波状口唇 入組文 羽状割文 LR	晚期中葉
38-3	27-6 RA13	黒褐色	深鉢	立体	口縫無文内縫 刺突文 LR	晚期後葉
38-4	27-7 RA13	埋土	注口	口縫	沈線 半輪状文 赤塗り	晚期前葉
38-5	27-8 RA13	床面	深鉢	口縫	LR 繰り研和捺	
38-6	27-9 RA13	褐色土	壺	元形	二角工字文 赤色	晚期後葉
38-7	27-10 RA13	褐色土	鉢	胸～底	すりけし LR	
38-8	27-11 RA13	埋土	鉢	口縫	連続刻目 帯状 半輪状文	晚期前葉
38-9	27-12 RA13	埋土(褐色土)	鉢	口縫	入組文	晚期中葉
38-10	27-13 RA13	床上	鉢	口縫	内側に沈線と縦文 RL	晚期中葉
38-11	27-14 RA13	埋土上位	鉢	頸部	入組文	晚期中葉
38-12	27-15 RA13	埋土(褐色土)	鉢	口縫	連続刻目 沈線 赤塗り	晚期中葉
38-13	27-16 RA13	床面下	不明	口縫	波状口唇 連続刻突 横位沈線 RL	
38-14	27-17 RA13	埋土(褐色土)	口縫	赤塗り		

## 遺物觀察表（土器・土製品）－4

圖版	写真図版	出土地点	層位	器種	部位	刻目	沈縫 LR	その他	分類	後期中葉
38-15	27-18	RA13	堆上褐色土	鉢	口縫					
38-16	27-19	RA13	堆上褐色土	注口鉢	注口部					
39-1	28-1	RD05	堆上黒褐色土	鉢	口縫	小波状口凹			晚期前葉	
39-2	28-2	RD05	堆上・下	鉢	口縫	列点文			晚期前葉	
39-3	28-3	RD06	検出面	RD09褐色	深鉢	口縫	LR			
39-4	28-4	RD06	堆上・中	深鉢	口縫	波状口唇			後期中葉	
39-5	28-5	RD06	堆上・下黒褐色	深鉢	口縫	波状口唇	帶狀文			
39-6	28-6	RD06	堆上・下黒褐色	深鉢?	脣?	曲線状沈縫文				
39-7	28-7	RD06	堆上・黒褐色	鉢	口縫	波状口唇	三叉文	裏側横ナ字彌あり		後期前葉前半
39-8	28-8	RD06	堆上	台付	台	台脚木底				
39-9	28-9	RD06	堆土下位褐色土	円盤	口縫	無文				
39-10	28-10	RD06	堆土・粘土	円盤	口縫	沈縫				
40-1	28-12	RD07	IIc6検出面	注口	脣	逆記刻目	沈縫			晚期前葉
40-2	28-13	RD07	黒褐色土	十両	左脚	(1) 無文				
40-3	28-14	RD07	黒褐色土	上脚	左脚	(2) 無文				
40-4	28-15	RD08	堆土	台付深鉢	立体	波状口唇	突起	刻目による入組文 塗形文		
40-5	28-16	RD08	堆土・粘土	台付深鉢	完形	波状口唇	突起	刻目による入組文 塗形文		
40-6	28-17	RD08	堆土上	台付深鉢	台付深鉢	圧刻波状口唇	入組文 RL			晚期中葉
40-7	28-18	RD08	堆土褐色土	鉢	立脚	RL	横沈縫	帯狀文		
40-8	29-1	RD08	堆土・粘土	深鉢	口縫	LR	無文	内側孔縫		晚期中葉
40-9	29-2	RD08	堆土巾	不明	口縫					後期後葉
40-10	29-3	RD08	堆土	鉢	台部					
40-11	29-4	RD08	堆土・粘土	鉢	片					
41-1	29-6	RD11	堆土下	台付鉢	台部未伝					
41-2	29-7	RD11	堆土下	鉢	口縫	波状口唇	羊齒状文	内側みがき LR		晚期後葉前半
41-3	29-8	RD11	堆土・下	鉢	口縫	突起	連續刻目	「すりけし」		晚期後葉
41-4	29-9	RD11	堆土・中	鉢	口縫	突起	羊齒状文			晚期前葉後半
41-5	29-10	RD11	堆土・中	深鉢	口縫	突起	羊齒状文			
41-6	29-11	RD11	堆土・中	深鉢	口縫	I.R.				晚期前葉前半
41-7	29-12	RD11	堆土・中	注口	口縫	C字文	通珠文	みがき		晚期後葉後半
41-8	29-13	RD11	堆土・中	注口	口縫	羊齒状文				晚期後葉後半
41-9	29-14	RD11	堆土・中	鉢	口縫	突起	羊齒状文			小輪・後葉
41-10	29-15	RD11	堆土ベリット	鉢	口縫	波状口唇	円形刺突文	LR		晚期前葉後半

## 遺物觀察表（土器・土製品）—5

圖版	写真図版	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	分類
41-11	29-16	RD11 墓十一ベルト	盃	立体	裝飾口縁 羊飼状文 連続刻目	晚期前葉後半
41-12	29-17	RD11 IIc	浅鉢	立体	波状口縫 平行沈線 LR みがき	晚期前葉
41-13	29-18	RD11 墓色十一	皿?	立体	波状口縫 内側波状沈線 圧刻 赤色漆绘	晚期前葉
41-14	29-19	RD11 墓十	盃?	立体	羊齒状文	晚期中葉
41-15	29-20	RD11 IIc褐色七	盃	立体	内側波状 突起 異形文	晚期中葉
41-16	29-21	RD11 棚上面	台付鉢	立体	沈線~突起し	晚期中葉
41-17	29-22	RD11 墓土中	台付皿	立形	小突起2個 2対 異形文 赤色漆绘	晚期中葉
41-18	29-23	RD11 墓土上位	ミニチュア	完形	頸部くびれ 無文	後期
41-19	29-24	RD11 墓土中	土盤	完形	沈線	後期
42-1	29-25	RD13	鉢	口縁~側部	突起 R1	晚期前葉
42-2	29-26	RD14 墓土下	鉢	底?	無文	後期
42-3	29-27	RD14 墓土下	鉢	口縫	突起 二角形状沈線区画	後期前葉
42-4	29-28	RD14 墓土下	不判	片	沈線 刺突	後期前葉
42-5	29-29	RD14 墓十一褐色十	鉢	口縫	外反沈狀口縫 内側みがき LR ×字状施文	後期前葉前半
42-6	29-30	RD16 墓十一ベルト	深鉢	口縫	大波状口縫 帯状文	後期前葉前半
42-7	29-31	RD16 墓十一ベルト	鉢	口縫	突起 LR ゆりかけし 沈線	後期中葉
42-8	29-32	RD20 墓土中	深鉢	口縫	羊齒状文	後期後葉
42-9	30-1	RD21 墓土中	鉢	口縫	裏側沈線 平行沈線 LR	晚期前葉後半
42-10	30-2	RD21 墓土中	鉢	口縫	みがき	後期後葉
42-11	30-3	RD21 墓土中	皿II	口	羽状調文 沈線 ゆりかけし	後期後葉
42-12	30-4	RD25 墓土中	深鉢	口縫	波状口縫 LR 機位沈線	後期後葉
42-13	30-5	RD26 墓十一中~上	鉢	口縫~底	LR	後期後葉
42-14	30-6	RD26 墓土上	鉢	---	波状口縫 沈線 LR	晚期中葉
42-15	30-7	RD26 墓土上	合付	口縫~台	LR	後期後葉
42-16	30-8	RD26 墓土中	深鉢	口縫	角状口縫 内側にも突起 LR	後期後葉
42-17	30-9	RD26 墓土中	注口	立體	沈線 突起文	晚期前葉
42-18	30-10	RD26 墓十一黒褐色上	鉢	口縫	波状口縫 沈線 LR 帶状文	後期中葉
42-19	30-11	RD26 墓土上	深鉢	突起	後期	後期後葉
42-20	30-12	RD26 墓土上~下	深鉢	V型	波状口縫 工字文	晚期中葉
42-21	30-13	RD26 墓土上	台付鉢	底	異形文 鉢口	晚期中葉
42-22	30-14	RD26 墓土上	台付鉢	底	LR	後期
42-23	30-15	RD26 墓土上	鉢	底		

## 遺物観察表（土器・土製品）- 6

図版	写真図版	出土地点	層位	器種	部位	文様・その他	分類
43-1	30-16	R1227	埴土中	焼鉢	口縁~底	突起 車はりつけ	晚期初頭
43-2	30-17	R1227	埴土中	鉢	口縁	突起 刃状縄文 槌目線	後期終盤
43-4	30-19	R1228	壘土中	鉢	口縁	波状口唇 突起 みがき LR	晚期前後半
43-5	30-20	R1228	埴土中	注口	口	突起	
43-6	30-21	R1228	埴土中	鉢	口縁	RL 槌沈縦	後期中葉
43-7	30-22	R1229	壘土中	鉢	口縁	羽状縄文 LR	晚期中葉後半
43-8	30-23	R101	埴土中	深鉢	口縁		
43-9	30-24	R101	壘土中	深鉢	口縁	区画沿線 すりけし LR	中期後~末葉
43-10	30-25	R101	埴土中	深鉢	口縁	内削ぎ 区画沈線	中期後葉
43-11	30-26	R101	壘土中	不明	口縁		晚期前葉
43-12	30-27	R102	埴土中	深鉢	口縁	ひこう 沈線	後期
43-13	31-1	R102またはR104	壘土中	鉢	立体	LR	
43-14	31-2	R102	埴土中	深鉢	口縁	帯状文 橢円沈線	後期中葉
43-15	31-3	R102	壘土中	鉢	胸片	突起 沈線	後期
43-16	31-4	R103	壘土中	深鉢	口縁~胴	羽状縦文 たすきがけ	後期
44-1	31-5	1号墳設土器		深鉢	立体	LR 横回軸+斜凹輪など	晚期
44-2	31-6	2号墳設土器		深鉢	立体	LR 横回軸+斜縦文	
45-1	32-1	3号墳設土器		深鉢大		やや内湾 RL单筋横回軸	後期中葉?
45-3	32-3	4号墳設土器		深鉢大		やや内湾 LR单筋横回軸	
45-4	32-4	4号墳設土器		深鉢	完形	突起 やや内湾 LR出筋横回軸 斜縦文	(後期)晩?
46-1	33-1	II区北 塗色土		小深鉢	立体	波状口唇 RL すりけし縦文	晚期
46-2	33-2	II5e		深鉢	口縁	波状 RL すりけし	後期中葉
46-3	33-3	II5e		鉢	口縁~底	すりけし 波状文 RL	
46-4	33-4	II5e		浅鉢		沈線 RL	
46-5	33-5	II5e		鉢	口縁	RL 槌沈縦	後期中葉
46-6	33-6	II5f 南		鉢	口縁	LR 模彷彿	後期中葉
46-7	33-7	II5f 南		深鉢	口縁	波状口唇 波状文 RL 刺突	
46-8	33-8	II3d 塗色土中		深鉢	口縁	角状突起 刃部突起	晚期前葉後半
46-9	33-9	II5f 黒褐色		鉢	口縁	RL すりけし	後期中葉
46-10	33-10	V区北 黒褐色		台付浅鉢	周	波状 小穴 上字文	弥生
46-11	33-11	II7c 塗色十輪出面		深鉢	口縁	角状突起 波状文	後期後葉
46-12	33-12	II5e 塗色土		不明		不明	
46-13	33-13	II3b 黒褐色		ミニチュア	山縁	沈線	

遺物觀察表（土器・土製品）－7

図版	写真版	出土地點	層位	器種	部位	文様	その他	分類
46-14	33-14	II 7 黒色土	注口	口縁	無文	無文		晚期
46-15	33-15	II 4d 棕褐色土+4	浅鉢	立体	無文	すりけしによる丸線	LR	晚前期後半
46-16	33-16	III 区北 黑褐色土	台付	底	無文			
46-17	33-17	II 区北 黑褐色土下	ミニチュア体	口縁	刺突文	RLR 二重み		
46-18	33-18	II 5c 棕褐色土	蓋	口縁	波状山唇 沈線			晚期中期
46-19	33-19	II 5e 塵土	不明	口縁	刺突			
46-20	33-20	III 区 檻出面	台付	台	波状文 台部左伝			
46-21	33-21	II 5e 棕褐色土	深鉢	口縁	口輪大波状 みがき			後期後葉
46-22	33-22	III 区北 黑褐色土	蓋	底	無文			
47-1	33-23	II 5e 檻出面下黑色土下	深鉢	立体	すりけし LR			
47-2	34-1	II 5f 黑褐色土	深鉢	底	刺~底			
47-3	34-2	II 6e~II 6f 壁十	鉢	口縁	LR			
47-4	34-3	II 3b 黑褐色土中	深鉢	底	刺~底			
47-5	34-4	不明	深鉢	底	無文			
47-6	34-5	II 7d 壁十上褐色土	鉢	底	無文	底面に沈線		晚期後葉
47-7	34-6	II 5f 塵土	ミニチュア	完形	無文			
47-8	34-7	II 6e~II 6f 壁土	鉢	口縁	波状口唇 入組文			晚期前葉前半
47-9	34-8	P1738 壁土+4	鉢	口縁	突起 C字側			弥生(晚期) ?
47-10	34-9	不明	深鉢	口縁	波状山唇 刺目 沈線	RL		後期中葉後期中葉
47-11	34-10	II 5e 黑褐色土	鉢	口	刻口			後期中葉
47-12	34-11	II 区北 黑褐色土(炭化)	深鉢	口縁	波状口唇			後期初頭
47-13	34-12	III 区北 黑褐色土	不明	口縁	刻目 壁面沈線			
47-14	34-13	柱穴 黑褐色	鉢	口縁	突起 RL			
47-15	34-14	II 5f 棕褐色土	不明	片	小穴 無文			弥生(晚期) ?
47-16	34-15	II 区北 黑土	小型十器	口縁	すりけし 編文			
48-1	34-16	II 区北 8 黑褐色土	注口	口	無文			晚期初期
48-2	34-17	II 6e~II 6f 棕褐色土	深鉢	口縁	突起 沈線			後期後葉
48-3	34-18	III 区北 黑褐色土	小型注口	口縫	小尖端4 断続した沈線	赤峰		
48-4	34-19	II 5f 檻出面	深鉢	口縫	波状編文			後期
48-5	34-20	II 9 檻出面	ミニチュア鉢	底	縹文			
48-6	34-21	II 26e	鉢	口縫	LR			
48-7	35-1	II 5c 棕褐色土	鉢	口縫	みがき LR			
48-8	35-2	柱穴 黑褐色	鉢	口縫				

## 遺物觀察表（土器・土製品）－8

図版	写真図版	出土地点	肩位	器種	部位	文様・その他	分類
48-9	35-3	Ⅲ区	黒褐色土:	小深鉢	胸~底	無文	晚頭?
48-10	35-4	不明		鉢	口縁	無文	晚頭前葉
48-11	35-6	Ⅱ6c~Ⅱ6f	東検出面	小鉢	立体	縄文の上から浅縞 半圓状文	晚頭前葉
48-12	35-6	不明		小鉢	口縁や内側	口縁や内側	後期中葉
48-13	35-7	Ⅱ6c~Ⅱ6f	検出面	小鉢	立体	RL	後期後葉
48-14	35-8	Ⅱ6c	褐色土:	深鉢	完形	波状口唇 線沈縞 摺刻目LR	後期後葉
48-15	35-9	Ⅱ6e~Ⅱ6f	壇上	鉢	立柱	刻目による入組文 平行沈縞	後期中葉
49-1	35-10	Ⅱ5d	褐色土(炭化物)	鉢	口縁	刻目による刻口 平行沈縞	後期中葉
49-2	35-11	不明		鉢	胸	「」文	後期後葉
49-3	35-12	Ⅱ区北	黒色土	台付鉢	台	弦線文 哭起	後期後葉
49-4	35-13	Ⅱ5c	壇上	鉢	口縁	半圓状文	晚頭前葉後半
49-5	35-14	Ⅱ6c~Ⅱ6f	黒褐色土上	不明	口縁	すかし技法	晚頭前葉前半
49-6	35-15	Ⅱ6c~Ⅱ6f	壇上	鉢	口縁	突起 刻口 三叉文 赤塗り	晚頭前葉
49-7	35-16	Ⅱ6c~Ⅱ6f	壇上	注口	口縁	刻目 三叉文 赤塗り	後期前葉前半
49-8	35-17	Ⅱ5f	褐色土	注口	胸	「」文	後期前葉前半
49-9	35-18	Ⅱ7c	褐色土检出面	注口	口唇~胴	突起 刻目 沈縞によるC字文	後期前葉後半
49-10	35-19	Ⅲ区北	黒褐色土:	鉢	口縁	平行沈縞	晚頭前葉
49-11	35-20	Ⅱ6c~Ⅱ6f		不明	片	すかし技法 細文	後期前葉
49-12	35-21	Ⅱ6c~Ⅱ6f	東検出面	鉢	口縁	葉形文 橢沈縞 すりけし	後期中葉前半
49-13	35-22	Ⅱ5f		不明	口縁	波状口唇 LR 流線状多次線	後期前葉
49-14	35-23	Ⅲ区南	黒色土:中	鉢	口縁	丁字文	弦線文
49-15	35-24	Ⅱ5d	褐色土	深鉢	口縁	みがき 沈縞による「」字文 内側沈縞	後期木葉(弥生)
49-16	35-25	Ⅱ6c~Ⅱ6f	東検出面	鉢	内側沈縞 哭起2 工字文		後期末葉
49-17	36-1	Ⅱ5e	上灰	口縁	上半身	刺突	
49-18	36-2	Ⅱ5f	左下	十圓	下半身	刺突	
49-19	36-3	Ⅱ7d	壇上:位	注口	口	沈縞	
49-20	36-4	Ⅱ7d	壇上:位	不明			
49-21	36-5	Ⅱ7d	褐色土:	土鍋		江綱	
49-22	36-6	Ⅱ区	黒色土	ミニチュア		無文	
49-23	35-7	Ⅱ8d	檢出面	ミニチュア	立体	無文	
49-24	36-8	Ⅱ6c	検出面下褐色土	ミニチュア	口	台脚未完成	
49-25	36-9	Ⅱ6d	褐色土	円盤		RL縄文	
49-26	36-10	Ⅱ7d	壇上:位	円盤		縄文	

遺物觀察表（石器・石製品）－9

図	版	写真図版	出	十	地	点	層	位	器	種	種	最大長(w)	最大幅(a)	重	量(g)	備	考
32-7	22-7	RA01北	黒褐色土	石楠	石楠					3.1	5.8	1.2	15.9	珪質頁岩	北上山地		
32-8	22-8	RA01北	黒褐色土	石楠	石楠					6.1	4.1	2.5	107.3	ハシレイ岩	北部北上山地		
33-18	23-18	RA02	黒褐色土	石楠	石楠					2.1	1.0	0.5	0.9	めのう	北上山地		
34-18	24-18	RA03北	則土	円形掘器	石楠					2.9	2.7	1.2	8.8	珪質頁岩	北上山地		
35-1	24-19	RA03	則土	凹下位	凹石	(11.0)				(5.9)	4.0	400.0	ヒン岩	北上山地			
36-12	26-9	RA04	黒土中～下位	板石	板石					12.3	5.7	2.4	279.7	ヒン岩	北上山地		
36-13	26-10	RA04	黒土中～下位	円石	板石					10.8	7.3	4.3	533.6	ヒン岩	北上山地		
38-17	27-20	RA13下左	土坑	磨製石斧	石劍	(9.7)				(4.1)	2.2	129.5	角形ヒン岩	北上山地			
39-11	28-11	RD06	埋土上位	板石	石劍					18.2	5.6	5.2	846.9	ヒン岩	北上山地		
40-12	29-5	RD08	埋土上位	石鍬	石劍					4.9	0.8	0.6	2.0	頁岩	北上山地		
43-3	30-18	RD27	埋土	板石	石劍					9.0	5.9	0.5	465.2	ハシレイ岩	北上山地		
45-2	32-2	3号埋土	埋土	石鍬	石劍					2.0	1.3	0.3	0.5	珪質頁岩	北上山地		
45-5	32-5	Ⅱ区溝状遺構	褐色土砂	石劍	石劍					3.3	5.1	0.5	9.2	頁岩	北上山地		
45-6	32-6	Ⅱ区溝状遺構	褐色土砂	石劍	石劍					11.6	3.1	1.2	81.1	ホルンエリス	北上山地		
50-1	36-11	Ⅱ5d	褐色土	石鍬	石劍					4.4	1.1	0.8	3.1	頁岩	北上山地		
50-2	36-12	Ⅱ5e	埋土中位	石鍬	石劍					4.7	1.0	0.7	3.2	頁岩	北上山地		
50-3	36-13	Ⅱ5f	褐色土中	石鍬	石劍					1.5	1.2	0.3	0.5	黒曜石	赤色珪質頁岩		
50-4	36-14	Ⅱ7d	褐色土(輪山面)	石劍	石劍					4.8	5.4	1.2	21.8	赤色珪質頁岩	北上山地		
50-5	36-15	Ⅱ区北	褐色土	機	機					4.5	5.0	1.1	33.5	珪質頁岩	北上山地		
50-6	36-16	Ⅱ7d	輪山面	石鍬	石鍬					6.6	8.3	2.2	193.3	安山岩	奥羽山脈		
50-7	36-17	Ⅱ7d	埋土褐色土	磨製石斧	石劍	(5.0)				(3.6)	2.3	64.7	砂岩	北上山地			
50-8	36-18	Ⅱ5e	埋土	石斧(ミニチュア)	石劍	(4.2)				(2.4)	0.9	15.7	綠色岩	北上山地			
50-9	36-19	Ⅱ7d	埋土	磨製石斧	石劍	(11.4)				(4.8)	(2.8)	225.6	ヒン岩	北上山地			
50-10	36-20	Ⅱ7d	則土	磨製石斧	石劍					7.5	5.3	3.1	212.2	ハシレイ岩	北部北上山地		
50-11	36-21	Ⅱ8d	輪山面	檢出面	磨製石斧					5.9	4.0	2.9	98.2	ハシレイ岩	北部北上山地		
50-12	36-22	Ⅱ区	不明	磨製石斧	石劍	(7.4)				(6.1)	3.3	223.6	ヒン岩	北上山地			
50-13	36-23	Ⅱ7d	則土上～中位	磨製石斧	石劍					6.2	4.1	2.5	93.4	ハシレイ岩	北部北上山地		
50-14	37-1	Ⅱ5e	則土中位	磨製石斧	石劍					14.0	6.0	2.3	247.3	砂岩	北上山地		
50-15	37-2	Ⅱ7d	墨褐色土中土坑	磨製石斧	石劍					7.9	4.1	2.5	121.5	ハシレイ岩	北部北上山地		
50-16	37-3	Ⅱ7d	埋土褐色土	磨製石斧	石劍					6.0	4.5	2.5	112.7	頁岩	北上山地		
51-1	37-4	Ⅱ7d	褐色土	石皿	石皿	(10.7)				(9.4)	3.5	369.9	安山岩	奥羽山脈			
51-2	37-5	Ⅱ7d	暗褐色土	石皿	石皿	(36.2)				(17.4)	9.0	340.5	安山岩溶岩	第3紀火山			
51-3	37-6	Ⅱ8d	不明	石皿	石皿	(17.4)				(12.4)	7.1	1124.9	安山岩	奥羽山脈			

(参考・引用文献)

岩手県の地名

葛巻町の自然 (平成9年3月30日)

平凡社

葛巻町教育委員会

考古学ライブラリー18

亀ヶ岡式土器

村 越 潔 著

日本原始美術1

縄文土器

山 内 清 男 著

石器分類図録 石器の基礎知識Ⅲ 縄文

鈴 木 道之助 著

葛巻町文化財報告書 第3集 「泥道遺跡」

葛巻町教育委員会

新山権現社遺跡発掘報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書 第188集  
跡岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

是川中遺跡 八戸市埋蔵文化財調査報告書 第82集

青森市教育委員会

縄文の美 是川中遺跡出土岡鑑 土器編

八戸市博物館

亀ヶ岡文化の研究 古代学研究所研究報告 第5集 平成9年度

財團法人古代学協会

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第108集

跡岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

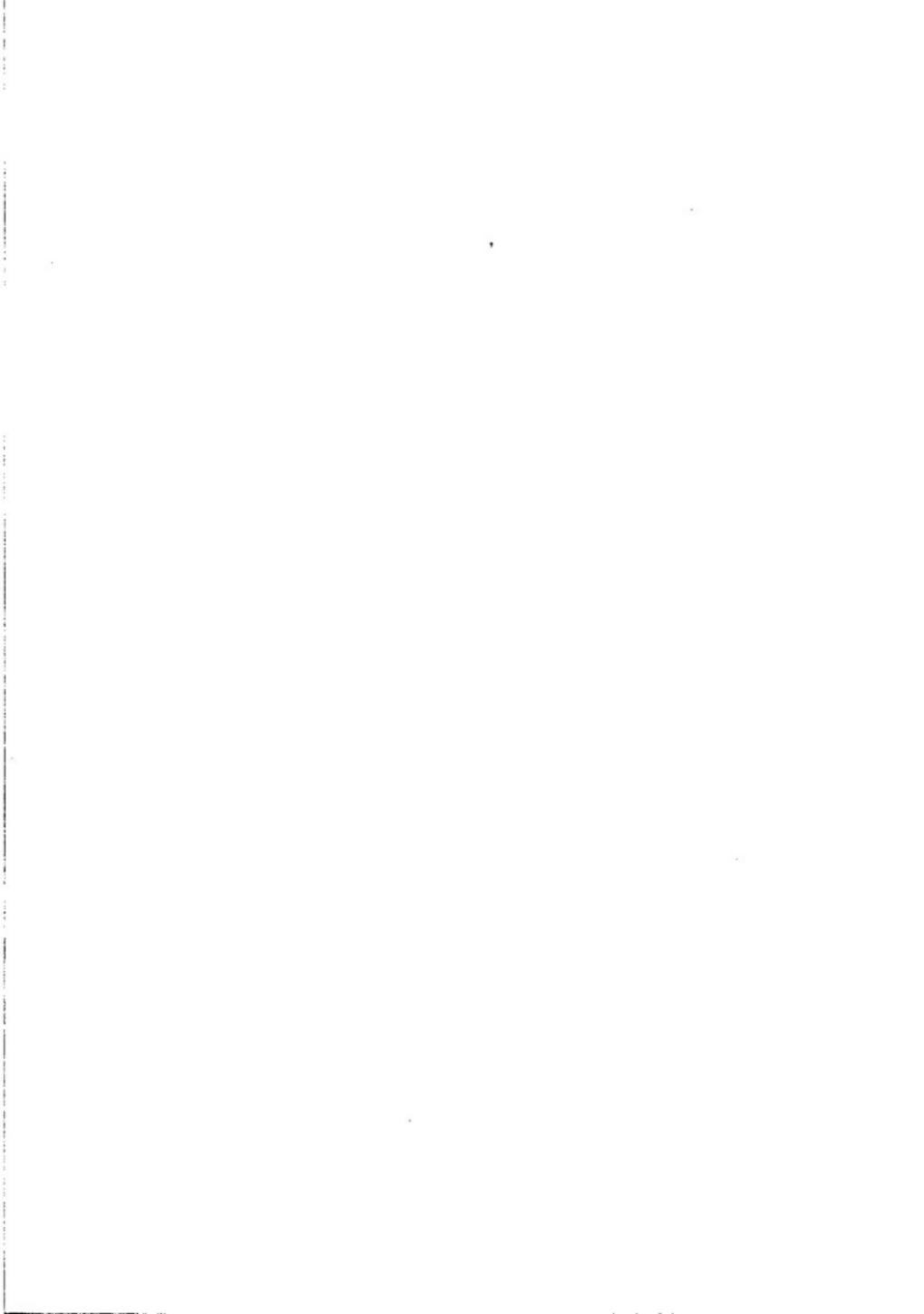
手代森遺跡発掘調査報告書

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第225集

跡岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第2～第5次調査」

# 写 真 図 版





遺跡全景



遺跡近景



II区全景

写真図版1 遺跡遠景・近景・II区全景



II区 完堀



III区 完堀



IV区 完堀



V区北 完堀

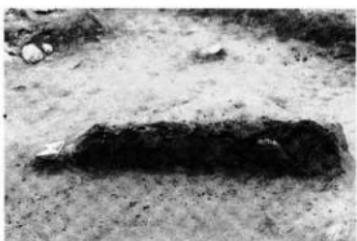


V区南 完堀

写真図版2 各地域完堀



1号焼土 平面



1号焼土 断面



作業風景



2号焼土 断面



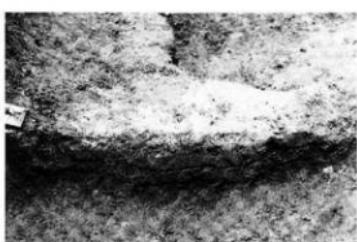
3号焼土 断面



4号焼土 断面



5号焼土 平面

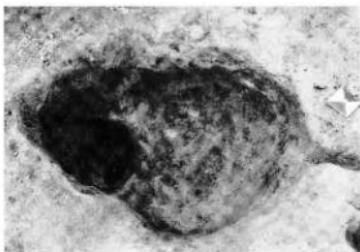


5号焼土 断面

写真図版 3 1~5号焼土



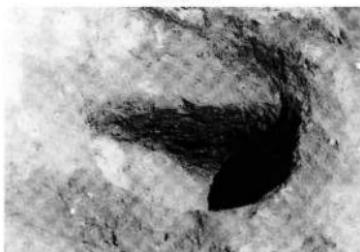
6号焼土



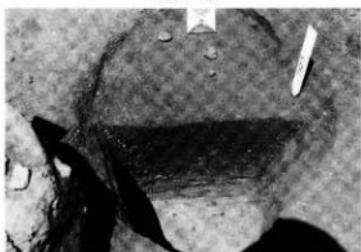
PP22・23



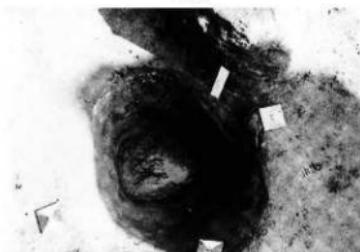
PP22・23



PP24



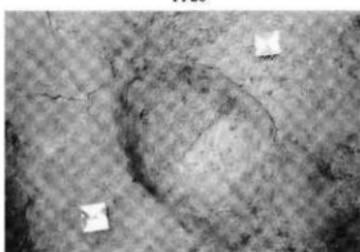
PP25



PP26



PP27

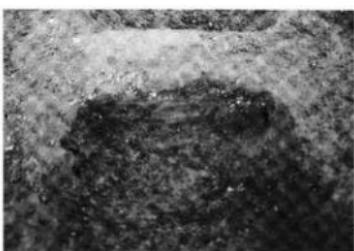


PP28

写真図版4 6号焼土・柱穴状小土坑



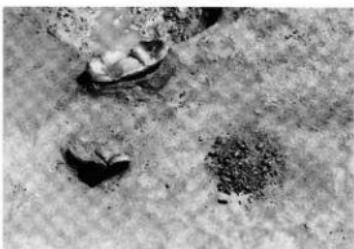
欽間状造構 平面



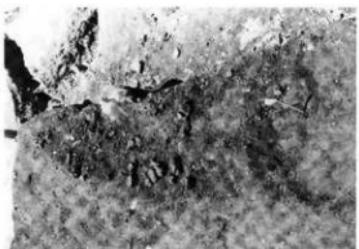
欽間状造構 斜面



遺物出土状況



碗印出土状況



炭化物



I区試掘



II区作業風景



サイロ跡

写真図版 5 欽間状造構・遺物出土状況・他



1号聚穴住居跡 平面



1号聚穴住居跡 断面

写真図版 6 1号穴住居跡



2号竖穴住居跡 平面



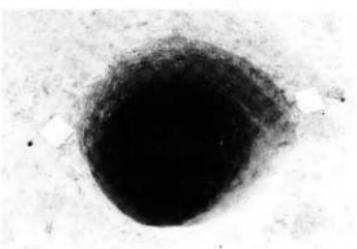
2号竖穴住居跡 断面



2号竖穴住居跡 断面



2号竖穴住居跡 烧土断面



2号竖穴住居跡 PPO2平面

写真図版 7 2号竖穴住居跡

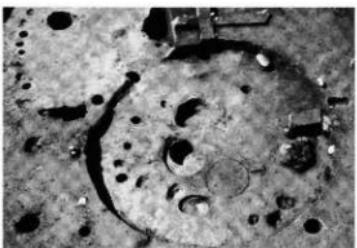


3号竖穴住居跡 平面



3号竖穴住居跡 断面

写真図版 8 3号竖穴住居跡



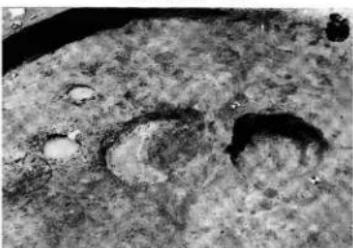
4号竖穴住居跡 平面



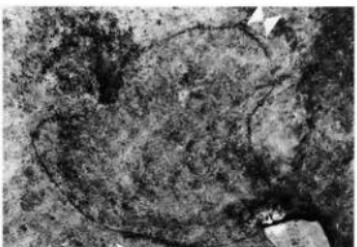
4号竖穴住居跡 断面



4号竖穴住居跡 断面



4号竖穴住居跡 P1・P2平面



4号竖穴住居跡 烧土平面



4号竖穴住居跡 烧土断面

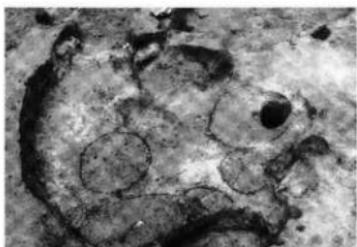


4号竖穴住居跡 土器出土状况



4号竖穴住居跡 土器出土状况

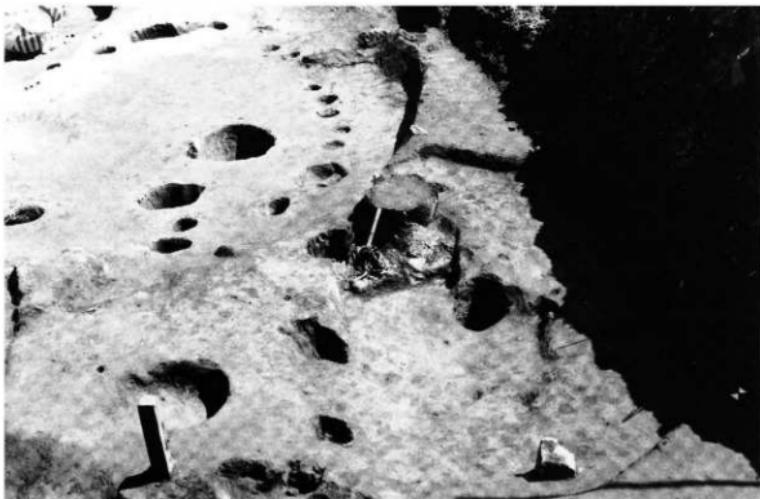
写真図版 9 4号竖穴住居跡



5号竪穴住居跡 平面



5号竪穴住居跡 断面



6号竪穴住居跡 平面



6号竪穴住居跡 断面



6号竪穴住居跡 埋設上部断面

写真図版10 5・6号竪穴住居跡



12号竪穴住居跡 平面



12号竪穴住居跡 断面



12号竪穴住居跡 烟土断面



13号竪穴住居跡 平面

写真図版11 12・13号竪穴住居跡



5号土坑 平面



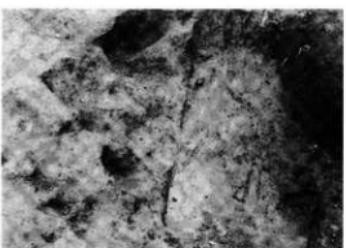
5号土坑 断面



6号土坑 土器出土状况



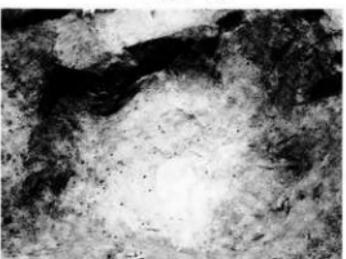
6号土坑 断面



7号土坑 平面



7号土坑 断面



8号土坑 平面



8号土坑 断面

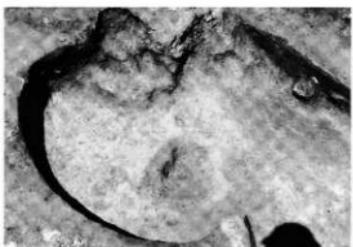
写真圖版12 5~8号土坑



8号土坑 土器出土状况



8号土坑 土器出土状况



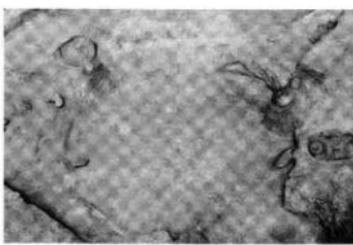
10号土坑 平面



10号土坑 断面



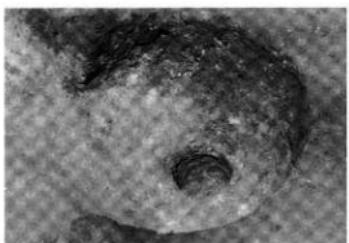
11号土坑 断面



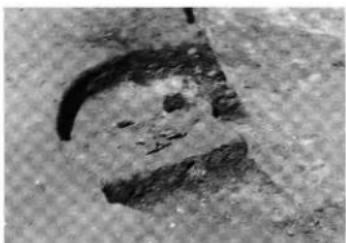
11号土坑 平面



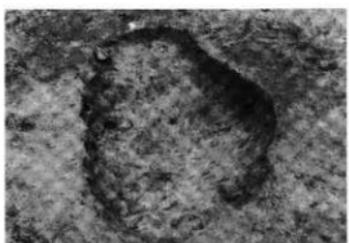
11号土坑 土器出土状况



13号土坑 平面



13号土坑 断面



14号土坑 平面



14号土坑 断面



15号土坑 平面



15号土坑 断面



16号土坑 平面



16号土坑 断面

写真図版14 13~16号土坑



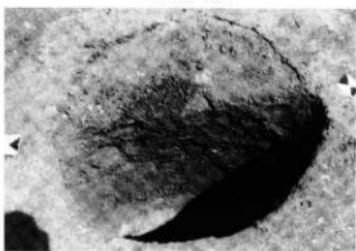
17号土坑 平面



17号土坑 断面



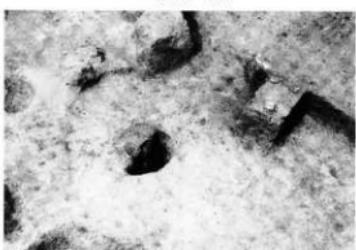
19号土坑 平面



19号土坑 断面



20号土坑 平面



21号土坑 平面



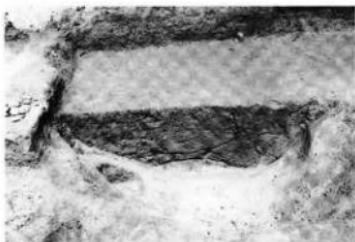
20号土坑 断面

21号土坑 断面

写真图版15 17·19·20·21号土坑



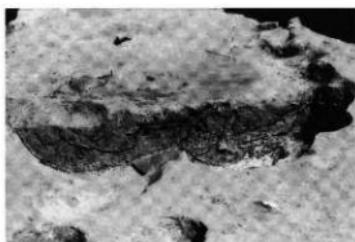
25号土坑 平面



25号土坑 断面



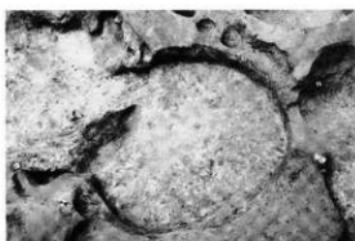
26号土坑 平面



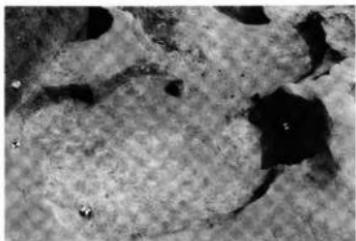
26号土坑 断面



27号土坑 平面



28号土坑 平面



29号土坑 平面



29号土坑 断面

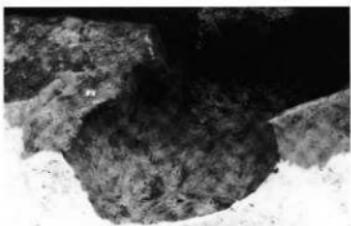
写真図版16 25~29号土坑



30号土坑 平面



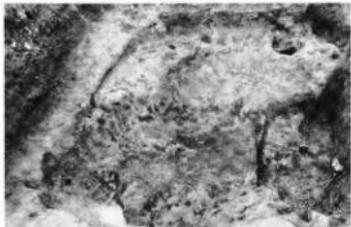
30号土坑 断面



31号土坑 平面



31号土坑 断面

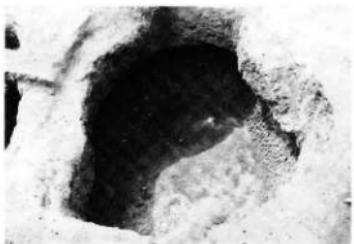


32号土坑 平面



32号土坑 断面

写真図版17 30~32号土坑



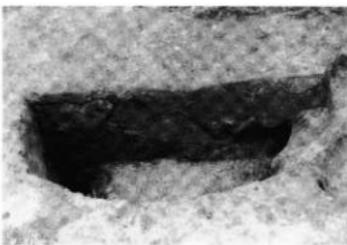
1号墓塘 平面



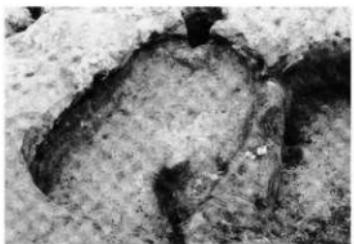
1号墓塘 断面



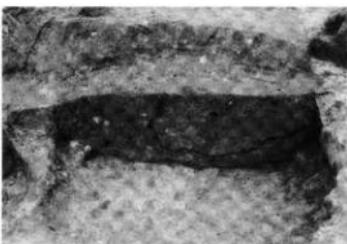
2号墓塘 平面



2号墓塘 断面



3号墓塘 平面



3号墓塘 断面



4号墓塘 平面



4号墓塘 断面

写真図版18 1～4号基塘



5号墓器 平面



5号墓器 断面



1号埋設土器 平面



1号埋設土器 断面



2号埋設土器 断面



2号埋設土器 平面

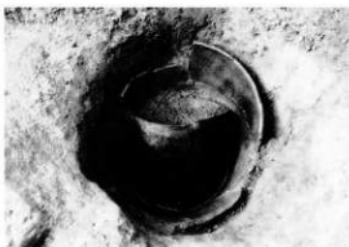


3号埋設土器 平面

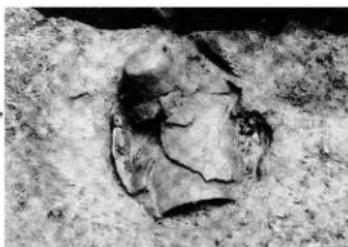


3号埋設土器 断面

写真図版19 5号墓器・1～3号埋設土器



4号埋設土器



4号埋設土器



埋設土器例

写真図版20 4号埋設土器・埋設土器例



掘立柱建物跡



2・3柱穴 断面



配石遺構



溝跡 平面



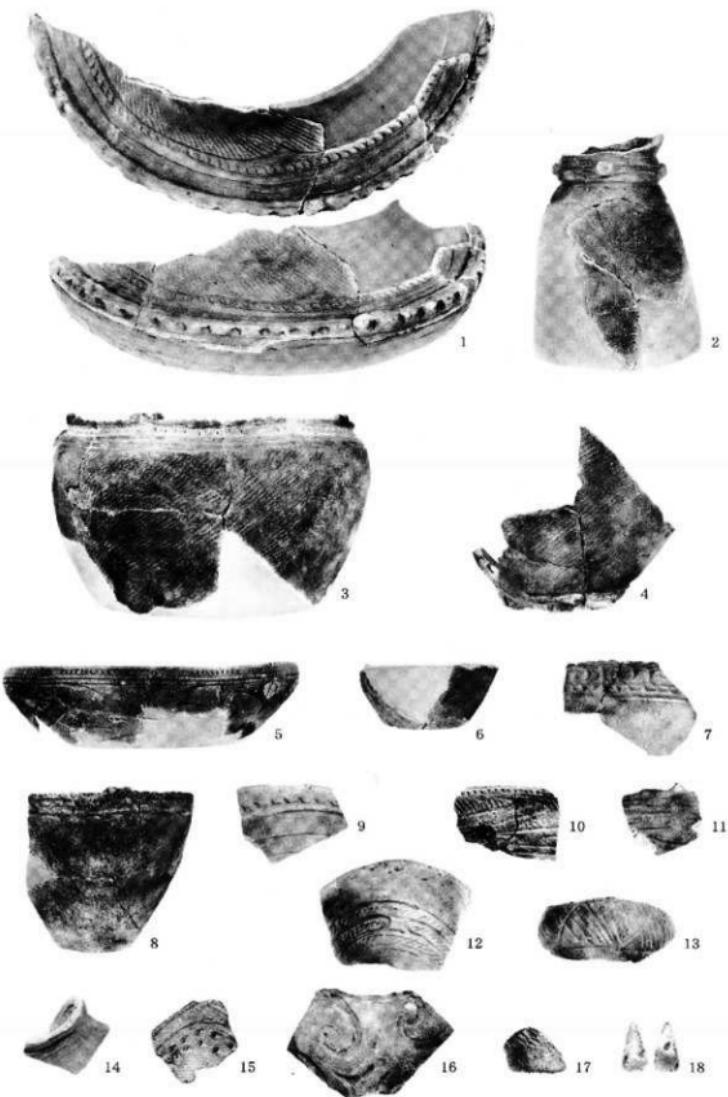
溝跡 断面

写真図版21 掘立柱建物跡・柱穴・配石遺構・溝跡



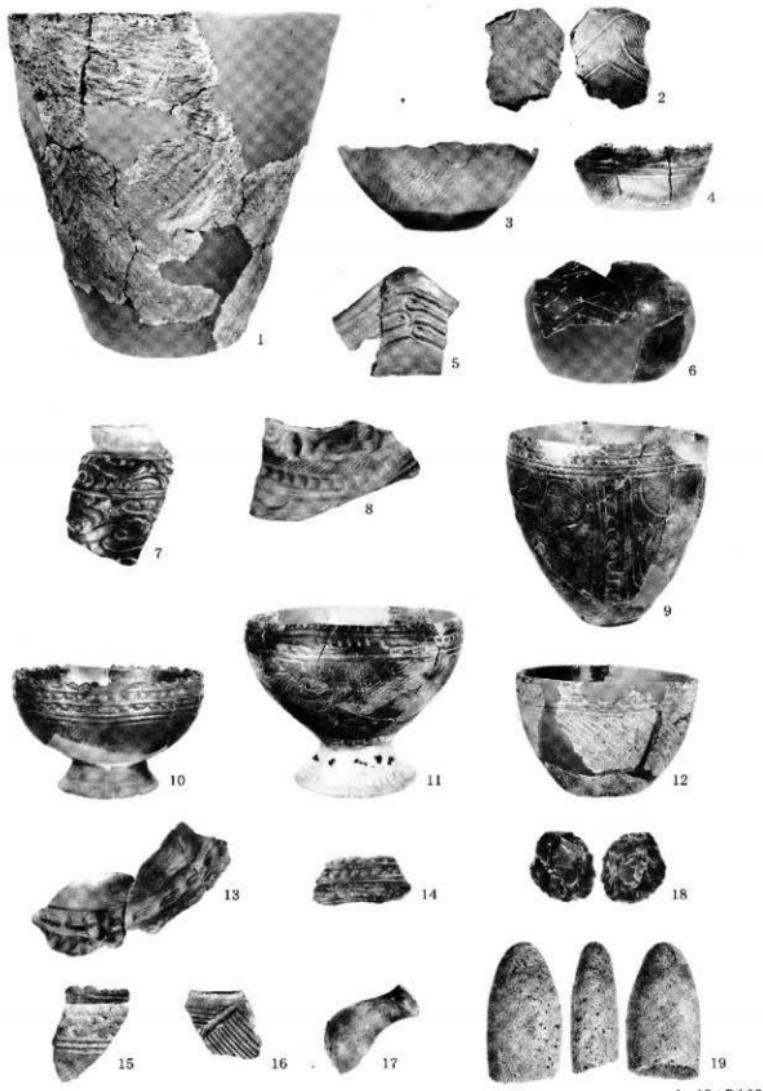
1 : RF01  
2-8 : RA01  
9-10 : RA02

写真図版22　遺構内出土遺物(1)



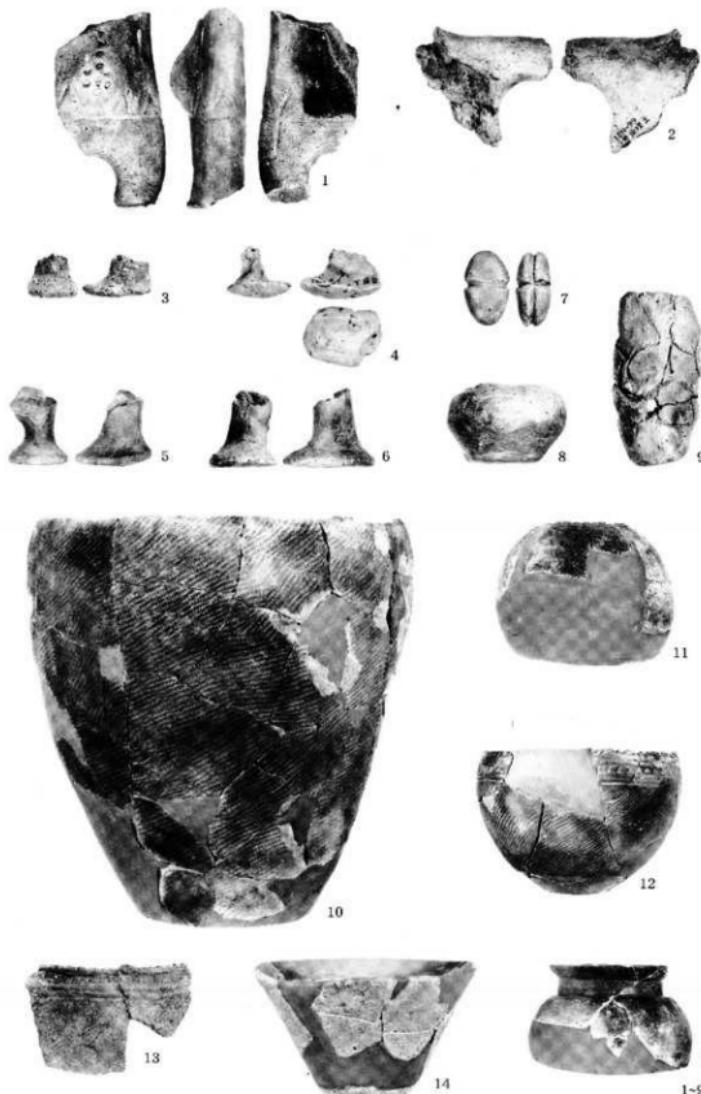
写真図版23 造構内出土遺物(2)

1-18 : RA02



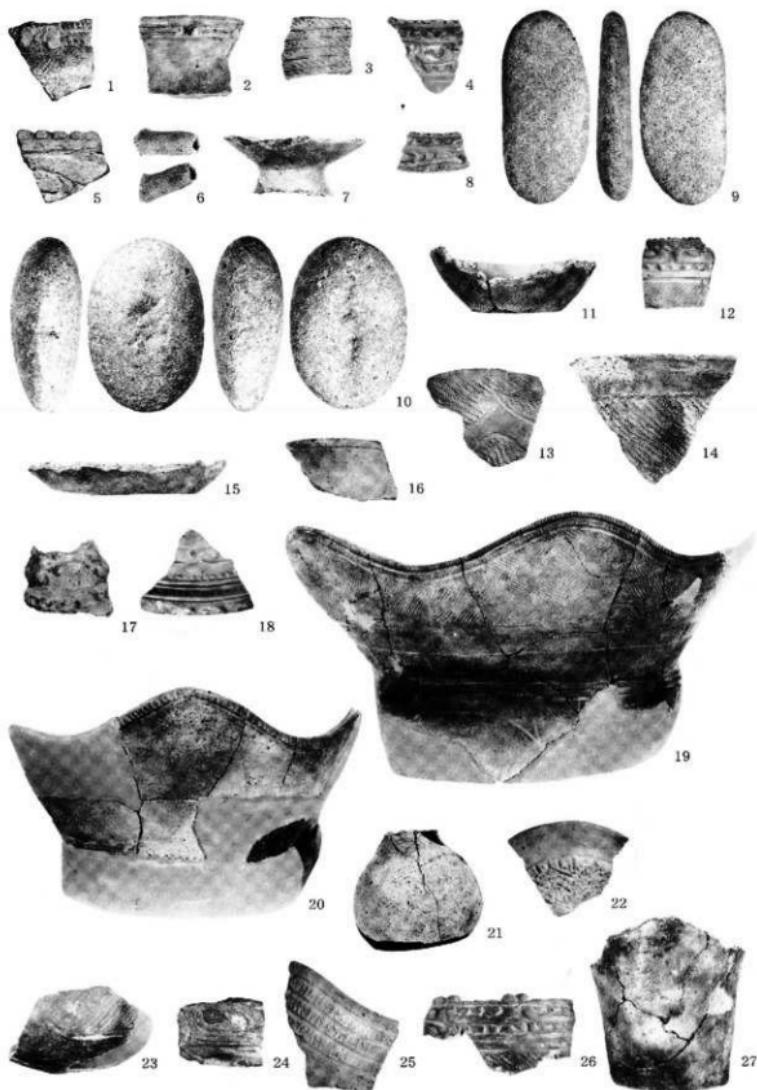
写真図版24 遺構内出土遺物(3)

1~19 : RA03



写真図版25 遺構内出土遺物(4)

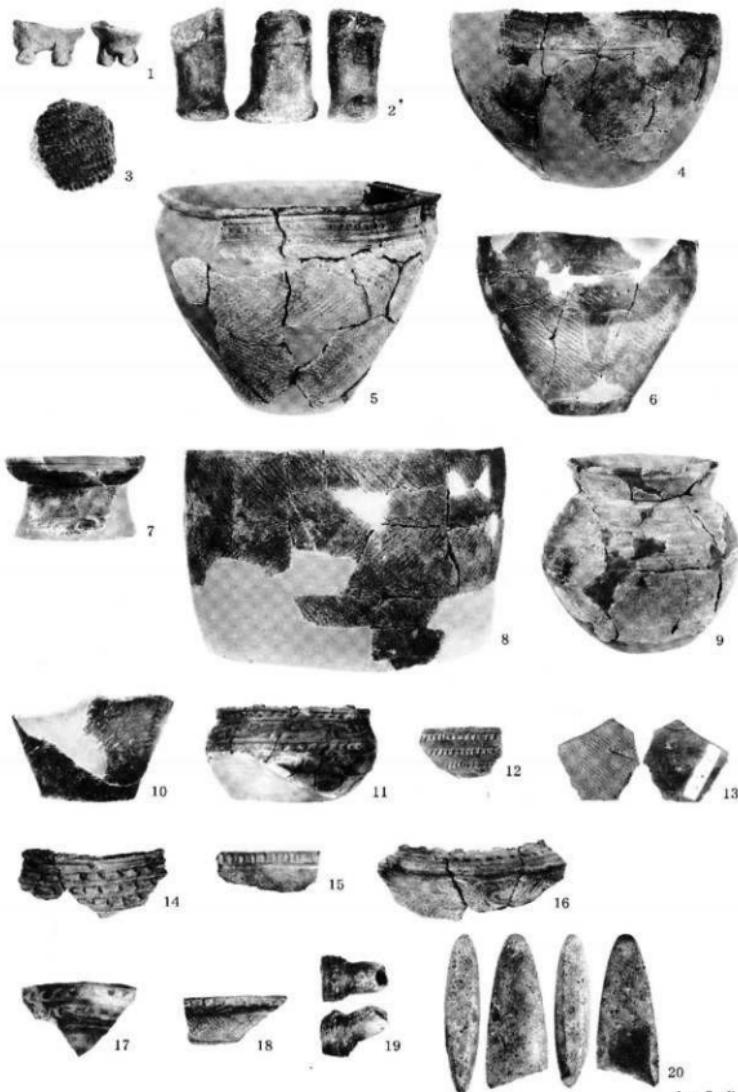
1~9 : RA03  
10~15 : RA04



写真図版26 遺構内出土遺物(5)

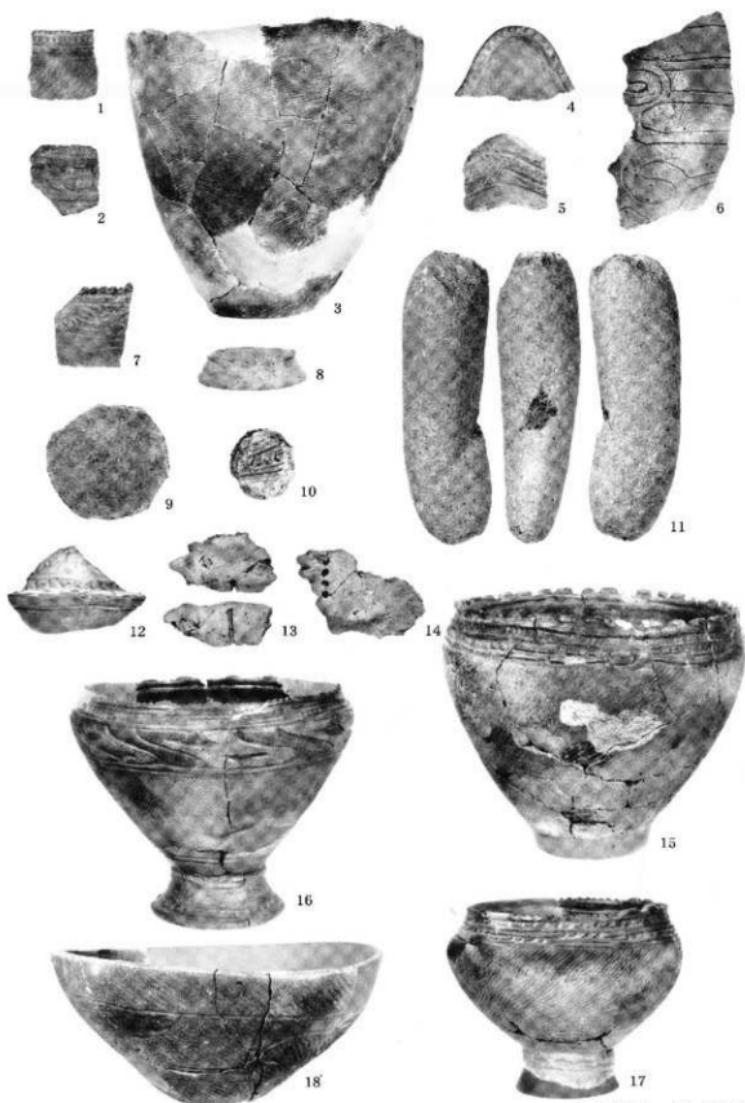
1~10 : RA04 17・18 : RA06

11~16 : RA05 19~27 : RA12



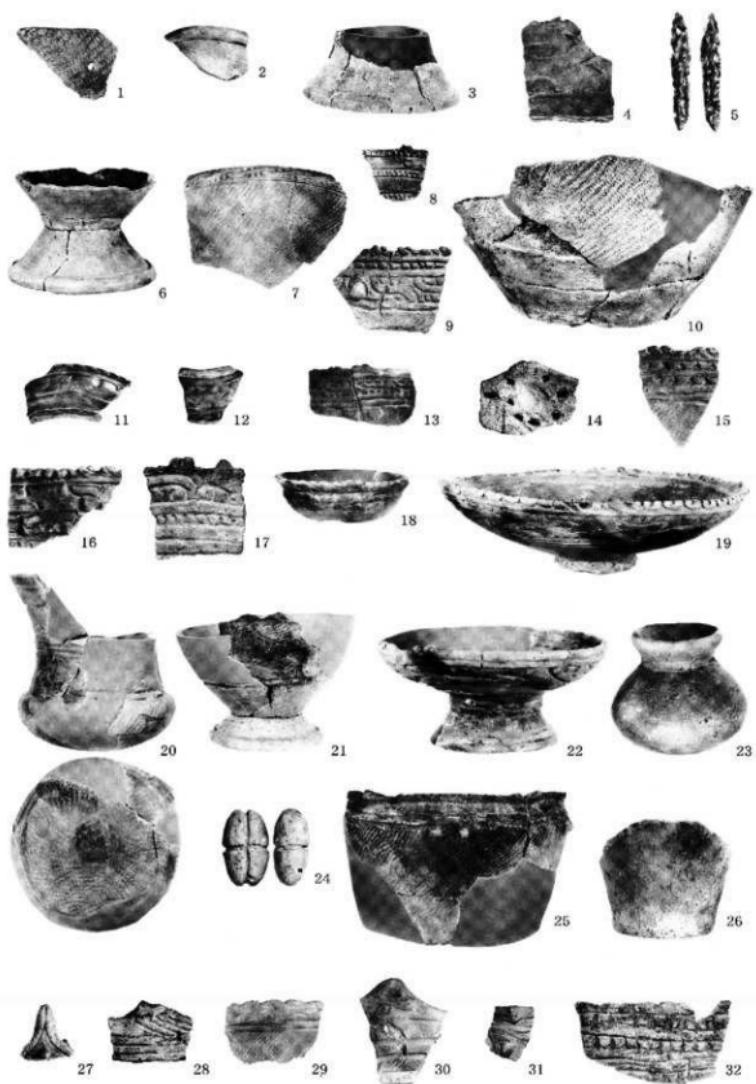
写真図版27 造構内出土遺物(6)

1~3 : RA12  
4~20 : RA13



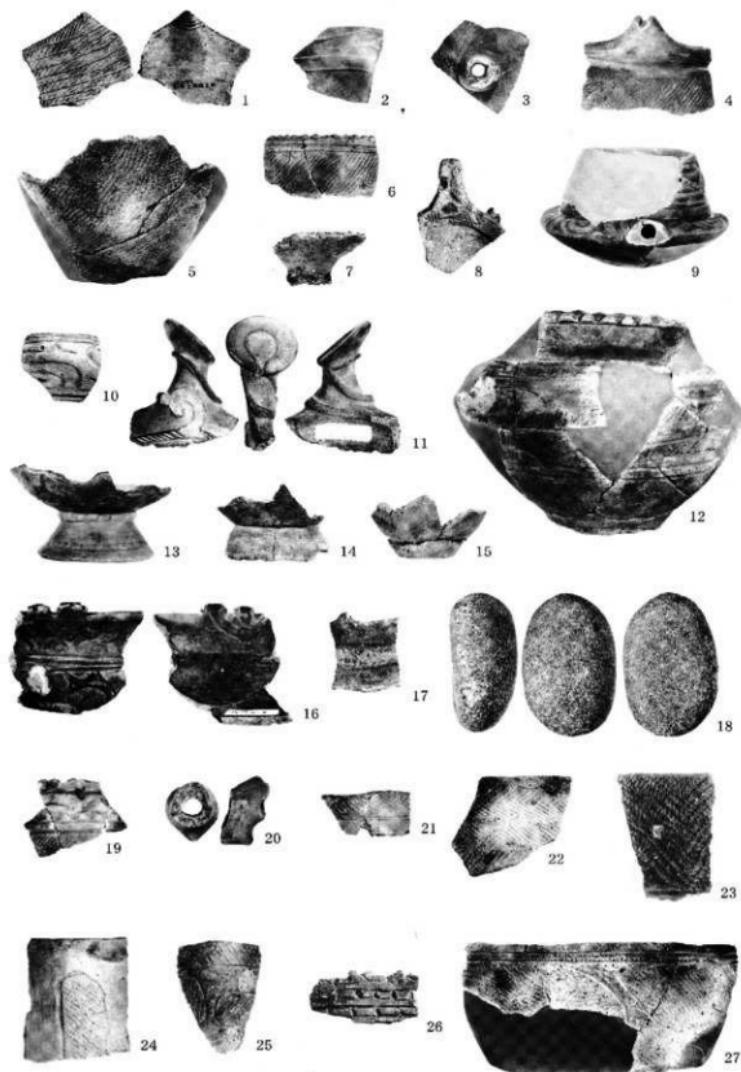
写真図版28 遺構内出土遺物(7)

1・2 : RD05  
3~11 : RD06  
12~18 : RD08



写真図版29 遺構内出土遺物(8)

1~5 : RD08	26~29 : RD14
6~24 : RD11	30・31 : RD16
25 : RD13	32 : RD20



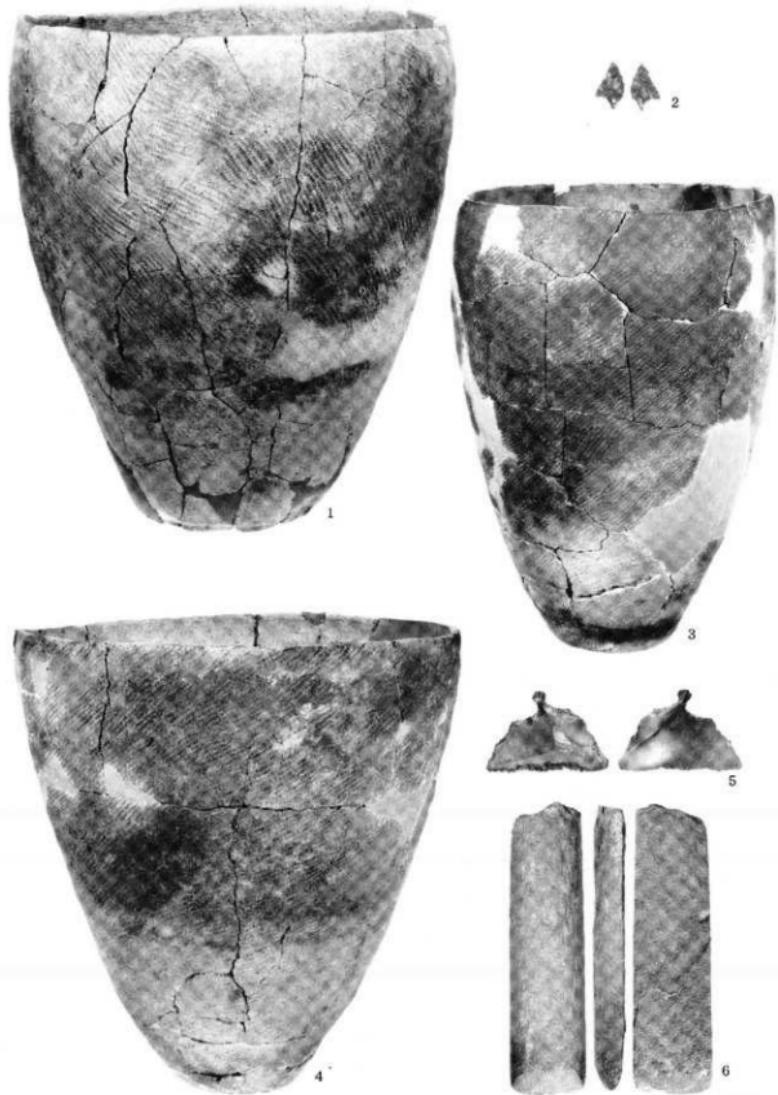
写真図版30 遺構内出土遺物(9)

1~3 : RD21      16~18 : RD27      23~26 : 1号墓壙  
 4 : RD25      19~21 : RD28      27 : 2号または4号墓壙  
 5~15 : RD26      22 : RD29



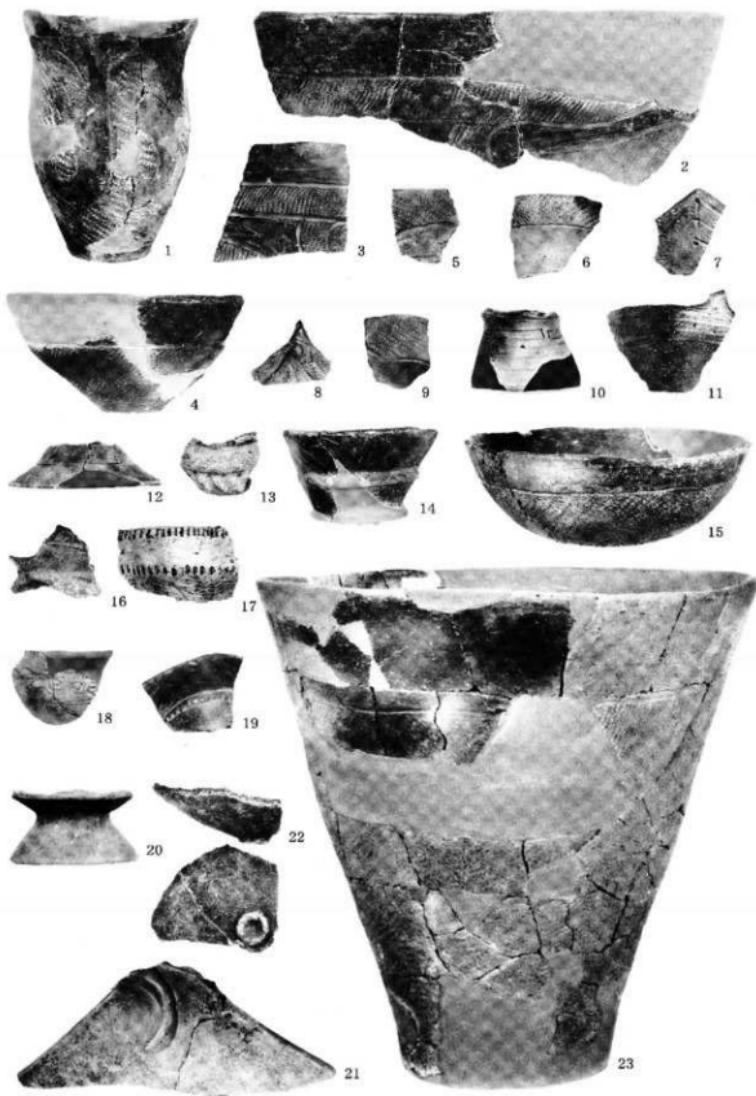
写真図版31 造構内出土遺物(10)

1～3：2号または4号壺  
4：3号基壙  
5：1号埋設土器  
6：2号埋設土器

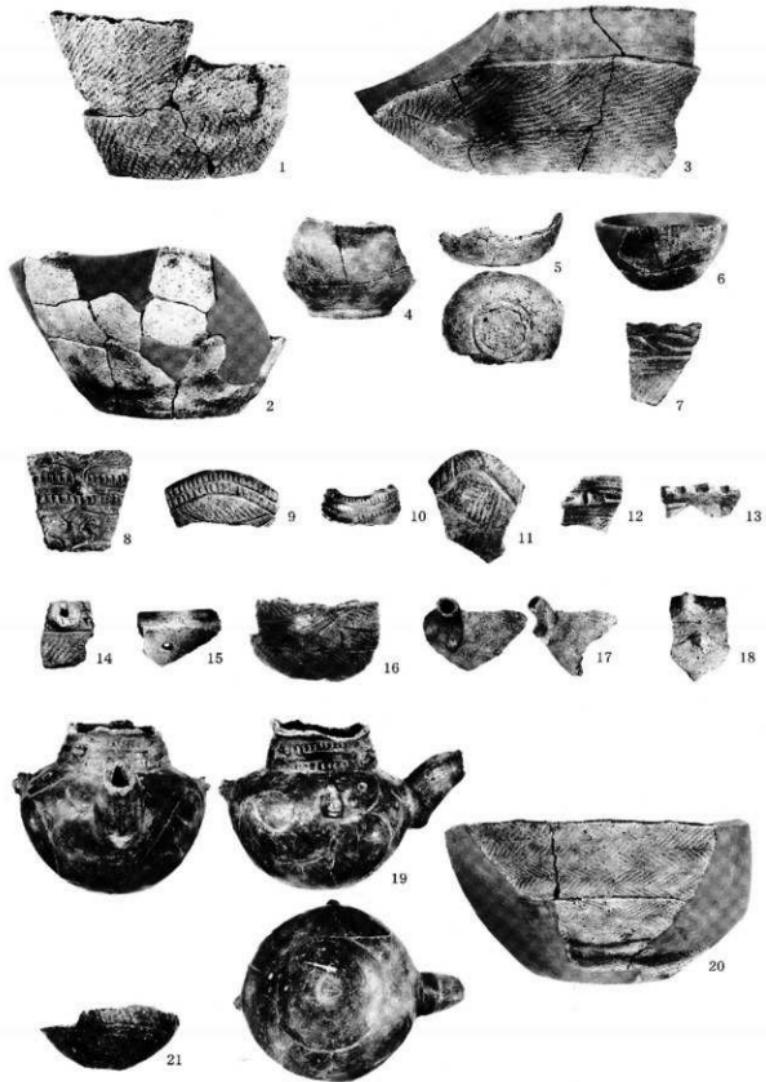


写真図版32 遺構内出土遺物(1)

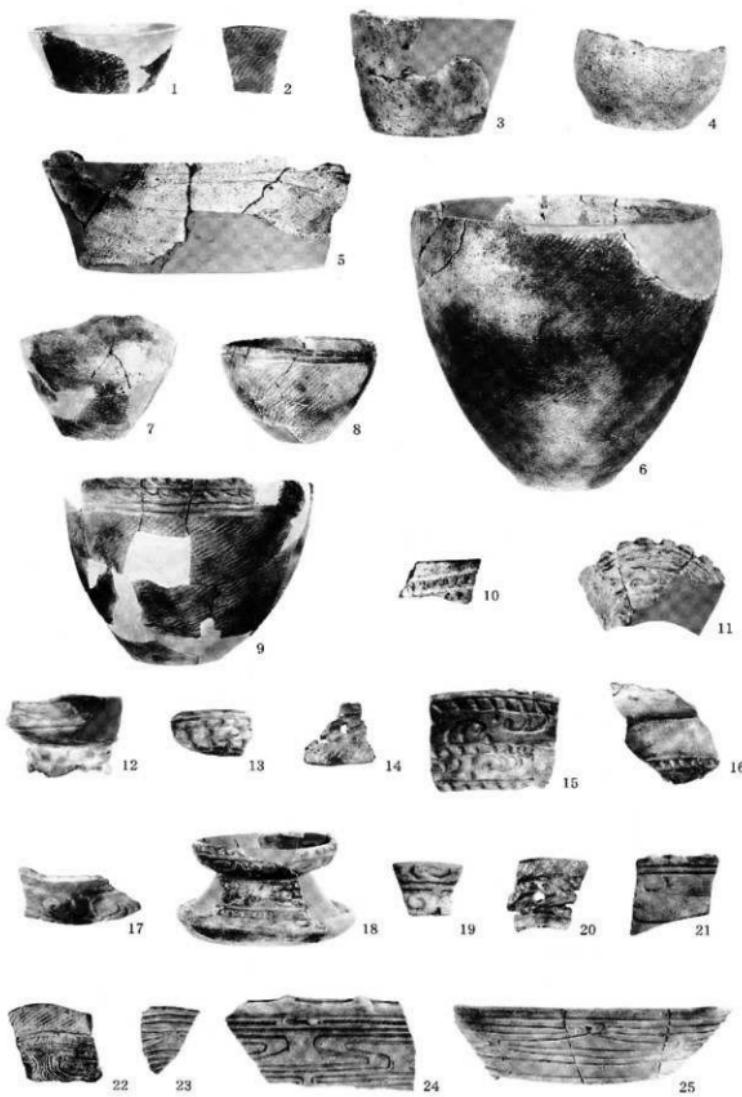
1・2：3号埋設土器  
3・4：4号埋設土器  
5・6：溝状遺構



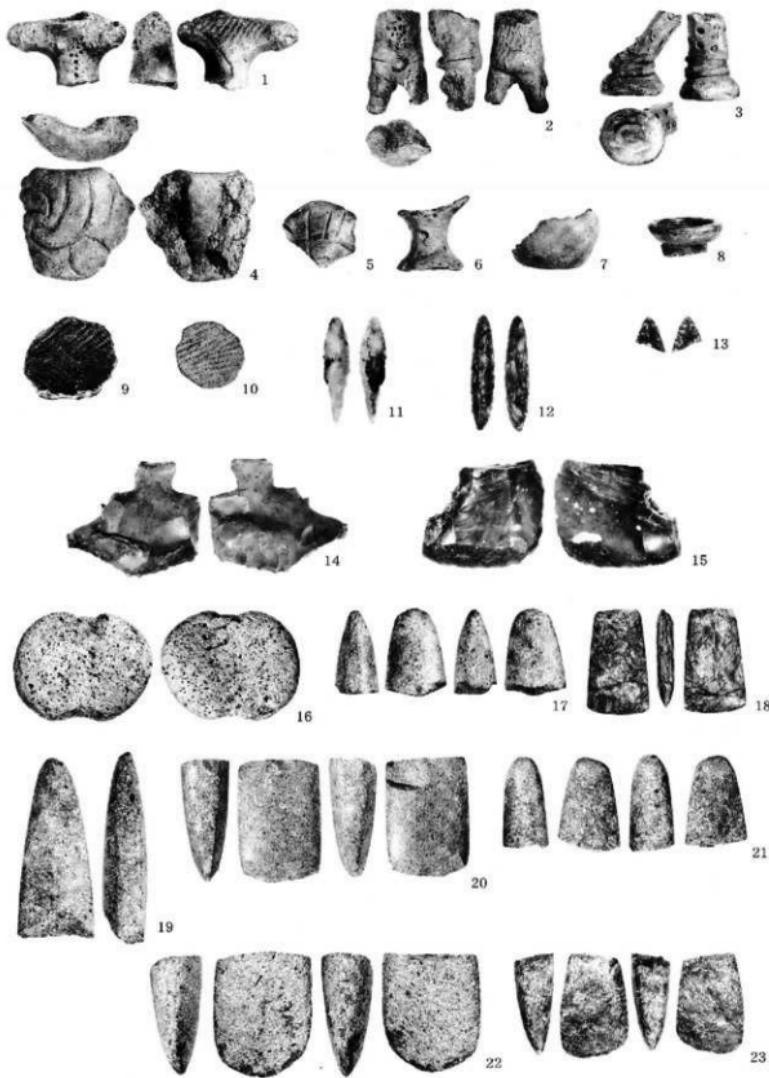
写真図版33 遺構外出土遺物(土器 1)



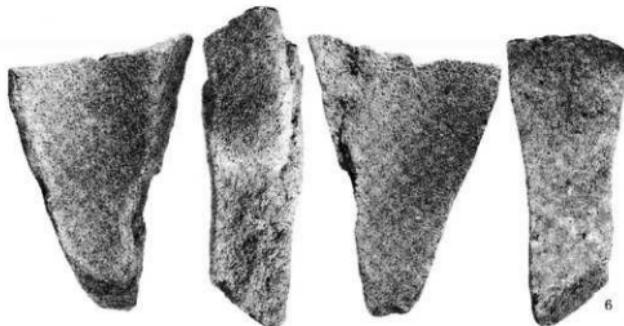
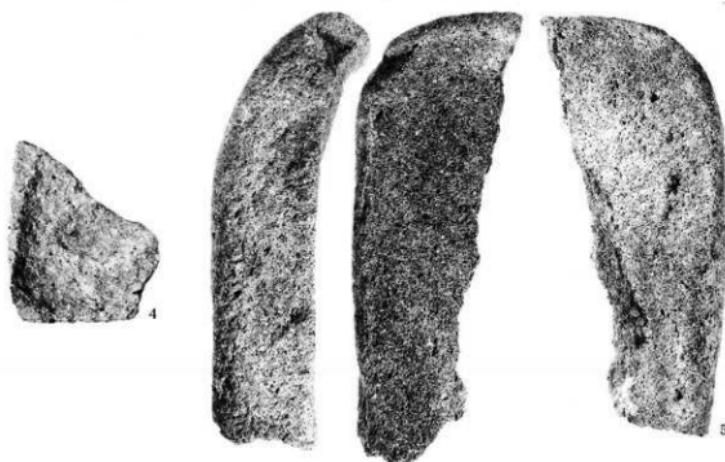
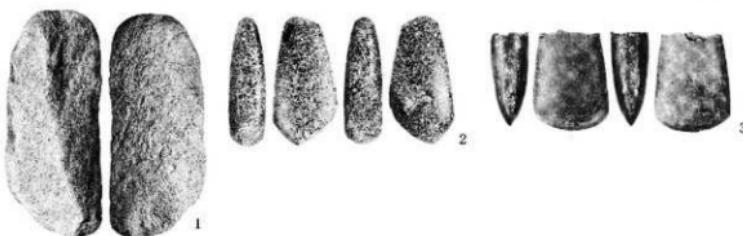
写真図版34 遺構外出土遺物(土器 2)



写真図版35 遺構外出土遺物(土器 3)



写真図版36 遺構外出土遺物(土製品・石器1)



写真図版37 遺構外出土遺物(石器2・石製品)

## 報告書抄録

ふりがな	いちべないいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	市部内遺跡発掘調査報告書							
副書名	主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第350集							
編著者名	中田 達							
編集機関	財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦 2001年 3月 21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
市部内遺跡	市町村	遺 跡 番 号	。	。	。	。	。	
岩手県岩手郡葛巻町 田部子市部内30-1	ほか	03302 JF52-1213	40度 7分 21秒	141度 22分 34秒	19990601 ~ 20000331	2500m <sup>2</sup>	県道一戸 葛巻線道 路改良工 事にとも なう緊急 発掘調査	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項			
市部内遺跡	集落跡	縄文時代 後期 晩期	竪穴住居跡 土坑 墓塚 埋設土器 溝跡 焼土遺構 その他	8棟 22基 5基 5基 1条 7基	縄文土器 石 器 土 製 品 石 製 品	上 偶 琥珀		

財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職員】		副所長 櫻田次男	
所長	伊藤民也	委託	千葉芳夫
(管理係)			
課長	川浪清徳	千葉島恵子	
課長補佐	山崎善光	新田トヨ	
主任	立花多加志	佐々木光重	
主事	日影睦夫		
(調査第一課)		(調査第二課)	
課長	佐々木勝	高橋興右衛門	
課長補佐	佐々木清文	高橋川重紀	
主任文化財専門調査員	小山内透	高橋義介	
文化財専門調査員	赤石登	金子佐知子	
"	吉田充	中田道	迪身澄
"	小原眞一郎	工藤道	半徹
"	小等原眞健	古部道	穂計
"	金野進人	阿松真芳	悟宏
"	鳥居彦昭	尾森前	山紀夫
"	金子淳	工出	兄弟彦
"	東海林淳	岩田早	一彦
"	阿部勝直	岩瀬演	一彦
"	羽柴正人	安田正	太郎
"	小野寺之男	高木淳	昭太郎
"	菅原靖	千佐武	美美
"	長村克	杉中	直雅
"	鈴浩二郎	呈	之
"	菊池貴広	佐藤正	(12月退職)
"	村上拓	半澤	
"	本多準一郎	杉沢	
"	北村忠昭	中村	
"	丸山浩治	星	
"	村木敬	木原	
期限付職員	小林弘卓	吉田徵	
"	江藤敦	吉田勲	
"	藤原實徳(6月退職)	吉田里和	
"	菊池賢	原美津子	
"	井上信介	齊麻紀子	
"	川又晋	島原弘征	
"	吉田真由美		
"	北田博義(11月退職)		

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第350集

## 市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸萬巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

印刷 平成13年3月15日

発行 平成13年3月21日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001

印刷 第一印刷有限会社

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目6-40

TEL (019) 646-6001

---

